

令和7年度シラバス 目次

全授業科目のシラバス（授業計画）

区分	ナンバリング	授業科目名	担当者	単位	学年	開講時期	ページ番号
教養科目	CL10101	生活とかがく	箕浦龍一	2	1	後期	1-2
	CL10102	リズム遊び	渡辺ユリナ	2	1	前期	3-4
	CL10103	情報処理Ⅰ	中村紘也	1	1	前期	5-6
	CL10104	あそび入門	浦中こういち	2	1	前期	7-8
	CL10105	情報処理Ⅱ	中村紘也	1	1	後期	9-10
	CL10106	日本国憲法	中村紘也	2	1	後期	11-12
	CL10201	あそび探究	浦中こういち	2	2	後期	13-14
	CL20101	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	佐々木美紀	1	1	前期	15-16
	CL20102	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	施昶妃	1	1	前期	17-18
	CL20103	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	佐々木美紀	1	1	後期	19-20
	CL20104	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	施昶妃	1	1	後期	21-22
	CL20105	国語表現法	箕浦龍一	2	1	前期	23-24
	CL30101	キャリアデザインⅠ	徳増全矢・鈴木建生・仲森みどり	1	1	後期	25-26
	CL30201	キャリアデザインⅡ	徳増全矢・鈴木建生・仲森みどり	1	2	前期	27-28
	CL40101	スポーツ・レクリエーション実技	平野晃子	1	1	前期	29-30
	CL40102	スポーツ・レクリエーション講義	平野晃子	1	1	後期	31-32
	CL40103	心理学	水野友美	2	1	後期	33-34
	CL60101	ユマニテク教育学	平松喜代江・鈴木建生・徳増全矢	2	1	前期	35-36
専門教育科目	CS10101	教育原理	徳増全矢	2	1	前期	37-38
	CS10102	教育課程論	柴田智世	2	1	前期	39-40
	CS10103	保育原理	南泰代	2	1	後期	41-42
	CS10104	子ども家庭福祉	平松喜代江	2	1	前期	43-44
	CS10105	社会福祉	小倉諒也	2	1	前期	45-46
	CS10106	社会的養護Ⅰ	鈴木聡	2	1	前期	47-48
	CS10107	教職概論	鈴木建生	2	1	後期	49-50
	CS10108	社会的養護Ⅱ	平松喜代江・鈴木聡	1	1	後期	51-52
	CS10109	教育と社会	南泰代	2	1	後期	53-54
	CS10201	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	堀本浩史	2	2	前期	55-56
	CS20101	教育方法と技術	鈴木建生	2	1	前期	57-58
	CS20102	幼児の音楽表現Ⅰ	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐・奥村優	1	1	前期	59-60
	CS20103	幼児の造形表現Ⅰ	安藤恭子・河合延佳	1	1	前期	61-62
	CS20104	保育内容総論	田中裕子	1	1	前期	63-64
	CS20105	幼児の音楽表現Ⅱ	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐・奥村優	1	1	後期	65-66
	CS20106	幼児の造形表現Ⅱ	安藤恭子・河合延佳	1	1	後期	67-68
	CS20107	人間関係指導法	平野晃子	1	1	後期	69-70
	CS20108	言葉指導法	田中裕子	1	1	後期	71-72
	CS20109	表現指導法	中村真緒	1	1	後期	73-74
	CS20201	健康指導法	中村真緒	1	2	前期	75-76
	CS20202	幼児の音楽Ⅰ	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐	1	2	前期	77-78
	CS20203	保育指導法	寺西恵子	2	2	後期	79-80
	CS20204	環境指導法	田中裕子	1	2	前期	81-82

令和7年度シラバス 目次

専 門 教 育 科 目	CS20205	教育相談	水野友美	2	2	後期	83-84
	CS20206	幼児の音楽Ⅱ	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐	1	2	後期	85-86
	CS20207	障がい児の支援	小島佳子	2	2	後期	87-88
	CS20208	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	堀本浩史	2	2	後期	89-90
	CS20209	レクリエーション論	鯖戸善弘	2	2	前期	91-92
	CS30101	基礎ゼミナールⅠ	田中裕子・水野友美・仲森みどり・中村真緒・渡辺ユリナ・平野晃子	1	1	前期	93-94
	CS30102	基礎ゼミナールⅡ	田中裕子・水野友美・仲森みどり・中村真緒・渡辺ユリナ・平野晃子	1	1	後期	95-96
	CS30201	専門ゼミナールⅠ（乳幼児プログラム）	田中裕子・水野友美	1	2	前期	97-98
	CS30201	専門ゼミナールⅠ（障がい児プログラム）	仲森みどり・平野晃子	1	2	前期	99-100
	CS30201	専門ゼミナールⅠ（地域連携プログラム）	中村真緒・渡辺ユリナ	1	2	前期	101-102
	CS30202	専門ゼミナールⅡ（乳幼児プログラム）	田中裕子・水野友美	1	2	後期	103-104
	CS30202	専門ゼミナールⅡ（障がい児プログラム）	仲森みどり・平野晃子	1	2	後期	105-106
	CS30202	専門ゼミナールⅡ（地域連携プログラム）	中村真緒・渡辺ユリナ	1	2	後期	107-108
	CS30203	保育・教職実践演習	平松喜代江・徳増全矢・田中裕子・中村真緒・平野晃子	2	2	後期	109-110
	CS40101	教育心理学	水野友美	2	1	前期	111-112
	CS40102	幼児の言葉	南泰代	1	1	前期	113-114
	CS40103	幼児の健康	平野晃子	1	1	後期	115-116
	CS40104	幼児の環境	徳増全矢	1	1	後期	117-118
	CS40105	子どもの保健	水野友美	2	1	後期	119-120
	CS40106	障がい児保育	仲森みどり	1	1	後期	121-122
	CS40201	幼児の人間関係	平松喜代江	1	2	前期	123-124
	CS40202	特別支援教育論	仲森みどり	1	2	前期	125-126
	CS40203	子どもの理解と発達	水野友美	1	2	前期	127-128
	CS40204	子ども家庭支援の心理学	水野友美	2	2	前期	129-130
	CS40205	子どもの健康と安全	松井雅子	2	2	後期	131-132
	CS40206	乳児保育Ⅰ	山野栄子	2	2	前期	133-134
	CS40207	障がい児の理解	仲森みどり	2	2	前期	135-136
	CS40208	乳幼児の理解	小島佳子	2	2	前期	137-138
	CS40209	子どもの食と栄養	前澤いすず	2	2	通年	139-141
	CS40210	子ども家庭支援論	仲森みどり	2	2	後期	142-143
	CS40211	乳児保育Ⅱ	寺西恵子	1	2	後期	144-145
	CS60101	地域ボランティア実践Ⅰ	徳増全矢・浦中こういち・中村真緒・平野晃子	1	1	前期	146-147
	CS60102	幼稚園教育実習事前事後指導	田中裕子・渡辺ユリナ	1	1	前期	148-149
	CS60103	保育実習指導Ⅰ	徳増全矢・仲森みどり・中村真緒・平野晃子	2	1,2	通年	150-152
	CS60104	幼稚園教育実習Ⅰ	田中裕子・渡辺ユリナ	1	1	後期	153-154
	CS60201	保育実習Ⅰ	徳増全矢・仲森みどり・中村真緒・平野晃子	4	2	前期	155-156
	CS60202	幼稚園教育実習Ⅱ	田中裕子・渡辺ユリナ	3	2	前期	157-158
	CS60203	保育実習指導Ⅱ	徳増全矢・中村真緒	1	2	前期	159-160
	CS60204	保育実習Ⅱ	徳増全矢・中村真緒	2	2	前期	161-162
	CS60205	保育実習指導Ⅲ	仲森みどり・平野晃子	1	2	前期	163-164
	CS60206	保育実習Ⅲ	仲森みどり・平野晃子	2	2	前期	165-166
	CS60207	子育て支援演習	田中裕子・中村真緒	1	2	後期	167-168

科目区分	教養科目	科目名	生活とかがく	担当者	箕浦龍一	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10101	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の到達目標（学修成果）	テーマ：子どもの発達段階における科学的探究心・好奇心の育成 到達目標（学修成果）①：日常生活における科学的な現象を理解し、基本的な科学の原理と概念について説明できる。 到達目標（学修成果）②：幼少期における科学に対する興味や好奇心をどのように支援し、養うかについて説明できる。 到達目標（学修成果）③：日常の生活の中で科学的要素を取り入れた保育プログラムを企画できる。								
授業概要	上記のテーマ・目標は、保育者として子どもたちの豊かな学びの経験を支援し、科学的な思考力や探究心を養うための基盤を築くことに寄与する。これらの実現のためには、まずは保育者自らが、身の回りの自然や現象、環境などに興味・関心を持ち、子どもに寄り添うために必要な土台をつくることが大切である。受講者に、確かな子ども観や子どもを観る眼を確実に獲得できるよう本講義を構成する。これらを十分に達成するために、小学校教諭・学校司書・司書教諭課程講師としての経験と学校教育にファシリテーションの理念・技術を導入することを目的にした研修活動が続けている経験を活かしたい。								
ディプロマポリシー（DP）と到達目標（学修成果）との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎＝DP 達成のために特に重要な項目 ○＝DP 達成のために重要な項目 △＝DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーションと「生活とかがく」の概念理解 「生活とかがく」というテーマと日常生活との関連と魅力等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：シラバスを読んで、授業の全体像を捉える（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
2 回	緑の不思議な旅：植物の成長と生態のミステリー 植物の成長、光合成の仕組み、植物の生態系における役割等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：植物の成長等に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
3 回	動物たちの秘密の生活：彼らの生態系の理解へ 動物の種類、生態系での役割、食物連鎖、適応戦略、動物保護等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：動物の生態に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
4 回	フィールドワーク 自然とのふれあい：観察の技術と記録の方法 実際に野外に出て、様々な生物や植物を観察する方法等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：自然観察の方法についての事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
5 回	水と空気の科学ショー：見えない力の探求 水の性質、空気の圧力、浮力などの物理的な現象の理解等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：水と空気の特性についての事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
6 回	季節の変わり目に科学を見つけよう：気象の謎解き 季節の変化、気象現象の原因等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：風、降水、気象、季節等に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
7 回	食べ物の大冒険：健康へのパスポート 食べ物の消化され、栄養に変わるのか、バランスの良い食事等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：栄養素の種類と役割等に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
8 回	私たちの体内探検隊：健康のメカニズムを知ろう 人間の体の構造と機能、健康を維持するための体の仕組み等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：人体の器官と機能等に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
9 回	生命の不思議：人の誕生 命の始まり、新しい命、お腹の中の様子を見てみると等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：生命誕生に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			
10 回	身の回りの物質とエネルギー：動きの原理を探る 物質の状態変化やエネルギーの形態、エネルギー保存法則等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ					事前：物質の運動法則に関する事前学習（2h） 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る（2h）			

11 回	光と音の冒険：波の世界を探検 光と音が波として伝わる仕組み、反射や屈折、共鳴などの現象等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ	事前：音や光とその伝播等に関する事前学習(2h) 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																																				
12 回	星々の語る物語：宇宙への旅立ち 天体の動き、星座、宇宙の成り立ちと進化等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ	事前：太陽系の構成、惑星等に関する事前学習(2h) 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																																				
13 回	科学とアートの融合：創造性を育む発見 科学的な現象をアート作品として表現する方法等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ	事前：科学的現象を利用したアートの事前学習(2h) 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																																				
14 回	未来の科学者たちへ：思考から実験、教育までの科学プロジェクト 科学的な問い、実験計画の留意点、科学的な保育プログラム等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ	事前：子どもたちの科学的思考についての事前学習(2h) 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																																				
15 回	科学の花を咲かせる保育：子どもたちの好奇心を育むためのアイデア 子どもたちが科学に興味を持つための保育活動や教材の作り方、科学を楽しむためのゲームやプロジェクトの計画・立案等 科学絵本の対話型読み聞かせ、子どもたちと楽しむアクティビティ	事前：これまでの講義内容の復習と総括(2h) 事後：情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																																				
16 回	定期試験																																					
テキスト	特に指定しない。																																					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	参考資料：講義で配布する。「科学絵本・科学読み物」：講義で読み聞かせる。 保育者として、知っておきたいホームページ：講義で紹介する。 個人所有の iPad、PC の使用：Padlet、Miro、Canva など、オンライン掲示板・ホワイトボード、グラフィックデザインツールなど																																					
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</td></tr><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>			【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○						
【到達目標(学修成果)及び観点】																																						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																	
到達目標①	○	○	○																																			
到達目標②		○	○																																			
到達目標③			○	○																																		
評価方法・基準	<table><tr><td colspan="7">【評価方法・基準】</td></tr><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr></table>			【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%	10%			到達目標②	20%		10%	10%			到達目標③	10%		10%	10%		
【評価方法・基準】																																						
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																																
到達目標①	10%		10%	10%																																		
到達目標②	20%		10%	10%																																		
到達目標③	10%		10%	10%																																		
	ループリック評価：取り入れている・ <u>取り入れていない</u>																																					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：講義中・講義前後、講義の振り返り、教室で、または、Teams・メールで質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック：提出物の返却を通して実施します。																																					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：教養科目/外国語、体育以外の科目																																					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	講義の時間中の学びとその振り返りを大切にして講義を進めていたため、予習や復習を行った学生が少なかったという結果が見られたので、次時の講義内容を伝え、予習ができるようにする。																																					
受講生へのメッセージ・その他	毎回の講義で、ペア・グループでの活動(対面、web 上)を行います。それを通して、主体的に学び合いましょう。																																					
実務経験の有無	<u>あり</u> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<u>あり</u> ・ なし																																			

科目区分	教養科目	科目名	リズム遊び	担当者	渡辺ユリナ	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10102	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：遊びを通してリズムに親しみ、音楽表現の基礎を養う 到達目標(学修成果)①：リズムについて理解し、音符を用いて説明できる 到達目標(学修成果)②：身体、言葉、楽器を用いたリズムの表現を考えることができる 到達目標(学修成果)③：リズム遊びの意義を理解した上で、発達に即したリズム遊びを実践できる								
授業概要	遊びを通してリズムに親しむことで、保育現場で行われる様々な音楽表現の基礎を養うことを目的とした授業である。学生自身がリズムを感じ表現することの楽しさを実感すると共に、そうした感覚を子ども達にも伝えられるよう、保育者としてリズム遊びへの理解を深め、表現力を高める。授業ではグループワークを行い、他者と関わりの中でリズム遊びに必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。								
ディプロマ・リソー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション、リズム遊びの目的と意義の説明					事前：保育のリズム遊びについて調べる(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
2 回	リズムの基礎知識					事前：多様なリズムについて調べてまとめる (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
3 回	リズムと身体(1) 試行 (グループワーク)					事前：日常の身体を用いたリズム表現を見つける (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
4 回	リズムと身体(2) 実践 (グループワーク)					事前：リズムに合った動きを考える (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
5 回	リズムと言葉(1) 試行 (グループワーク)					事前：日常の言葉を用いたリズム表現を見つける(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
6 回	リズムと言葉(2) 実践(グループワーク)					事前：言葉に合ったリズムを考える(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
7 回	楽譜の基礎知識					事前：多様なリズムについて調べてまとめる (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
8 回	リズムと楽器(1) 読譜					事前：担当楽器の奏法を調べてまとめる (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
9 回	リズムと楽器(3) 試行(グループワーク)					事前：課題曲の練習 (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
10 回	リズムと楽器(3) 実践(グループワーク)					事前：課題曲の練習 (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
11 回	リズムで表現(1) 考案(グループワーク)					事前：多様なリズムについて調べてまとめる (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
12 回	リズムで表現(2) 試行(グループワーク)					事前：身体、言葉、楽器を用いた表現の練習 (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
13 回	リズムで表現(3) 実践(グループワーク)					事前：身体、言葉、楽器を用いた表現の練習 (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			
14 回	リズムで表現(4) 試行(グループワーク)					事前：身体、言葉、楽器を用いた表現の練習 (2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)			

15 回	リズムで表現 (5) 実践（グループワーク）	事前：身体、言葉、楽器を用いた表現の練習（2h） 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	監修：三瓶令子 共著：那須一彦、鈴木祥子、宮城純一、菅原三謝、柿沼恵美子 現場で生かせる幼児合奏～リズムあそびから発表会まで～ 圭文社(2016)																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標 (学修成果) 及び観点	<div>【到達目標 (学修成果) 及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標 (学修成果) 及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>15%</td><td>15%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td>15%</td><td>10%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①	30%				5%		到達目標②				15%	15%		到達目標③	10%			15%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																								
到達目標①	30%				5%																									
到達目標②				15%	15%																									
到達目標③	10%			15%	10%																									
ループリック評価	ループリック評価： 取り入れている <div>取り入れていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：オフィスアワー 学習成果のフィードバック：課題学習の振り返りは授業の中で講評します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	授業を通して多様なリズムに親しむことで、保育者としての音楽表現の幅が広がります。日常のリズムに着目し、リズム遊びへの理解を深めるために、毎週の事前・事後学習に励みましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <div>なし</div>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	情報処理Ⅰ		担当者	中村紘也		開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10103		資格等取得との関連		幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)		テーマ:情報機器の操作の基礎及び情報の取扱いの注意点を身につける。 到達目標(学修成果)①:短期大学及び社会において必要となる情報リテラシーを身につける。 到達目標(学修成果)②:保育現場で必要となる基本的な情報機器の操作を身につける。 到達目標(学修成果)③:情報の発信及び情報の管理についての知識を身につける。									
授業概要		保育現場においても情報の発信が必要になるが、情報の発信は情報機器を操作して行われることが多い。そこで、保育現場で必要となる基本的な情報機器の操作方法を学んでいく。その過程において、課題解決に向け、必要な情報や知識をインターネット上で調査・収集するなど、PBL(課題解決型学習)を意識した授業を行っていく。また、実習や保育現場においてはアレルギー情報等秘匿性の高い個人情報を取り扱うことになるので、情報の取扱いに関する注意事項を学び、加えて文書作成の基本的知識を修得する。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応		◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
			② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画							時間外学習			
1回	オリエンテーション							事前:テキスト6頁から19頁を概観する。(0.5H) 事後:タッチタイピングの練習(0.5H)			
2回	Wordの基本操作							事前:テキスト1章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
3回	文字の入力							事前:テキスト2章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
4回	文書の作成、印刷 PowerPointの基本操作							事前:テキスト3章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
5回	文書の編集							事前:テキスト4章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
6回	文字の装飾							事前:テキスト5章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
7回	文字の配置							事前:テキスト6章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
8回	編集・装飾・配置を踏まえた文書の作成、印刷							事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:できなかった点について確認する。(0.5H)			
9回	表の作成							事前:テキスト7章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
10回	図形の作成、編集							事前:テキスト8章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
11回	写真等の利用							事前:テキスト9章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
12回	ドロップキャップ等その他の機能							事前:テキスト10章66から74を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
13回	PDFでの保存等その他の機能							事前:テキスト10章75から80を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			

14 回	発展的な文書の作成	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)																												
15 回	文書作成の確認及び印刷設定	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:できなかった点について確認する。(0.5H)																												
16 回	定期試験(実技試験)																													
テキスト	AYURA『今すぐ使えるかんたん Word2024』技術評論社 2025 年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②				○		到達目標③	○								
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②				○																										
到達目標③	○																													
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td><td>15%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td><td>15%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</div>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				15%		到達目標②	20%				15%		到達目標③	20%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				15%																									
到達目標②	20%				15%																									
到達目標③	20%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却する。試験の返却方法は授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:情報機器の操作 保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	情報処理ⅠではWordを中心に講義を進めていきますが、入学までにどれだけパソコンやiPadに触れてきたかで学生間に相当差がありますので、まずは入力の練習をしたり、PowerPoint を使って手遊び動画の作成等を行ったりし、iPad に慣れることから始めていきたいと思います。																													
受講生へのメッセージ・その他	情報機器の使用方法的基礎を学びつつ、実習で必要になるお礼状の書き方などの基礎も学んでいきます。また、情報は取扱い如何によっては自分に不利益に働くこともありますので、その点も学んでいきます。実習や保育現場に直結しますので、がんばりましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="radio"/> なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ <input type="radio"/> なし																											

科目区分	教養科目	科目名	あそび入門	担当者	浦中こういち	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10104	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育現場、実践に活用できる知識や技術、子どものあそびについて学ぶ。 到達目標(学修成果)①:子どもの発達と絵本、シアター等を意欲的に制作し、グループで表現する。 到達目標(学修成果)②:子どもを取り巻くあそび環境について理解し、意欲を持って環境準備ができる。 到達目標(学修成果)③:子どもの経験やさまざまな表現活動を結ぶあそびの展開についての知識と技術が習得できる。								
授業概要	保育士としての現場での経験、現在活動している、絵本作家・あそび作家の経験を活かし、「今」の保育現場、子どもたちの現状「あそび」について理解を深め、その中から子どもたちと共に楽しめるシアター、模倣あそびに繋がる教材等の製作を実際に行い、グループでの演習を行う。保育現場に実際に入った時のことを考え実際に表現することであそびとは？保育とは何かを学ぶ。								
ディプロマ・リ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 子どもの発達と言葉あそびの特性／シアター製作・課題について					事前：シラバスを読み、概要の把握に務める(2h) 事後：講義内容を振り返り次回の授業に繋げる(2h)			
2 回	子どもの発達と絵本の特性 絵本についての理解・シアター製作について					事前：絵本の選書(2h) 事後：シアター製作の準備(2h)			
3 回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 「年齢にふさわしいパネルシアターの選び方」 パネルシアター製作①「下書き・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：パネルシアター製作の準備(2h)			
4 回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作②「仕掛けについて・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：パネルシアター製作(2h)			
5 回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作③「教材作り・着色について・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：パネルシアター製作(2h)			
6 回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作④「教材作り・着色について・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：着色完了(2h)			
7 回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作⑤「仕掛け・発表について・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：作品完成(2h)			
8 回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作⑥「グループ発表」					事前：グループ別での発表の準備(2h) 事後：発表後の振り返り(2h)			
9 回	子どもの発達とさまざまなシアターの特性と理解 紙皿シアターについての理解					事前：紙皿シアターの理解(2h) 事後：紙皿シアターの技術の習得(2h)			
10 回	子どもの発達と紙皿シアターの特性と理解 紙皿シアター製作① オリジナル案の提出					事前：オリジナル案を考えまとめる(2h) 事後：紙皿シアター製作の準備(2h)			
11 回	子どもの発達と紙皿シアターの特性と理解 紙皿シアター製作①					事前：紙皿シアターオリジナル案のまとめ(2h) 事後：紙皿シアター製作(2h)			
12 回	子どもの発達と紙皿シアターの特性と理解 紙皿シアター製作②					事前：紙皿シアターの準備(2h) 事後：作品の完成(2h)			
13 回	子どもの発達と紙皿シアターの特性と理解 紙皿シアターグループ発表					事前：グループでの発表方法のまとめ(2h) 事後：発表後の振り返り(2h)			
14 回	乳幼児保育に生かせる言葉あそび・模倣あそび 忍者あそびを通して模倣遊びの理解と製作					事前：忍者遊びについての理解(2h) 事後：模倣遊びの理解と振り返り(2h)			

15 回	学習のまとめ 定期テストについて／あそびについて	事前：提出物の準備（2h） 事後：あそびについての振り返り（2h）																												
16 回	定期試験 授業内で製作した課題等の提出 （事前に直し等の指導があった場合は直したものを提出すること。）																													
テキスト	保育園・幼稚園で 2 歳から楽しい忍者あそびがいっぱい 著：浦中こういち （かもがわ出版）																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 わくわく・楽しいパネルシアター（著：浦中こういち／ナツメ社） 1 年中つくれる!0から 5 歳児の製作・造形遊び（著：浦中こういち／ナツメ社）																													
到達目標（学修成果）及び観点	<p>【到達目標（学修成果）及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標（学修成果）及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他（ ）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> </tbody> </table>		到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○		○	○		到達目標②	○	○		○		到達目標③	○	○		○					
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																									
到達目標①	○		○	○																										
到達目標②	○	○		○																										
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標（学修成果）</th><th>定期試験（筆記試験・実技試験）</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他（ ）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td>5%</td><td></td><td>30%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>ループリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験（筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）	到達目標①	5%		30%	10%	10%		到達目標②	10%				5%		到達目標③	30%					
評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験（筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）																								
到達目標①	5%		30%	10%	10%																									
到達目標②	10%				5%																									
到達目標③	30%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談：</p> <p>オフィスアワー（掲示板にて確認）、授業日対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック：</p> <p>その都度対面にて行う</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：教養科目／外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>授業課題については保育士を目指すため必要な内容となっています。</p> <p>引き続き丁寧な説明等も踏まえながら進めていきます。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>授業では私語、許可以外の携帯電話等の使用、操作はしないこと。</p> <p>授業の積極的参加、姿勢を重視します。実践向けのあそびへの積極的参加、忘れ物、提出物の期日等</p> <p>準備物等によりシラバス内容（進行）に若干の変更がある場合もあります。またオンライン（遠隔授業）もあります</p> <p>製作にあたり準備物等を各自準備する場合があります。授業内で説明します。</p>																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む</p> <p>総授業回数のうち5割以上の有無</p>																												
		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	情報処理Ⅱ		担当者	中村紘也		開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10105		資格等取得との関連		幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)		テーマ:情報の取扱い等に加え、Excel を用いた情報処理方法等を身につける。 到達目標(学修成果)①:Excel により効率的なデータ処理方法を身につける。 到達目標(学修成果)②:PowerPoint を用いた実践的なプレゼンテーションを身につける。 到達目標(学修成果)③:Word、Excel 及び PowerPoint の連携操作を身につける。									
授業概要		情報処理Ⅰを踏まえ、より広汎な情報処理方法を学んでいく。具体的には効率的なデータ処理等を行うことにより、作業時間の短縮を目指すとともに、簡単なプレゼンテーションスキルについても身につけるようにする。その過程において、課題解決に向け、必要な情報や知識をインターネット上で調査・収集するなど、PBL(課題解決型学習)を意識した授業を行っていく。 また、必要に応じて適宜情報処理Ⅰで学んだ内容を確認し、知識及び技術の定着を図っていくこととする。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
			② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画							時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション							事前:テキスト6 頁から 21 頁を概観する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
2回	Excel の基本操作							事前:テキストⅠ 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
3回	表の作成							事前:テキスト2 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
4回	数式を使つての計算							事前:テキスト3 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
5回	関数を使つての計算							事前:テキスト4章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
6回	表の形式							事前:テキスト5 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
7回	表の印刷							事前:テキストⅩ 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
8回	関数の確認及び練習問題							事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:できなかった点について確認する。(0.5H)			
9回	PowerPoint を用いて手遊び動画を作成する							事前:PowerPoint についてネットで調査する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
Ⅹ回	グラフの作成							事前:テキスト6 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
Ⅺ回	条件付き書式の設定							事前:テキスト7 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			
Ⅻ回	データの整理、抽出							事前:テキスト8 章を熟読する。(0.5H) 事後:技術不足と感じた点を確認する。(0.5H)			
Ⅼ回	シート、ブック							事前:テキスト9 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)			

14 回	その他の機能	事前:テキストⅡ 章を熟読する。(0.5H) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5H)					
15 回	計算(関数を含む)方法の確認及び印刷設定	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:できなかった点について確認する。(0.5H)					
16 回	定期試験(実技試験)						
テキスト	AYURA『今すぐ使えるかんたん Excel2024』技術評論社 2025 年						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○			○		
	到達目標②				○		
	到達目標③				○		
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	20%				15%	
	到達目標②	20%				15%	
	到達目標③	20%				10%	
ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない							
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却する。試験の返却方法は授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:情報機器の操作 保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	Word に比べて Excel は計算をするせいか、苦手意識をもっている学生が多いので、説明と練習問題を繰り返して少しずつ苦手意識を払拭していきたいと思います。また、随時練習問題を印刷や AirDrop で提出してもらい、学生の理解の進捗状況の把握に努めていきたいと思っています。						
受講生へのメッセージ・その他	保育現場においては、Word だけでなく、Excel を使用する機会も多いといえます。Excel の使用により効率的かつ間違いのない計算等を行うことができ、作業の時間短縮につながっていきます。また簡単ではありますが PowerPoint で手遊び動画を作成します。						
実務経験の有無	あり ・ <input type="radio"/> なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり ・ <input type="radio"/> なし	

科目区分	教養科目	科目名	日本国憲法		担当者	中村紘也		開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10106		資格等取得との関連		幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)		テーマ：国家の基礎法である日本国憲法について学び、人権及び統治機構の理解を深める。 到達目標(学修成果)①：基本的人権について、条文及び判例を学び、人権問題に対する解決能力を身につける。 到達目標(学修成果)②：三権分立を中心に、統治機構における相互の果たす役割を理解し、統治機構に関する問題を処理できる。 到達目標(学修成果)③：人権相互の矛盾・衝突が生じた場合の利益衡量を身につける。									
授業概要		弁護士として多くの権利関係の紛争処理に関与した経験を踏まえ、子どもの人権の特殊性や憲法上の人権について実際の事例を交えて説明、検討する。また、憲法の三原則である「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」を念頭に、自由権や社会権を中心に、判例等を交えながら知識とバランス感覚を修得する。憲法の知識のインプットだけでなく、適宜問題を解くといったアウトプットの機会を設け、憲法の知識の修得を確実なものにし、判例を用いてディスカッションを行うなど、多方向性にも配慮した授業を行う。									
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
			② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画							時間外学習			
1 回	オリエンテーション 日本国憲法制定の経緯等							事前：憲法全文を概観する。(2H) 事後：講義の内容を復習する。(2H)			
2 回	信教の自由							事前：テキストテーマ 7 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
3 回	表現の自由(名誉毀損等)							事前：テキストテーマ 8 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
4 回	表現の自由(集会の自由等)							事前：テキストテーマ 9 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
5 回	職業選択・営業の自由							事前：テキストテーマ 10 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
6 回	財産権・死刑制度							事前：テキストテーマ 13 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
7 回	新しい人権(プライバシー権、自己決定権等)							事前：テキストテーマ 3、4 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
8 回	法の下での平等							事前：テキストテーマ 5、6 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
9 回	子どもの人権、外国人の権利							事前：テキストテーマ 1、2 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
10 回	生存権、教育権							事前：テキストテーマ 11、12 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
11 回	生存権、教育権以外の社会権等							事前：テキストテーマ 14、15 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
12 回	国会							事前：テキストテーマ 16、17 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			
13 回	内閣、地方自治							事前：テキストテーマ 18、21 を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2H)			

14 回	裁判所	事前:テキストテーマ 19、20 を概観する(2H) 事後:配布したレジュメを熟読する。(2H)				
15 回	憲法改正・人権及び統治機構の確認	事前:テキストテーマ22を概観する(2H) 事後:配布したレジュメを熟読する。(2H)				
16 回	定期試験(筆記試験)					
テキスト	初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門(第 6 版)』株式会社有斐閣 2022 年					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 高乗正臣『保育者のための法学・憲法入門(第2版)』株式会社成文堂 2023 年					
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①		○			
	到達目標②	○				
	到達目標③		○			
	【評価方法・基準】					
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
	到達目標①	20%				15%
	到達目標②	20%				10%
	到達目標③	20%				15%
ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却する。試験の返却方法は授業の中で指示する。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:日本国憲法 保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	日本国憲法については、専門用語や聞きなれない独特の言い回しも多く、その点が理解の妨げになっているようですので、毎回作成するレジュメに専門用語の解説を載せたり、独特の言い回しを日常的な言い回しに置き換えたりして、講義の内容を理解しやすいように努めたいと思います。					
受講生へのメッセージ・その他	特別な制約はあるものの、子どもも大人と同様人権享有主体です。この認識を強く持っていれば、少なくとも不適切な保育を行うことはないと思料しています。日本国憲法の講義を通じて、人権についてしっかりと学んでいきましょう。					
実務経験の有無	<input checked="" type="radio"/> あり ・ <input type="radio"/> なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ <input checked="" type="radio"/> なし	

科目区分	教養科目	科目名	あそび探究	担当者	浦中こういち	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10201	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:より深くあそびについて学ぶ。保育現場の実践を想定し、すぐに活用できる知識や技術、子どものあそびについて理解し探究する。 到達目標(学修成果)①:子どもの発達を理解し、シアター等を意欲的に取り組み表現することができる。 到達目標(学修成果)②:子どもを取り巻く環境について理解し、あそび環境等、保育現場を意識し準備できるようになる。 到達目標(学修成果)③:5領域を通し、あそびに関する知識・技術を学び、表現することができる。								
授業概要	保育士としての現場での経験、現在活動している、絵本作家・あそび作家の経験を活かし、「今」の保育現場、子どもたちの現状「あそび」について理解を深める。〇〇シアターなどを作り、ただ作るだけでなく保育現場ではどのように行っていくのか?導入についてなど「あそび入門」での学びをより深く学び、保育所保育指針等を使用しながら、実践し探究していく。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 授業の説明／子どもの発達と言葉あそびの特性					事前:シラバスを読み、概要の把握に務める(2h) 事後:講義内容を振り返り次回の授業に繋げる(2h)			
2 回	子どもの発達と造形遊びについての特性と理解① 造形あそびの特性と理解／水性ペンを使った表現方法① 造形あそびについて学び・保育現場での利用方法について					事前:造形あそびについて準備(2h) 事後:次回の授業に向けて準備(2h)			
3 回	子どもの発達と造形遊びについての特性と理解② 造形あそびの特性と理解／水性ペンを使った表現方法② ・自然物を使ったものなど保育現場を意識したものを制作予定 ・実際に作ったものを発表。保育現場での応用等も説明する。					事前:グループ別プレゼンテーションの準備・練習(2h) 事後:次回の授業に向けて準備(2h)			
4 回	子どもの発達とシアター1-①の特性と理解:<製作> 「楽しい」のきっかけ作りからの保育現場での利用について学ぶ。 <スケッチブックシアター製作予定>					事前:シアターの特性・理解(2h) 事後:次回の授業に向けて準備(2h)			
5 回	子どもの発達とシアター1-②の特性と理解<製作・発表について> 教材を作り、シアターの作り方、特性、理解について学ぶ。 <スケッチブックシアター製作予定>					事前:シアターの特性・理解(2h) 事後:次回の授業準備,グループ発表について(2h)			
6 回	子どもの発達とシアター1-③の特性と理解<製作・発表について> グループでの発表演習。保育現場の理解を深める。 <スケッチブックシアター発表(グループ発表)予定>					事前:導入についての理解(2h) 事後:発表後の振り返り(2h)			
7 回	子どもの発達とシアター2-①の特性と理解と環境構成<製作> シアターの特性を理解し、環境構成を考える。 子どものワクワクの引き出しを増やすことについて <クリアファイルシアター製作予定>					事前:シアターの特性・理解(2h) 事後:次回の授業準備(2h)			
8 回	子どもの発達とシアター2-②の特性と理解と環境構成 シアターの特性を理解し、環境構成を考える。 <製作・発表について／<クリアファイルシアター製作予定>					事前:シアターの製作・環境構成の理解(2h) 事後:グループ別プレゼンテーションの準備・練習(2h)			
9 回	子どもの発達とシアター2-③の特性と理解・環境構成 グループ発表。発表を通し保育現場、環境構成についての理解を深める。					事前:グループ別プレゼンテーションの練習(2h) 事後:シアターの理解・振替入り(2h)			
10 回	季節に合わせた製作物を利用した、子どもの発達と特性・理解 1年次使用したテキストからあそびの応用・展開を考える。 使用テキスト:保育園・幼稚園で2歳からたのしい忍者あそびがいっぱい」					事前:製作の準備(2h) 事後:製作の振り返り(2h)			

11 回	身近な素材を使ったシアター製作 1-① 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペープサート製作／グループ製作>	事前：製作の準備（2h） 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備（2h）																																
12 回	身近な素材を使ったシアター製作 1-② 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペープサート製作／グループ製作>	製作の準備（2h） 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備（2h）																																
13 回	身近な素材を使ったシアター製作 1-③子どもの発達と特性・理解 グループ発表を通し、導入／環境構成／準備を学ぶ <ストーリーを使ったペープサートグループ発表>	事前：グループ別プレゼンテーションの準備（2h） 事後：グループ別プレゼンテーションの振り返り（2h）																																
14 回	身近な素材を使った遊び1―① 子どもが楽しむことについての理解 子どもたちがあそぶとは何か？素材を通して理解を深める <紙コップを使ったあそび作り>	事前：素材の理解と探究（2h） 事後：紙コップを使った遊びの製作（2h）																																
15 回	身近な素材を使った遊び1―② 子どもが楽しむことについての理解 製作発表 授業のまとめ	事前：紙コップを使った遊びの製作（2h） 事後：授業の振り返り（2h）																																
16 回	定期試験																																	
テキスト	1 年中つくれる!0～5歳児の制作・造形あそび 著：浦中こういち／ナツメ社																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針解説																																	
到達目標（学修成果）及び観点	<table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）		到達目標①	○	○		○			到達目標②	○	○					到達目標③	○	○	○			
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																													
到達目標①	○	○		○																														
到達目標②	○	○																																
到達目標③	○	○	○																															
評価方法・基準	<table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>5%</td><td></td><td>30%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①	5%		30%	10%	10%		到達目標②	10%				5%		到達目標③	30%					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																												
到達目標①	5%		30%	10%	10%																													
到達目標②	10%				5%																													
到達目標③	30%																																	
ルーブリック評価	ルーブリック評価： 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：オフィスアワー（掲示板にて確認）、授業日対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック：授業時、対面にて行う																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：教養科目/外国語、体育以外の科目																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	「新規科目のため評価なし」																																	
受講生へのメッセージ・その他	授業では私語、許可以外の携帯電話等の使用、操作はしないこと。 授業の積極的参加、姿勢を重視します。実践向けのアソビへの積極的参加、忘れ物、提出物の期日等 準備物等によりシラバス内容（進行）に若干の変更がある場合もあります。またオンライン（遠隔授業）もあります。 製作にあたり準備物等を各自準備する場合があります。授業内で説明します。																																	
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> ・ なし																													

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーションⅠ (英語)	担当者	佐々木美紀	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20101	資格等取得との 関連	幼稚園：選択必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：英語を使ってコミュニケーション能力をつけることによって、相手と心を通わすことができる。 到達目標(学修成果)①：非母国語での会話活動を楽しみ、自己表現ができる。 到達目標(学修成果)②：英語の歌を英語らしい音で歌うことができる。 到達目標(学修成果)③：日本の文化・年中行事に関する英文を読み、内容を理解できる。								
授業概要	各回のテーマに沿って、英語での会話活動やアクティビティを実践形式で行い、コミュニケーション能力を高めます。 短いスピーチを作成し、クラスの前で発表する場を設けます。 英語の歌を聴いて歌うことで、英語特有の音・リズムを習得していきます。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	講義概要の説明 Classroom English ペアワーク(自己紹介)					事前：自己紹介を考える(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅱ回	ペアワーク(好きなものを聞き合う) ♪英語の歌					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅲ回	ペアワーク(好きな活動を聞き合う) ♪英語の歌					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅳ回	“This is Me!” スピーチ作成 ♪英語の歌					事前：スピーチ内容を考える(0.5h) 事後：講義内容の復習、スピーチ発表の練習(0.5h)			
Ⅴ回	“This is Me!” スピーチをクラスの前で発表 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：スピーチ発表の練習(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅵ回	『colors』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅶ回	『shapes』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅷ回	『numbers』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅸ回	『fruits/vegetables』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅹ回	『fruits/vegetables』会話活動 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅺ回	『countries』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅻ回	ペアワーク(行きたい国を聞き合う) ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅼ回	ペアワーク(したいことを聞き合う) ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅽ回	“My Wish” スピーチ作成 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：スピーチ内容を考える(0.5h) 事後：講義内容の復習、スピーチ発表の練習(0.5h)			

15 回	“My Wish” スピーチをクラスの前で発表 ♪英語の歌 ・英文読解	事前:スピーチ発表の練習(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)																												
16 回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	随時プリントを配布																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○	○		到達目標②			○	○		到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①		○	○	○																										
到達目標②			○	○																										
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%	10%	20%		到達目標②	10%				10%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%	10%	20%																									
到達目標②	10%				10%																									
到達目標③	10%				10%																									
ループリック評価	<p>ループリック評価: 取り入れている ・ <u>取り入っていない</u></p>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業終了前後に教室で質問を受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物は授業の中で後日返却します。 定期試験の返却方法は授業の中で指示します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし。																													
受講生へのメッセージ・その他	主体的に楽しみながら取り組んでもらえると嬉しいです。																													
実務経験の有無	あり ・ <u>なし</u>	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p><u>あり</u> ・ なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーションⅠ (中国語)	担当者	施昶妃	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	講義 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20102	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する。 到達目標(学修成果)①:中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができる。 到達目標(学修成果)②:日常会話で頻出する単語について、中国語の漢字が書ける。 到達目標(学修成果)③:簡単な日常会話に関する中国語の聞き取りができる。								
授業概要	本講義では、主に中国で通用している北京語について、基本的な日常生活会話を教授する。また、言語学習の他、北京語を使うそれぞれの地域の文化と慣習も紹介する。 本講義のゴールは、反転授業を用いて、学生に対して北京語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が北京語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができることを目指す。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	○	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	○	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	講義概要の説明、中国語の紹介					事前: 事後:授業のノートをまとめる。(1h)			
2回	中国語の基本表現(あいさつ)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
3回	中国語の基本表現(お礼の表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
4回	中国語の基本表現(質問の方法)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
5回	中国語の基本表現(数字、日付、曜日などの言い方)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
6回	中国語ビデオ鑑賞					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
7回	中国語会話(家族について)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
8回	中国語会話(趣味の尋ね方)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
9回	中国語会話(習い事などの表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
10回	中国語会話(学校についての各表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
11回	中国語会話(自己紹介)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
12回	中国語会話(買い物などの日常生活)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
13回	中国語会話(褒め言葉などの表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			

14 回	まとめと復習	事前: 事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後: 授業のノートをまとめる。(0.5h)					
15 回	中国語ビデオ鑑賞	事前: 事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後: 授業のノートをまとめる。(0.5h)					
16 回	実技試験(中国語での自己紹介)						
テキスト	なし						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『新版実用視聴華語Ⅰ』国立台湾師範大学主編著 正中書局						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①			○	○		
	到達目標②	○					
	到達目標③		○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	40%					
	到達目標②			30%			
	到達目標③					30%	
ルーブリック評価: 取り入れている <u>取り入れている</u>							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談: 随時、電子メールで質問を受け付ける(changfei_shih@hotmail.com) 学習成果のフィードバック: テストは講師のところに保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 外国語コミュニケーション 保育士: 教養科目/外国語						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	外国語コミュニケーション(英語と中国語)の合同授業のとき、先生たちとの連携を取って対応すること。						
受講生へのメッセージ・その他	中国語の勉強を楽しんで下さい。						
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無				あり ・ <input type="checkbox"/>	

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーションⅡ (英語)	担当者	佐々木美紀	開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20103	資格等取得との関連	幼稚園：選択必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：英語を使ってコミュニケーション能力をつけることによって、相手と心を通わすことができる。 到達目標(学修成果)①：非母国語での会話活動を楽しみ、自己表現ができる。 到達目標(学修成果)②：英語の歌を英語らしい音で歌うことができる。 到達目標(学修成果)③：日本の文化・年中行事に関する英文を読み、内容を理解できる。								
授業概要	各回のテーマに沿って、英語での会話活動やアクティビティを実践形式で行い、コミュニケーション能力を高めます。 短いスピーチを作成し、クラスの前で発表する場を設けます。 英語の歌を聴いて歌うことで、英語特有の音・リズムを習得していきます。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	ペアワーク(夏休みについて聞き合う) ♪英語の歌 ・英文読解					事前：夏休みの思い出について考える(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅱ回	ペアワーク(夏にしたことを聞き合う) ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅲ回	“My Summer Break”スピーチ作成 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：スピーチ内容を考える(0.5h) 事後：講義内容の復習、発表の練習(0.5h)			
Ⅳ回	“My Summer Break”スピーチをクラスの前で発表 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：スピーチ発表の練習(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅴ回	『Halloween』+アクティビティ					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅵ回	『animals』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅶ回	『animals』+会話活動 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅷ回	『actions(動き)』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅸ回	『actions(生活)』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅹ回	『food and drinks』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅺ回	『food and drinks』+会話活動 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅻ回	『careers』+アクティビティ ♪英語の歌 ・英文読解					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅼ回	『Christmas』+アクティビティ ♪英語の歌					事前：前回の内容を回想(0.5h) 事後：講義内容の復習(0.5h)			
Ⅽ回	“My Winter Break”スピーチ作成 ♪英語の歌 ・英文読解					事前：スピーチ内容を考える(0.5h) 事後：講義内容の復習、発表の練習(0.5h)			

15 回	“My Winter Break”スピーチをクラスの前で発表 ♪英語の歌 ・英文読解	事前:スピーチ発表の練習(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)																												
16 回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	随時プリントを配布																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○	○		到達目標②			○	○		到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①		○	○	○																										
到達目標②			○	○																										
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験(筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他()</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%	10%	20%		到達目標②	10%				10%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%	10%	20%																									
到達目標②	10%				10%																									
到達目標③	10%				10%																									
ループリック評価	<p>ループリック評価: 取り入れている ・ <u>取り入れていない</u></p>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業終了前後に教室で質問を受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物は授業の中で後日返却します。 定期試験の返却方法は授業の中で指示します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし。																													
受講生へのメッセージ・その他	季節の行事も楽しみましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <u>なし</u>	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p><u>あり</u> ・ なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーションⅡ (中国語)	担当者	施昶妃	開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	講義 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20104	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する。 到達目標(学修成果)①:中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができる。 到達目標(学修成果)②:日常会話で頻出する単語について、中国語の漢字が書ける。 到達目標(学修成果)③:簡単な日常会話に関する中国語の聞き取りができる。								
授業概要	本講義では、外国語コミュニケーションⅠの内容を基礎として、より発展した内容を取扱う。講義では、主に北京語の中級日常生活会話を教授する。また、講義においては、反転授業を用いて、学生が北京語で発言することを奨励する。本講義では、学生が外国人と接する際に自信を持って自らの意見を述べることを目指す。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	○	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	○	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	中国語会話(自国の紹介)					事前: 事後:授業のノートをまとめる。(1h)			
Ⅱ回	中国語会話(病気・病院に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅲ回	中国語会話(外出時における会話表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅳ回	音読テストⅠ(自国の紹介)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅴ回	中国語ビデオ鑑賞					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅵ回	中国語会話(電話での会話表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅶ回	中国語会話(食事に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅷ回	中国語会話(引越し等に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅸ回	音読テストⅡ(病気に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅹ回	中国語会話(比較表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅺ回	中国語会話(希望・願望に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅻ回	中国語会話(歓談に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅼ回	中国語会話(旅行に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅽ回	まとめと復習					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			

15 回	中国語ビデオ鑑賞	事前: 事前にノートを読み熟読する。(0.5h) 事後: 授業のノートをまとめる。(0.5h)																													
16 回	筆記試験 (翻訳テスト)																														
テキスト	なし																														
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『新版実用視聴華語 2』国立台湾師範大学主編著 正中書局																														
到達目標 (学修成果) 及び観点	【到達目標 (学修成果) 及び観点】 <table border="1"> <tr> <th>到達目標 (学修成果) 及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他 ()</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> </table>			到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	到達目標①	○		○			到達目標②		○		○		到達目標③				○					
到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()																										
到達目標①	○		○																												
到達目標②		○		○																											
到達目標③				○																											
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <tr> <th>評価方法・到達目標 (学修成果)</th><th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他 ()</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td></td><td></td><td>15%</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>40%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>15%</td><td>30%</td><td></td></tr> </table>			評価方法・到達目標 (学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①				15%			到達目標②	40%						到達目標③				15%	30%	
評価方法・到達目標 (学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																									
到達目標①				15%																											
到達目標②	40%																														
到達目標③				15%	30%																										
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている <u>取り入れている</u>																														
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 随時、電子メールで質問を受け付ける (changfei_shih@hotmail.com) 学習成果のフィードバック: テストは講師のところに保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます																														
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 外国語コミュニケーション 保育士: 教養科目 / 外国語																														
授業評価アンケート結果を受けての改善点	外国語コミュニケーション (英語と中国語) の合同授業のとき、先生たちとの連携を取って対応すること。																														
受講生へのメッセージ・その他	中国語の勉強を楽しんで下さい。																														
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	国語表現法	担当者	箕浦龍一	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20105	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：子どもや保護者、同僚との円滑な意思疎通を図るためのコミュニケーション力を高める。 到達目標(学修成果)①:保育や教育に携わる者として、基礎的教養と倫理観を備え、保育の専門的知識と技術を活用できる力を身につける。 到達目標(学修成果)②:保育や教育に関する課題を発見し、最善の解決方法を思考・判断し、他者に的確に伝えるコミュニケーション能力を養う。 到達目標(学修成果)③:子どもや家庭、地域社会の多様性を尊重し、協働しながら地域社会に貢献する意志と行動力を育む。								
授業概要	本授業では、保育士として必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語活動を中心に、実践的なコミュニケーション能力を養います。保育現場で求められる基礎的な国語力を身につけることを目的とし、子どもや保護者、同僚との円滑な意思疎通を図るための表現力を高めます。また、文章作成や発表を通じて、論理的思考力や他者に伝える力を育成します。さらに、保育士としての倫理観や地域社会との協働意識を深めるための活動も取り入れ、保育現場での実践力を総合的に向上させます。 さらに、これらを十分に達成するために、小学校教諭・県立高校の学校司書・大学の司書教諭課程講師としての経験と学校教育にファシリテーションの理念・技術を導入することを目的にした研修活動が続けている経験を活かしたい。								
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	講義内容・評価等のガイダンス 聞く・話す①:ペア・グループトーク(好きなお菓子など) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:シラバスを読んで、授業の全体像を捉える(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
2 回	聞く・話す②:ペア・グループトーク(自己紹介など) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:自己紹介などの話題を整理しておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
3 回	聞く・話す③:ペア・グループトーク(私の街紹介など) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:自分の街紹介などの話題を整理しておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
4 回	聞く・話す④:ペア・グループトーク(私の子ども観など) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:自分の子ども観について整理しておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
5 回	聞く・話す⑤:ペア・グループトーク(私の保育観など) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:自分の保育観について整理しておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
6 回	聞く・書く①:ペア・グループトーク(絵本の感想を書く) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:今まで読み聞かせてきた絵本の感想を書く(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
7 回	聞く・書く②:ペア・グループトーク(聞きながら書く) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:動画を見て内容を記録する練習をする (2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
8 回	聞く・書く③:ペア・グループトーク(動画の内容を記録する) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:動画を見て内容を記録する練習をする (2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
9 回	聞く・書く④:ペア・グループトーク(子どもの発言を記録する) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:動画を見て内容を記録する練習をする(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
10 回	聞く・話す・読む・書く①:グループ(対話型絵本の読み聞かせ実習) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:絵本を選び、読み聞かせの練習をする(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
11 回	聞く・話す・読む・書く②:グループ(対話型絵本の読み聞かせ実習) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム					事前:絵本を選び、読み聞かせの練習をする(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			

12 回	聞く・話す・読む・書く③:グループ(子ども対応) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:子ども対応について、予備知識をもっておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																													
13 回	聞く・話す・読む・書く④:グループ(保護者対応) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:保護者対応について、予備知識をもっておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																													
14 回	定期試験・評価等のガイダンス 聞く・話す・読む・書く⑤:グループ(保育園だより作成) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:保育園だよりについて、予備知識をもっておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																													
15 回	定期試験・評価等のガイダンス 聞く・話す・読む・書く⑥:グループ(保育園だより作成) 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:保育園だよりの編集・校正をしておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																													
16 回	定期試験																														
テキスト	特に指定しない。																														
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	参考資料:講義やで配布する。 保育者として、知っておきたいホームページ:講義で紹介する。 Padlet、Canva など、オンライン掲示板・ホワイトボード、グラフィックデザインツールなど:個人所有の iPad、PC で使用する。																														
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>			到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																										
到達目標①	○	○	○																												
到達目標②		○	○																												
到達目標③			○	○																											
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr></table> <div>ルーブリック評価: 取り入れている・<u>取り入っていない</u></div>			評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%	10%			到達目標②	20%		10%	10%			到達目標③	10%		10%	10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																									
到達目標①	10%		10%	10%																											
到達目標②	20%		10%	10%																											
到達目標③	10%		10%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:講義中・講義前後、講義の振り返り、教室で、または、Teams・メールで質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施します。																														
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																														
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																														
受講生へのメッセージ・その他	毎回の講義で、ペア・グループでの活動(対面、web 上)を行います。それを通して、主体的に学び合いましょう。																														
実務経験の有無	<u>あり</u> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<u>あり</u> ・ なし																											

科目区分	教養科目	科目名	キャリアデザインⅠ	担当者	徳増全矢・鈴木建生 仲森みどり	開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・ 単位数	講義 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL30101	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：自らのⅠ年後、Ⅰ年半後の目標を設定し、行動計画をたてる 到達目標(学修成果)①：自己分析により自己理解を深めることができる 到達目標(学修成果)②：職業観を育むことができる 到達目標(学修成果)③：社会人としてのマナーを習得することができる								
授業概要	教育現場・保育現場で勤務経験のある教員が担当するこの講義では、キャリアデザインを形成し、自らのⅠ年後、Ⅰ年半後の目標の設定を行い、行動計画を立てることを目的とする。 キャリアデザインの形成には、自己分析が重要であり、自己理解を進めることで明確な目標設定や進路選択ができる。他にも社会人としてのマナーや知識を習得することで社会へ踏み出す力をつける。								
ディプロマ・リ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	四日市市の私立保育園について(外部講師による授業) ※四日市私立保育園連盟					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅱ回	名古屋市の保育園の状況について(外部講師による授業) ※株式会社設立の保育園等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅲ回	四日市市の私立幼稚園について(外部講師による授業) ※四日市私立幼稚園協会					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅳ回	病児保育について(外部講師による授業)					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅴ回	障がい児施設について(外部講師による授業)					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅵ回	みえの福祉について(外部講師による授業) ※福祉人材センター					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅶ回	学童保育について(外部講師による授業) ※四日市市役所こども未来課					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅷ回	人権フェスタ参加					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
Ⅸ回									
Ⅹ回									
Ⅺ回									
Ⅻ回									
Ⅼ回									

14回																														
15回																														
16回																														
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する																													
到達目標（学修成果）及び観点	【到達目標（学修成果）及び観点】 <table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○	○				到達目標②		○	○			到達目標③				○					
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②		○	○																											
到達目標③				○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>15%</td><td></td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>15%</td><td></td><td>15%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr></table> ループリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%				到達目標②	15%		15%				到達目標③	15%		15%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		10%																											
到達目標②	15%		15%																											
到達目標③	15%		15%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：授業前後、対応できる時は随時 学習成果のフィードバック：提出物の返却を通して実施する																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年度の評価を受け、引き続き学生にとって職業理解を深められるような外部講師を招聘し、貴重な学びの機会としていきたいと考えています。																													
受講生へのメッセージ・その他	「社会で必要な力」を学び、二年後のキャリアだけでなく、生涯にわたるキャリアデザインをしていきます。本授業は 8 回開催であるため、欠席に関してはシビアな状況が求められます。積極的な授業参加を求めます。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	キャリアデザインⅡ	担当者	徳増全矢・鈴木建生 仲森みどり	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL3020Ⅰ	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：社会へ踏み出す力を養う。 到達目標(学修成果)①：就職活動にむけて行動する力をつける。 到達目標(学修成果)②：自己アピールができる。 到達目標(学修成果)③：社会のルールを理解できる。								
授業概要	教育現場・保育現場で勤務経験のある教員が担当するこの講義では、キャリアデザインⅠで立てた目標の再確認を行い、行動計画 を実行していく。自己分析をもとに履歴書や面接での自己アピールなど就職活動にあたって基本的なことができるようになる。また、施 設長や現場で活躍する社会人の経験談から職業理解を深め、職業観を育み職業選択に活かせるような機会とする。他にも社会人と してのルールや知識を習得することで社会へ踏み出す力をつける。								
ディプロマポリ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する 力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会 に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	本学の就職状況について、保育職の就職状況や求人動向について					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
2 回	児童養護施設の状況について(外部講師による授業) ※三重県児童養護施設協議会					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
3 回	就活のしかた、履歴書作成、面接試験などの基本的な考え方					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
4 回	名古屋の保育事情について(外部講師による授業)					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
5 回	障がい福祉について(外部講師による授業) ※全国介護事業者連盟					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
6 回	子育てを巡る「社会で支える仕組み」について(外部講師による授業) ※三重県警察「キッズ“輝け”(KAGAYAKE)スクール」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
7 回	保育と福祉のつながりについて(外部講師による授業)					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
8 回	キャリアデザイン実践(就職相談会への参加)					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
9 回									
10 回									
11 回									
12 回									
13 回									

14 回																														
15 回																														
16 回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する																													
到達目標（学修成果）及び観点	<p>【到達目標（学修成果）及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <td>到達目標（学修成果）及び観点</td> <td>知識・理解</td> <td>思考・判断</td> <td>関心・意欲</td> <td>技能・表現</td> <td>その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>		到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○	○				到達目標②			○			到達目標③				○					
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②			○																											
到達目標③				○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <td>評価方法・到達目標（学修成果）</td> <td>定期試験 （筆記試験・実技試験）</td> <td>小テスト</td> <td>課題・提出物・レポート</td> <td>発表・実技</td> <td>取り組み姿勢</td> <td>その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </table> <p>ループリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）	到達目標①	10%		10%				到達目標②	10%		20%				到達目標③	20%		20%		10%	
評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）																								
到達目標①	10%		10%																											
到達目標②	10%		20%																											
到達目標③	20%		20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談：授業前後、対応できる時は随時</p> <p>学習成果のフィードバック：提出物の返却を通して実施する</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	就職に関しては、当事者である学生たちが、納得した形で自己実現することに意味があると考えます。学生と教員が二人三脚で将来の展望が持てるような授業運営を心がけます。外部講師を効果的に呼び出して、学生が価値観を広げられるように配慮していきます。																													
受講生へのメッセージ・その他	職業理解を深め、職業観を育みます。実務家の方からの体験発表も聞く機会をなるべく多く設定します。本授業は 8 回開催であるため、欠席に関してはシビアな状況が求められます。積極的な授業参加を求めます。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	教養科目	科目名	スポーツ・レクリエーション 実技	担当者	平野晃子	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL40101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修・レク：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:運動の意義や価値を実感し、幼児(児童)への運動指導の在り方について考えを深める。 到達目標(学修成果)①:運動の意義や価値に気づき、持続可能な運動指導実践につなげていくことができる。 到達目標(学修成果)②:発達段階や教育課程など、対象児や目的に合わせた幼児(児童)への運動指導の在り方について考えることができる。 到達目標(学修成果)③:幼児(児童)期のスポーツ・レクリエーションの意義や価値を理解し、指導に主体的に取り組むことができる。								
授業概要	本講義では、幼児体育、小学校体育(低学年)、小学校体育(中学年および高学年)のスポーツ・レクリエーション実践を通して、発達段階や教育課程に応じた幼児(児童)への運動指導の在り方について考えを深める。また、特別支援学校での実践や対象者に合わせた競技・ルールのアレンジ等も紹介し、生涯スポーツの重要側面「レクリエーション」についての学びも深める。実際に学生自身が運動プログラムをPDCAするプロセスを通して、知識を実践につなげていく力や実践を省察していく力等を身につけられるようにする。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介、アイスブレイキング					事前:シラバスを読む(0.5h) 事後:学びたいことをまとめる(0.5h)			
Ⅱ回	スポーツ・レクリエーション実践:幼児体育(体づくり、表現リズムあそび)					事前:小学校学習指導要領解説体育編、4 各領域の内容、ア 体づくり運動系、カ 表現運動系を読み、関連する運動あそびを調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅲ回	スポーツ・レクリエーション実践:幼児体育(走・跳の運動あそび、ゲーム)					事前:小学校学習指導要領解説体育編、4 各領域の内容、ウ 陸上運動系を読み、関連する運動あそびを調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅳ回	スポーツ・レクリエーション実践:幼児体育(用具を用いた運動あそび、ゲーム)					事前:小学校学習指導要領解説体育編、4 各領域の内容、オ ボール運動系を読み、関連する運動あそびを調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅴ回	スポーツ・レクリエーション実践:障害児・幼児体育(サーキット、ストーリーを用いた運動あそび) ～特別支援学校での実践事例紹介～					事前:小学校学習指導要領解説体育編、4 各領域の内容、イ 器械運動系を読む、サーキットあそびの実践例を調べる(0.5h) 事後:授業を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅵ回	スポーツ・レクリエーション実践:小学校体育・低学年(宝運び鬼)					事前:小学校学習指導要領解説体育編p163～165を読む、宝運び鬼について調べる(0.5h) 事後:授業を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅶ回	スポーツ・レクリエーション実践:小学校体育・低学年(ならびっこキックベースボール)					事前:ならびっこキックベースボールについて調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅷ回	スポーツ・レクリエーション実践:小学校体育・全学年(転がしハンドテニス) ～テニピンの紹介～					事前:テニピンについて調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅸ回	スポーツ実践:小学校体育・中学年(プレルボール)					事前:プレルボールについて調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅹ回	スポーツ実践:小学校体育・高学年(タグラグビー)					事前:タグラグビーについて調べる(0.5h) 事後:活動を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
Ⅺ回	運動プログラムの作成 (グループワーク)					事前:グループで実践例を複数個調べる(0.5h) 事後:グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)			

12回	運動プログラムの模擬実施 (グループワーク)	事前:グループで模擬実施の準備をする(1h~) 事後:改善点を整理して書き出す(0.5h)																																			
13回	運動プログラムの振り返り、再検討 (グループワーク)	事前:改善案を考えて書き出す(0.5h) 事後:グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)																																			
14回	性教育【外部講師】	事前:前時に指示する(0.5h) 事後:授業中に指示する(0.5h)																																			
15回	振り返りとまとめ	事前:学習内容を振り返り、まとめる(0.5h) 事後:全授業を通して学んだことをまとめる(1h)																																			
16回	定期試験(成績評価40%相当)	事前:復習(1h~)																																			
テキスト	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編 ,文部科学省 ,2018																																				
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト ”楽しい”を重視した健康スポーツの推進 ,公益財団法人 日本レクリエーション協会 ,2017																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><th colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</th></tr><tr><th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>		【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○		○		到達目標②		○		○		到達目標③	○		○							
【到達目標(学修成果)及び観点】																																					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①		○		○																																	
到達目標②		○		○																																	
到達目標③	○		○																																		
評価方法・基準	<table><tr><th colspan="7">【評価方法・基準】</th></tr><tr><th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他()</th></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>20%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr></table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない</p>		【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%			10%			到達目標②	20%		10%	20%			到達目標③	10%		10%	10%		
【評価方法・基準】																																					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①	10%			10%																																	
到達目標②	20%		10%	20%																																	
到達目標③	10%		10%	10%																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーにて対応します。 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します。 テストは研究室にて保管しています。事前に連絡の上、結果の確認をすることができます。																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:体育 保育士:教養科目/体育																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																																				
受講生へのメッセージ・その他	本講義は、スポーツ・レクリエーション講義とも関連しています。 運動のできる服装での受講をお願いします。 初回授業までにバインダーの用意をお願いします。																																				
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ なし																																		

科目区分	教養科目	科目名	スポーツ・レクリエーション 講義	担当者	平野晃子	開講時期	1 年 後期	授業形態・ 単位数	講義 1 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL40102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：スポーツ・レクリエーションの意義や価値がわかり、主体的な心身の健康づくり、および他者の健康増進を目指す。 到達目標(学修成果)①：科学的な知見を基に、心身の健康増進における運動の意義や価値について理解できる。 到達目標(学修成果)②：知識を基に、スポーツ・レクリエーションの参加の在り方、指導・支援の在り方について考えることができる。 到達目標(学修成果)③：対象者や目的に合わせたスポーツ・レクリエーションプログラムが立案でき、自らが主体的にプログラムに参画することができる。								
授業概要	運動に関する科学的な知見を理解し、心身の健康増進における運動、及び運動指導・支援の在り方について考えを深める。生理学・心理学に基づいた運動支援手法、ライフステージ・対象者に合わせた運動支援のポイントなど、支援者として必要な知識を学ぶ。実技や実際にプログラムを立案する活動を通して、学生が授業で学んだ知識を実践につなげていく力、実践を省察する力、主体的に生涯スポーツに向けた取り組みに参画しようとする力などを養えるようにする。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション：授業の進め方、自己紹介					事前：シラバスを読み、自己紹介を考えてくる(0.5h) 事後：学びたいことをまとめる(0.5h)			
2 回	スポーツ・レクリエーション概論					事前：教科書p8-21を読む(0.5h) 事後：教科書p8-21に関して考えをまとめる(0.5h)			
3 回	スポーツ・レクリエーション生理学					事前：教科書p31-47を読む(0.5h) 事後：教科書p31-47に関して考えをまとめる(0.5h)			
4 回	スポーツ・レクリエーション心理学					事前：教科書p49-59を読む(0.5h) 事後：教科書p49-59に関して考えをまとめる(0.5h)			
5 回	コミュニケーション・ワーク理論(信頼関係、集団作り、自主・主体性を育む) アイスブレイキング体験					事前：教科書p8-21、62-73を読む、アイスブレイキングの活動例を調べる(1h) 事後：教科書p8-21、62-73に関して考えをまとめる			
6 回	生理学・心理学に基づいた活動の実践(幼児期・児童期・高齢期) 児童期のスポーツ・レクリエーション体験					事前：教科書p74-107を読む(1h) 事後：教科書p74-107に関して考えをまとめる(0.5h)			
7 回	幼児期における運動の現状と問題点・意義					事前：前時に指示する(0.5h) 事後：幼児期における運動に関して考えをまとめる(0.5h)			
8 回	幼児期における効果を高める具体的な運動の取り組み 幼児期のスポーツ・レクリエーション体験					事前：前時に指示する(0.5h) 事後：幼児期の運動指導・支援に関して考えをまとめる(0.5h)			
9 回	安全管理の基礎、プログラムの作成手順					事前：教科書p110-128を読む(0.5h) 事後：教科書p110-128に関して考えをまとめる(0.5h)			
10 回	事例検討：スポーツ・レクリエーションプログラムの立案① 課題の抽出、アプローチ方法の検討 (グループワーク)					事前：教科書p74-107の復習、p108を読む、スポーツ・レクリエーションの活動例を調べてくる(1h) 事後：グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)			
11 回	事例検討：スポーツ・レクリエーションプログラムの立案② プログラム案作成、発表準備 (グループワーク)					事前：グループで大まかな実施案の構想を話し合う(0.5h) 事後：グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)			
12 回	スポーツ・レクリエーションプログラムの実施 (グループワーク)					事前：グループでプログラム実施の準備をする(1h～)			

		事後：プログラムの実施を通して考えたことをまとめる、改善点を整理して書き出す(0.5h)																																							
13回	スポーツ・レクリエーションプログラム案の発表 (グループワーク)	事前：グループで発表準備をする(1h～) 事後：プログラムの発表を通して考えたことをまとめる、改善点を整理して書き出す(0.5h)																																							
14回	スポーツ・レクリエーションプログラムの振り返りと再考案 プログラム案修正 (グループワーク)	事前：改善案を考える(0.5h) 事後：再考案して考えたことをまとめる(0.5h)																																							
15回	振り返りとまとめ	事前：学習内容を振り返り、まとめる(1h) 事後：全授業を通して考えたことをまとめる(0.5h)																																							
16回	定期試験(40%相当)	事前：復習(2h～)																																							
テキスト	スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「楽しい」を重視した健康スポーツの推進 ,公益財団法人 日本レクリエーション協会,2023																																								
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 幼児期運動指針実践ガイド ,杏林書院 ,2017 楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 ,公益財団法人 日本レクリエーション協会 ,2017																																								
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td colspan="7">【到達目標(学修成果)及び観点】</td></tr><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						【到達目標(学修成果)及び観点】							到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○						到達目標②	○	○					到達目標③			○	○		
【到達目標(学修成果)及び観点】																																									
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																				
到達目標①	○																																								
到達目標②	○	○																																							
到達目標③			○	○																																					
評価方法・基準	<table><tr><td colspan="7">【評価方法・基準】</td></tr><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 (プログラム)</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td></tr></table>						【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 (プログラム)	到達目標①	20%		10%				到達目標②	10%		10%				到達目標③	10%			20%		20%
【評価方法・基準】																																									
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 (プログラム)																																			
到達目標①	20%		10%																																						
到達目標②	10%		10%																																						
到達目標③	10%			20%		20%																																			
ルーブリック評価	ルーブリック評価：取り入れている・ <u>取り入っていない</u>																																								
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：オフィスアワーにて対応します。 学習成果のフィードバック：課題や提出物は授業時間内に返却します。 テストは研究室にて保管しています。事前に連絡の上、結果の確認をすることができます。																																								
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園：体育 保育士：教養科目/体育																																								
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																																								
受講生へのメッセージ・その他	本講義は、スポーツ・レクリエーション実技とも関連しています。 生涯スポーツに向け、対象者とともに楽しめる運動指導者を目指しましょう。 動きやすい服装での受講をおすすめし、初回授業までにバインダーの用意をお願いします。																																								
実務経験の有無	あり・ <u>なし</u>		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<u>あり</u> ・なし																																				

科目区分	教養科目	科目名	心理学	担当者	水野友美	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL40103	資格等取得との関連	保育士：選択必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：心理学研究が明らかにしてきた事実を学び、説明でき、実践で使用できるようになる。 到達目標(学修成果)①：心理学の基本的な知識を習得し、説明できる。 到達目標(学修成果)②：科学としての心理学の基本的な考え方を身につける。 到達目標(学修成果)③：日常的な行動の背後にある心理過程を説明できる。								
授業概要	医療や福祉領域での心理臨床経験を踏まえ、人間の行動と心を研究する心理学の概要を解説します。保育士として将来活躍していくために、必要となる基礎的な心理学のトピックを具体的にとりあげます。自らの日常の経験や気持ちを科学する時間でもあるので、グループワークを積極的に取り入れていきます。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 授業計画の説明					事前：シラバスを読み、必要テキストの準備をする。(2h) 事後：講義終了後、小レポートを作成する。(2h)			
2 回	子どもの発達の理解とその意義 小レポート課題提出①					事前：テキスト【第1講】を読む。講義時間までに小レポートを提出する。(2h) 事後：学習した内容の復習を行い、発達の概要を理解できるようになる。(2h)			
3 回	子どもの発達と環境 小テスト①					事前：テキスト【第2講】を読む。小テストの勉強をする【範囲：講義1-2】(2h) 事後：小テストの振り返りをする。発達の環境の関係性を説明できるようになる。(2h)			
4 回	発達観、子ども観と保育観					事前：テキスト【第3講】を読んでおく。(2h) 事後：授業内容をまとめておく。(2h)			
5 回	保育実践の評価 小テスト②					事前：テキスト【第4講】を読んでおく。小テストの勉強をする【範囲：講義3-4】(2h) 事後：小テストの振り返りをする。授業内容をまとめておく。(2h)			
6 回	社会情動的発達①自己と感情					事前：テキスト【第5講】を読んでおく。(2h) 事後：授業内容をまとめておく。(2h)			
7 回	社会情動的発達②他者理解					事前：テキスト【第6講】を読んでおく。(2h) 事後：授業内容をまとめておく。(2h)			
8 回	社会情動的発達③他者とのかかわり 小テスト③					事前：テキスト【第7講】を読んでおく。小テストの勉強をする【範囲：講義5-7】(2h) 事後：小テストの振り返りをする。授業内容をまとめておく。(2h)			
9 回	身体的機能と運動機能の発達 小レポート提出②					事前：テキスト【第8講】を読んでおく。(2h) 事後：授業内容をまとめ、個別支援についてレポートを提出する。(2h)			
10 回	認知の発達「認知の基礎」と「数と形」 小テスト④					事前：テキスト【第9・10講】を読んでおく。小テストの勉強をする【範囲：講義 8-9】(2h) 事後：小テストの振り返りをする。授業内容をまとめておく。(2h)			
11 回	認知の発達「言葉と文字」					事前：テキスト【第11講】を読んでおく。(2h) 事後：授業をまとめ、言葉の発達を促す生活習慣や遊びについての考える。(2h)			

12回	乳幼児期の学びにかかわる理論 小テスト⑤	事前:テキスト【第12講】を読んでおく。小テストの勉強をする【範囲:講義10-11】(2h) 事後:小テストの振り返りをする。授業内容をまとめておく。(2h)					
13回	乳幼児期の学びの過程と特性①認知的学び	事前:テキスト【第13講】を読んでおく。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
14回	乳幼児期の学びの過程と特性②社会情動的学び	事前:テキスト【第14講】を読んでおく。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
15回	【オンデマンド】乳幼児期の遊びを支える保育	事前:テキスト【第15講】を読んでおく。(2h) 事後:試験勉強をする。全授業内容を振り返る。(2h)					
16回	定期試験						
テキスト	保育の心理学 新基本保育シリーズ8 中央法規						
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜紹介						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○	○			
	到達目標②	○	○				
	到達目標③	○	○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	10%	15%	10%			
	到達目標②	10%	15%	10%			
	到達目標③	20%	10%				
小テストは5回、課題提出2回あります。							
ルーブリック評価: 取り入れている・ <div>取り入っていない</div>							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック:授業内にて教示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	前年度はテキストが難解であったため、理解しやすいテキストに変更した。具体的な関りに対しての根拠が理解できるよう説明していく。						
受講生へのメッセージ・その他	自らの心や行動に興味を持ち、授業に積極的に参加しましょう。						
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無				なし	

科目区分	教養科目	科目名	ユマニテク教育学	担当者	平松喜代江・鈴木建生 徳増全矢	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL60101	資格等取得との関連	保育士：選択必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念を体現する保育者としての精神的基盤を形成する。 到達目標(学修成果)①： 集団の一員として自覚を持った行動をとることができる。 到達目標(学修成果)②： グループメンバーの意見を尊重しつつ積極的に意見を述べるなど、円滑なチームワークを構成できる。 到達目標(学修成果)③： 本授業で経験したことや学習したことについて簡潔に記録し、わかりやすく論理的に他者に説明できる。								
授業概要	ユマニテク教育学では、「人間を大切にするヒューマニスト」を育成するべく、自己の価値観を言語化し、自分らしい人生の羅針盤を獲得する。そのためには、「思考力、表現力、判断力」の3つの力をつけるために学ぶ。授業は、運針にはじまり心を落ち着かせ集中力を高める。次にピアサポートを実施し仲間同士の支え合いの体験を重ねる。そして毎回のテーマを学修する。このように3つの柱で構成していく。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 外部講師 学校法人大橋学園の歩み(沿革) 運針の方法について					事前：シラバスを熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考にまとめる。(2h)			
2 回	外部講師 ピアサポート① 人間関係を円滑にするためのアクティビティ					事前：入学前教育の課題本を読み返す。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
3 回	外部講師 ピアサポート② 相互理解を深めるためのアクティビティ					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
4 回	16 パーソナリティー(自己認識)					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
5 回	ポジティブ心理学					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
6 回	マンダラチャート					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
7 回	外部講師 PROG テスト					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
8 回	社会人基礎力 コンピテンシー					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
9 回	スマホリテラシー① スマホ依存症と学力の関係					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
10 回	外部講師 スマホリテラシー② スマホが幼児の脳に与える影響					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
11 回	スマホリテラシー③ デジタルデトックスと健康的なライフスタイル					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			
12 回	ユマニチュードの哲学 対話保育の探究① 「見る」「話す」					事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考に復習する。(2h)			

13 回	ユマニチュードの哲学 対話保育の探究② 「触れる」「立つ」	事前:学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後:配布レジュメを参考に復習する。(2h)					
14 回	外部講師 PROG テスト解説	事前:学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後:配布レジュメを参考に復習する。(2h)					
15 回	振り返り 2 年間で自己を磨く心構えと目標を言語化する	事前:学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後:配布レジュメを参考に復習する。(2h)					
16 回	定期試験						
テキスト	特に指定しない						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介する						
到達目標 (学修成果) 及び観点	【到達目標 (学修成果) 及び観点】						
	到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	
	到達目標①	○	○	○	○		
	到達目標②	○	○	○	○		
	到達目標③	○	○	○	○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()
	到達目標①	15%		5%		10%	
	到達目標②	15%		5%	5%	10%	
	到達目標③	15%		5%	5%	10%	
ループリック評価	ループリック評価:取り入れている・ <u>取り入れていない</u>						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:希望する場合はリフレクションシートへ書き込むか、授業終了時に申し出てください。 学習成果のフィードバック:リフレクション集を作成し、適宜フィードバックします。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	本学の教育理念の具現化を目的とした講義を目指しましたが、学ぶ範囲が広域となり理解が難しかったとのご意見を頂きました。また、裁縫に関しては多くの学生の皆さんに高評価を頂きました。これらのご意見をふまえて、授業構成を見直してまいります。						
受講生へのメッセージ・その他	集団の中における、保育職に必要な社会人基礎能力について身につける講義です。特にペアワーク、グループワークを通してコミュニケーションに関する技能を積み重ねるため、積極的な参加をしてください。また、社会人基礎能力を身につけるためにも、自己管理が基本となります。第 1 回目より裁縫道具が必要となります。小中高校で使用していたもので構いません。ご準備をお願いします。						
実務経験の有無	無	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<u>あり</u> ・ なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	教育原理	担当者	徳増全矢	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：教育学の基本的概念、教育の歴史および代表的な教育思想について理解する。 到達目標（学修成果）①：教育の基本的概念を用い、教育を成り立たせるさまざまな要因とそれらの相互関係を理解し、説明できる。 到達目標（学修成果）②：教育の歴史に関する基礎的な知識を踏まえ、教育思想や教育活動の歴史的変遷について理解し、「教育」そのものについて説明することができる。 到達目標（学修成果）③：教育にかかわる現代的な課題について理解し、それらの抱える問題点について考察できる。								
授業概要	本科目は、小学校での実務経験を有する教員（徳増）により、教育現場の実態をふまえながら理解を深める。 「教育とは何か」という問いについて、西洋と日本の教育の歴史や思想を学ぶことによって、自らの考えを醸成する。教育課程・教育方法や教育制度などについて学び、教育のしくみに対する理解を深めるとともに、現代の教育が抱える課題についても考える。適宜、ディスカッションやグループワークを取り入れ、学生同士で共有できるように工夫をする。								
ディプロマポリシー （DP）と到達目 標（学修成果） との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション - 学校の役割を考える「世界果ての通学路」から					事前：シラバスを読み、学習内容の概要を知る。（2h） 事後：学習した内容を振り返り、まとめる。（2h）			
2 回	教育とは何か					事前：教科書1章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
3 回	教育と保育の意味と可能性 ※入学前教育で学んだ保育内容「5領域」などに関して再確認を行う。					事前：教科書2章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
4 回	西洋の教育の歴史（1） ギリシャ、古代ローマ、中世ヨーロッパの教育思想					事前：教科書3章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
5 回	西洋の教育の歴史（2） 西洋における近代教育のはじまり 西洋の学校教育のはじまり					事前：教科書4章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
6 回	西洋の教育の歴史（3） 新教育運動の起こりとその背景					事前：教科書5章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
7 回	西洋の教育の歴史（4） 第二次世界大戦後の教育改革 オルタナティブ教育					事前：教科書6章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
8 回	日本の教育の歴史（1） 古代と中世の時代的背景					事前：教科書7章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
9 回	日本の教育の歴史（2） 近世の学校と教育 武士の教育と文化 庶民の教育と文化					事前：教科書8章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
10 回	日本の教育の歴史（3） 明治期 大正期 戦時体制下の教育					事前：教科書9章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
11 回	日本の教育の歴史（4） 現代（昭和 平成 令和）					事前：教科書10章、11章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
12 回	教育課程とは 教育課程 学習指導要領の変遷 新しい教育課程					事前：教科書12章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			
13 回	「生徒指導」「生活指導」の教育実践について学ぶ 戦前・戦後の「生活指導」「生活指導提要」					事前：教科書13章を読む。（2h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（2h）			

14 回	教育制度と学校・学級経営 教育法令等から見る日本の教育制度	事前:教科書14章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
15 回	教師の専門性とは 教師に求められる専門性 教師に必要な研修 人間性と知識・技術	事前:教科書16章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
16 回	定期試験	事前: 事後:																												
テキスト	佐藤環監修『資料とアクティブラーニングで学ぶ 初等・幼児教育の原理』萌文書林、2022年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 広岡義之、津田徹編著『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○			到達目標③	○		○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③	○		○	○																										
評価方法・基準	<table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>30%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>5%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td>5%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30%		10%				到達目標②	20%		5%		5%		到達目標③	20%		5%		5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	30%		10%																											
到達目標②	20%		5%		5%																									
到達目標③	20%		5%		5%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: <div>取り入れている</div> ・取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する、カードに記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィシアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 保育士:保育の本質・目的に関する科目/保育者論																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	出席確認は必ず、呼名および指差確認を行い、抜けのないように管理を行う。歴史に拒否反応を持つ学生もいるため、興味がわくように生活へ密接に関わらせながら、授業を展開する。また、板書を多用するため、板書はきれいに書くことを心がけます。Teams の活用に関しては、一回目の授業で細かく説明を行う。																													
受講生へのメッセージ・その他	日常的に教育の抱える問題に関心を持ち、課題意識を持って子どもへのまなざしをもって欲しい。																													
実務経験の有無	有	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<div>あり</div> ・ なし																											

科目区分	専門教育科目	科目名	教育課程論	担当者	柴田智世	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ： 保育におけるカリキュラムとは何かを学ぶ 到達目標(学修成果)①:教育課程、全体的な計画及び様々な指導計画の意義や特徴を説明できる。 到達目標(学修成果)②： 子ども理解に基づいた指導計画について、保育実践との関連を考察できる。 到達目標(学修成果)③： 省察、評価、改善による評価の意義を、自分の実践に適用することができる。								
授業概要	教育課程、全体的な計画、指導計画には、私たちが子どもをどのような存在として捉え、どのような保育を目指しているのかという根本的な問いが描き出されるものである。そこで、それらを実現する方法はどのようなものかを考え、教育課程、全体的な計画、指導計画の意義と目的や具体的な立て方について学ぶ。 本科目担当教員は幼稚園での実務経験を活かして、幼児期から学童期を視野に入れた理論的な学びと共に、具体的な事例を取り上げ、保育における子どもの姿を想定した実践的な学びのできる授業を目指す。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション、保育の基本とカリキュラム					事前:事前にテキスト(p. 1～10)を熟読する。(2h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
2 回	カリキュラムの意義と子ども理解のための視点とは					事前:事前にテキスト(p. 11～20)を熟読する。(2h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
3 回	保育所保育指針における「全体的な計画」「指導計画」					事前:事前にテキスト(p. 21～34)を熟読する。(2h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
4 回	幼稚園教育要領における「教育課程」「指導計画」					事前:事前にテキスト(p. 35～45)を熟読する。(2h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
5 回	0・1・2 歳児を中心にした指導計画(1)長期指導計画					事前:事前にテキスト(p. 61～74)を熟読する。(2h) 事後:身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
6 回	0・1・2 歳児を中心にした指導計画(2)短期指導計画					事前:事前にテキスト(p. 61～74)を熟読する。(2h) 事後:身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
7 回	3・4・5 歳児を中心にした指導計画(1)長期指導計画					事前:事前にテキスト(p. 79～98)を熟読する。(2h) 事後:身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
8 回	3・4・5 歳児を中心にした指導計画(2)短期指導計画					事前:事前にテキスト(p. 79～98)を熟読する。(2h) 事後:身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
9 回	子どもの観察の方法と視点(1)身近な子どもの姿に着目して、観察記録をとる					事前:事前にテキスト(p. 111～119)を熟読する。(2h) 事後:地域で出会った子どもについて考察する。(2h)			
10 回	子どもの観察の方法と視点(2)観察記録の発表と考察					事前:事前にテキスト(p. 111～119)を熟読する。(2h) 事後:身近な子どもについての考察を深める。(2h)			
11 回	家庭・地域との連携					事前:事前にテキスト(p. 75～78)を熟読する。(2h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)			
12 回	長時間・延長保育の指導計画の工夫					事前:事前にテキスト(p. 75～78)を熟読する。(2h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)			
13 回	保幼小連携を目指す指導計画の工夫					事前:事前にテキスト(p. 99～110)を熟読する。(2h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)			

14 回	指導計画の実践と PDCA サイクルとは	事前: 事前にテキスト(p. 111～123)を熟読する。(2h) 事後: 教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)					
15 回	まとめ	事前: 事前にテキスト(p. 111～123)を熟読する。(2h) 事後: 教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)					
16 回	定期試験						
テキスト	豊田和子・新井美保子 編著『保育カリキュラム論－計画と評価－』建帛社、2018 年 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で紹介し、資料について適宜配布する。						
到達目標 (学修成果) 及び観点	【到達目標 (学修成果) 及び観点】						
	到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	
	到達目標①	○		○			
	到達目標②		○		○		
評価方法・基準	到達目標③	○		○			
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()
	到達目標①	20%			10%	10%	
ルーブリック評価	到達目標②			20%		10%	
	到達目標③	20%			10%		
	ルーブリック評価: 取り入れている・ <div>取り入れていない</div>						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業終了前後に教室もしくは非常勤講師室で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック: 授業内で提出されたレポートや課題は、授業の中で後日返却する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 教育の基礎的理解に関する科目 / 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。) 保育士: 保育の内容・方法に関する科目 / 保育の計画と評価						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	・2024 年度は、学生より授業時の配布資料についての意見があったため、今年度は一貫した配布資料となるように努める。また、変更点などがある場合は、目的と趣旨を授業内で丁寧に説明を行う。 ・期末試験については持ち込みは不可とする。						
受講生へのメッセージ・その他	保育者への夢や希望、理想像を描きつつ、自覚をもって受講すること。また、自分自身の子ども時代と向き合う姿勢をもってほしい。 提出物は期限を厳守すること。						
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ <div>なし</div>		

科目区分	専門教育科目	科目名	保育原理	担当者	南泰代	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10103	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：保育の専門的知識を学び、保育の基礎知識を育む。 到達目標(学修成果)①：保育施設に係る法律や制度を理解し、説明することができる。 到達目標(学修成果)②：西洋及び日本の保育思想や歴史について、その概要を理解し、説明することができる。 到達目標(学修成果)③：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について、その概要を理解し、説明することができる。								
授業概要	本講義では、今日の子どもを取り巻く環境を概観しつつ、保育に係る制度や歴史、思想の概要や保育の意義について学び、保育の基礎的知識を育てることを目的としている。講義には、受講者の積極的な発言も求めていることからアクティブラーニングを取り入れて双方向性の講義となるよう努めていく。なお、本講義の担当者は幼稚園及び保育所における実務経験者としての経験を踏まえ、実際の現場から得られた知見や事例を紹介して実践的な講義を展開していく。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 日本の教育・保育の方向性と発達観				事前：テキストUnit1を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
2回	諸法令から見る保育の原理				事前：テキストUnit2を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領からみる保育の原理				事前：テキストUnit3を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
4回	養護と教育の一体化				事前：テキストUnit4を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
5回	保育実践の基本構造(1) ・乳児保育における3つの視点と1歳以上3歳未満児の5領域 ・3歳以上児の5領域				事前：テキストUnit5(pp37-41)を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
6回	保育実践の基本構造(2) ・保育内容の特質(共同性)				事前：テキストUnit5(pp41-46)を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
7回	保育実践の基本構造(3) ・保育内容の特質(総合性・計画性)				事前：テキストUnit5(pp47-54)を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
8回	多様な保育内容とその方法				事前：テキストUnit6を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
9回	子育て支援				事前：テキストUnit7を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
10回	保育の歴史(1) ・西洋と日本の保育の創成期				事前：テキストUnit8を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
11回	保育の歴史(2) ・西洋の保育実践の発達過程				事前：テキストUnit9を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				
12回	保育の歴史(3) ・日本の保育実践の発達過程				事前：テキストUnit10を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後：振り返りシートを作成する。(2h)				

13 回	倉橋惣三の保育理念と保育方法論	事前:テキスト Unit11 を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後:振り返りシートを作成する。(2h)																																
14 回	保育者の役割と責務	事前:テキスト Unit12 を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後:振り返りシートを作成する。(2h)																																
15 回	保育を取り巻く現状と課題	事前:テキスト Unit13 を読み、要点をノートにまとめておく。(2h) 事後:振り返りシートを作成する。(2h)																																
16 回	定期試験																																	
テキスト	佐伯一弥・金瑛珠・鈴木彬子・高橋優子「改訂 2 版 Work で学ぶ保育原理」(2023)」わかば社																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・厚生労働省「保育所保育指針(2017)」フレーベル館 ・文部科学省「幼稚園教育要領(2017)」フレーベル館 ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)」フレーベル館																																	
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○						到達目標②	○	○	○				到達目標③	○		○			
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○																																	
到達目標②	○	○	○																															
到達目標③	○		○																															
評価方法・基準 ルーブリック評価	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%		20%				到達目標③	20%		10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①	20%		10%																															
到達目標②	20%		20%																															
到達目標③	20%		10%																															
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:「振り返りシート」にて対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/保育原理																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																																	
受講生へのメッセージ・その他	・講義には常に問題意識をもって参加すること。 ・講義マナーを遵守するとともに問題意識をもって参加すること。 ・日頃から新聞等で子どもに関わる記事を読み、ノートにまとめておくこと。																																	
実務経験の有無	あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭福祉	担当者	平松喜代江	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS10104	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：子どもと家族をとりまく問題と、それに対応する制度や実践について体系的に学ぶ 到達目標(学修成果)①：現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて説明できる 到達目標(学修成果)②：児童福祉制度とサービスについて、現場における実践もふまえて説明できる 到達目標(学修成果)③：子どもの権利と虐待問題、そして社会的養護に関しての理解と考察を深め説明できる								
授業概要	保育士として求められる子どもをめぐる生活問題や子ども家庭福祉に関する基本的な知識である子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の理念、法制度、実施体系、政策的な動向と展望について、その内容と福祉的対応の事例や外部講師による講話、映像資料等を用いながら基礎的理解を深める。この講義での学びは、本科目だけで完結することなく、他の社会福祉分野にも関心を持ち、相互理解の中で考察を深めてもらいたい。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	入学前教育課題(グループワーク) 子ども家庭福祉の歴史					事前：入学前教育の課題本を読み返す。(2h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にまとめる。(2h)			
2 回	現代の子どもと家庭を取り巻く課題 (グループワーク)					事前：テキスト p.2～19 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
3 回	子ども家庭福祉の制度と実施体系					事前：テキスト p.32～44 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
4 回	社会的養護と子ども家庭福祉の専門職					事前：テキスト p.46～58 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
5 回	外部講師 子ども虐待と社会的養護					事前：テキスト p.104～118 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
6 回	社会的養護の現状 映像資料（ディスカッション）					事前：事前の配布レジュメを熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考にまとめる。(2h)			
7 回	社会的養護現場での支援(ディスカッション)					事前：事前の配布レジュメを熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考にまとめる。(2h)			
8 回	子どもの貧困対策					事前：テキスト p.60～73 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
9 回	外部講師 里親フォスタリング機関					事前：事前の配布レジュメを熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考にまとめる。(2h)			
10 回	養育里親の支援 映像資料(ディスカッション)					事前：事前の配布レジュメを熟読する。(2h) 事後：配布レジュメを参考にまとめる。(2h)			
11 回	外国(韓国)の動向					事前：テキスト p.198～208 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
12 回	母子保健と子どもの健全育成 (グループワーク)					事前：テキスト p.76～88 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			
13 回	外部講師 次世代育成支援と地域との連携・協働					事前：テキスト p.90～101 を熟読する。(2h) 事後：テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)			

14 回	少年非行 (グループワーク)	事前:テキスト p.120～130 を熟読する。(2h) 事後:テキストとレジュメを参考に復習する。(2h)					
15 回	少年非行への支援と課題 映像資料(ディスカッション)	事前:事前の配布レジュメを熟読する。(2h) 事後:配布レジュメを参考にまとめる。(2h)					
16 回	定期試験						
テキスト	新沼英明編著「こどもまんなか福祉論」中央法規、2024 年						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○				
	到達目標②	○		○			
	到達目標③	○	○	○			
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	20%		10%	10%		
	到達目標②	20%				10%	
	到達目標③	20%		10%			
ルーブリック評価:取り入れている・ <u>取り入れている</u>							
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭福祉						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	外部講師の先生をお招きして、現場の声をたくさん聴いてもらうことを心がけました。多くの学生の皆さんからも、外部講師の話に刺激を受けて子ども家庭福祉に関心を持ってくださったとのご意見が嬉しかったです。講義の随所にグループワークを取り入れたことについては、「意見を共有できた」「コミュニケーション能力が向上した」「まわりで助け合って取り組めた」とのご意見を頂きました。今後もグループワークを積極的に取り入れていきたいと思います。						
受講生へのメッセージ・その他	・講義内でグループワークを随所に取り入れていますので、座席を指定しています。 ・毎回 Worksheet に記入提出し、質問等には次回授業時にフィードバックを行います。 ・教科書を活用し、事前・事後学習を計画的に進めていきます。 ・外部講師をお招きして、子ども家庭支援を担っている地域の活動家から支援の実際を学ぶ機会を設けます。						
実務経験の有無	無	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無				<u>あり</u> ・ なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	社会福祉	担当者	小倉諒也	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS10105	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：社会福祉の基礎を理解し、専門職として社会課題を発見し解決する力を身につける。 到達目標(学修成果)①：社会福祉の諸制度について、意義や役割を理解し説明できる。 到達目標(学修成果)②：保育士・幼稚園教諭等の専門職に求められる役割を理解し説明できる。 到達目標(学修成果)③：自身の周りの生活課題や社会課題を発見でき、制度等と関連した解決方法を考えることができる。								
授業概要	社会課題が山積する今日にあって、保育士・幼稚園教諭等の専門職に期待される役割は大きくなっています。この授業では、身近な生活課題について具体的な情報収集と解決を図ることに加え、社会課題についても内容を十分理解して解決方法について考える力を身に付けることを目的としています。 私は、社会福祉士として県社会福祉協議会に 10 年以上勤務し、三重県保育協議会事務局の業務をはじめ、福祉人材の育成に関わる業務等を担当してきました。この経験を授業に活かし、社会福祉の動向と保育実践の接続を図ります。 授業は座学中心ですが、ディスカッション等を通じて一緒に考えて言語化する時間を設けます。また、専門職としての心構えや働き方などを学ぶため、社会福祉の実践者を招聘する場合があります。								
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	授業オリエンテーション：講義概要、成績評価方法、テキスト等について					事前：シラバス等を確認して予習してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
2 回	身近な生活課題と社会福祉①(超高齢社会と介護保険①)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
3 回	身近な生活課題と社会福祉②(超高齢社会と介護保険②)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
4 回	身近な生活課題と社会福祉③(地域共生社会と権利擁護①)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
5 回	身近な生活課題と社会福祉④(地域共生社会と権利擁護②)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
6 回	身近な生活課題と社会福祉⑤(自然災害とボランティア①)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
7 回	身近な生活課題と社会福祉⑥(自然災害とボランティア②)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
8 回	身近な生活課題と社会福祉⑦(ライフスタイルの変化と子育て支援①)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
9 回	身近な生活課題と社会福祉⑧(ライフスタイルの変化と子育て支援②)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
10 回	ゲスト講師による講話					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
11 回	社会福祉の思想・歴史①(海外の思想について)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			
12 回	社会福祉の思想・歴史②(国内の思想について)					事前：身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後：授業資料を中心に復習してください。(2H)			

13 回	社会福祉の思想・歴史③(戦後日本の社会福祉①)	事前:身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後:授業資料を中心に復習してください。(2H)																																			
14 回	社会福祉の思想・歴史④(戦後日本の社会福祉②)	事前:身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後:授業資料を中心に復習してください。(2H)																																			
15 回	専門職としての社会課題への向き合い方、まとめ	事前:身近な生活課題について情報収集してください。(2H) 事後:授業資料を中心に復習してください。(2H)																																			
16 回	定期試験																																				
テキスト	『よくわかる 社会福祉の動向 2025』、中央法規、2024																																				
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型こども園教育・保育要領』 短大から支給される iPad (又はノートパソコン) を使用します。設定等をしたうえで授業に臨んでください。																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><th colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</th></tr><tr><th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②	○			○		到達目標③	○	○	○	○						
【到達目標(学修成果)及び観点】																																					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①	○			○																																	
到達目標②	○			○																																	
到達目標③	○	○	○	○																																	
評価方法・基準	<table><tr><th colspan="7">【評価方法・基準】</th></tr><tr><th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他()</th></tr><tr><td>到達目標①</td><td>15%</td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>15%</td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>15%</td><td>15%</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	15%	15%					到達目標②	15%	15%					到達目標③	15%	15%	10%			
【評価方法・基準】																																					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①	15%	15%																																			
到達目標②	15%	15%																																			
到達目標③	15%	15%	10%																																		
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																																				
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 指定する方法で随時対応します。 学習成果のフィードバック: 指定する方法で随時実施します。																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/社会福祉																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																																				
受講生へのメッセージ・その他	社会の課題を解消するために、社会福祉制度が作られ、それを支える人たちがいます。皆さんは、保育等をきっかけに家庭や社会に関わっていきます。そのためには、社会福祉の知識と自身の考えをもつことが大切です。一緒に頑張りましょう。																																				
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ <div>なし</div>																																		

科目区分	専門教育科目	科目名	社会的養護Ⅰ	担当者	鈴木聡	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS10106	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:社会的養護の概要について説明できる。 到達目標(学修成果)①:社会的養護の意義や歴史的変遷、子どもの人権を重視する新たな社会的養護の基本について説明できる。 到達目標(学修成果)②:社会的養護の制度と実施体系、対象となる子どもや家庭、様々な養護の形について説明できる。 到達目標(学修成果)③:社会的養護を取り巻く現状と課題について説明できる。								
授業概要	児童相談所での勤務経験を交え、社会的養護の全体像について解説し、その概要を学ぶ。その中で、子どもにかかわるすべての仕事の基本にある「子どもの権利を守る」という考え方を身につける。またそれは、特定の子どものみだけでなく、全ての子育て家庭を守る仕組みである事を理解する。講義とともに、視聴覚教材の利用やグループワークなども取り入れ、素朴な疑問を出発点に、社会的養護について多角的な学習をすすめる。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 社会的養護と自分の関りについて、ディスカッションも交えて学ぶ					事前:事前にテキスト p17-22を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
2回	社会的養護の理念と概念(グループワークを含む) 社会的養護の定義や、どんな考え方で運用されているのか学ぶ					事前:事前にテキスト p22-24を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
3回	社会的養護の歴史的変遷(グループワークを含む) 社会的養護はどんな形で始まったのか、今に至る経過などを学ぶ					事前:事前にテキスト p43-48を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
4回	子どもの人権擁護と社会的養護 社会的養護が守ろうとしているものをディスカッションも交えて学ぶ					事前:事前にテキスト p50-52を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
5回	社会的養護の基本原則 様々な形がある社会的養護に共通する考え方を学ぶ					事前:事前にテキスト p24-26を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
6回	社会的養護における保育士の倫理と責務 専門職としての保育士が大切にすべき点をディスカッションも含めて学ぶ					事前:事前にテキスト p210-212を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
7回	社会的養護の制度と法体系 社会的養護を主に規定する児童福祉法や他の法律について学ぶ					事前:事前にテキスト p70-77を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
8回	社会的養護の仕組みと実施体系(グループワークを含む) 社会的養護の全体像と、関連する児童相談所等について学ぶ					事前:事前にテキスト p90-101を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
9回	社会的養護の対象 社会的養護が支える子ども・家族についてグループワークも交えて学ぶ					事前:事前にテキストp30-38を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
10回	家庭養護と施設養護 家庭養護を、施設養護と対比しながら学ぶ(グループワークを含む)					事前:事前にテキスト p108-124を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
11回	社会的養護に関わる専門職 保育士とともに、社会的養護に関わる様々な専門職について学ぶ					事前:事前にテキスト p200-207を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
12回	社会的養護に関する社会的状況 大きな変革期にある社会的養護の在り方等について学ぶ					事前:事前にテキスト p228-237を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			
13回	施設等の運営管理 新しいタイプの施設等において課題となる施設運営等について学ぶ					事前:事前にテキスト p221-223を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)			

14 回	被措置児童等の虐待防止 被措置児童等への不適切なかかわりについてグループワークも交え学ぶ	事前:事前にテキスト p220、p224を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)																												
15 回	社会的養護と地域福祉 社会的養護が地域で果たす役割等について学ぶ	事前:事前にテキスト p184-198を熟読する(2h) 事後:テキストとレジュメを参考にノートをまとめる(2h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	大竹智・山田利子編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会 保育と社会的養護Ⅰ』第2版。株式会社みらい、2020。 適宜、レジュメも配布します。																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 こども家庭庁ホームページ https://www.cfa.go.jp/policies/shakaiteki-yougo/ その他、講義で随時紹介します。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td>5%</td><td>5%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td>5%</td><td>5%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td>5%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr></table> <div>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</div>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%	5%	5%		5%		到達目標②	20%	5%	5%		5%		到達目標③	20%		5%		5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%	5%	5%		5%																									
到達目標②	20%	5%	5%		5%																									
到達目標③	20%		5%		5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了後に教室もしくは非常勤講師控室で質問を受け付けます。また、提出レジュメやリフレクションの中で出された質問や疑問点については、可能な限り、次回講義の冒頭で共有し、ポイントを説明します。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/社会的養護Ⅰ																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	講義を進めるにあたって、例えばノートをとるのに必要な時間もそれぞれ違います。また、周囲の人の意見を聞き、協同する力を養うため可能な限りグループワークも試みてきましたが、その進行度合いもグループによって異なります。講義時間が限られる中、皆さんの声も聞きつつ、バランスを取りながら進めたいと思います。																													
受講生へのメッセージ・その他	理念や法律など、抽象的な内容もありますが、なるべく具体的な例を挙げながら、社会的養護や関連する制度の概要について学びを進めたいと思います。データから特徴を読み取ったり、視聴覚教材を用いて議論したりと、双方向の講義を考えています。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教職概論		担当者	鈴木建生		開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修		ナンバリング	CS10107	資格等取得との関連		幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標（学修成果）		テーマ：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 到達目標①：わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、説明できる。 到達目標②：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し、説明できる。 到達目標③：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、説明できる。									
授業概要		この授業では、高等学校等での実務経験を有する教員により、教育制度に関わる様々な歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身に付けるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。									
ディプロマポリシー（DP）と到達目標（学修成果）との対応		◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
			② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画						時間外学習				
1 回	教育・保育の意味 入学前教育「できたことノート」と自己肯定感について、討論する。						事前：保育・幼児教育に関する直近の話題のレポート（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
2 回	教職者の意味 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
3 回	教職者の役割 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
4 回	教職観の変遷 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
5 回	教職の職業的特徴 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
6 回	保育思想の歴史 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
7 回	教職者の地位（教職者の身分の保障） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
8 回	教育者・保育者と法（服務と研修） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
9 回	教育者・保育者の要件 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
10 回	教育・保育の基本姿勢 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
11 回	教職者の資質・能力・要件と養成 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
12 回	教職者の生涯学習 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				
13 回	専門性の発達とキャリア形成 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション						事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる（2h） 事後：リフレクションシートによる振り返り（2h）				

14 回	保育ニーズの多様化 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション	事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)																												
15 回	諸課題への組織的対応と連携乳幼児を取り巻く環境と現代的課題 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション	事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)																												
16 回	定期試験	事前：全回の資料を熟読し、要点を整理して臨む。 事後：試験内容の振り返り。																												
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2018 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2018 その他、適宜、資料・ワークシートを配布する																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 特にありません。																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>期末試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>15%</td><td></td><td>5%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>15%</td><td></td><td>5%</td><td>5%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>15%</td><td></td><td>5%</td><td>5%</td><td>10%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	15%		5%		10%		到達目標②	15%		5%	5%	10%		到達目標③	15%		5%	5%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	15%		5%		10%																									
到達目標②	15%		5%	5%	10%																									
到達目標③	15%		5%	5%	10%																									
ルーブリック評価	・ルーブリック評価：取り入れている・ <div>取り入っていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：リフレクションシートに学習相談の希望を受け付け、随時、相談を行う。 学習成果のフィードバック：リフレクションシートの記述をもとに振り返り集を次回に資料提供し、適宜、学修成果をフィードバックする。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園：教育の基礎的理解に関する科目/教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)保育士：保育の本質・目的に関する科目/教育原理																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	幼稚園教諭のみに範囲を限定せず、保養小中高校の教職についての概論を学修することを目的とした講義を目指しました。みなさんには教育の現状について幅広い視野を持った保育者となってほしいと願っています。ただし、学ぶ範囲が広域となり理解が難しかったとのご意見を頂きました。これらのご意見をふまえて、授業構成を見直してまいります。																													
受講生へのメッセージ・その他	話し合いが苦手でも大丈夫です。コミュニケーションスキルもトレーニングします。保育士だけでなく、教育者としてのあり方、生き方を探究する姿勢を大切にしていきます。教職全体についての課題も皆さんと対話を通して学びます。																													
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
	<div>あり</div> ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	社会的養護Ⅱ		担当者	平松喜代江・鈴木聡		開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件		ナンバリング	CS10108		資格等取得との関連		保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：子どもの人権擁護を基盤に社会的養護を必要とする児童の特性や背景を概説する。さらに、養護の具体的な内容と方法、保育士の役割、地域や家族支援について事例を通して解説する。 到達目標(学修成果)①：子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に説明できる。 到達目標(学修成果)②：施設養護および家庭養護の実践について説明できる。 到達目標(学修成果)③：社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について説明できる。										
授業概要	本演習科目では、社会的養護Ⅰの内容を理解したうえで、具体的に社会的養護を担う施設のあり方や施設養護全体について理解する。子どもの人権擁護を基盤とした要養護問題を抱える子どもの特性や背景を理解し、社会的養護の具体的内容と方法、保育士の役割、地域や関連機関との連携や家族支援について事例を通してディスカッション・グループワークを行い学ぶ。この演習での学びは、本科目だけで完結することなく、他の社会福祉分野にも関心を持ち、相互理解の中で考察を深めてもらいたい。										
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。									
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。									
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。									
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目										
	授業計画						時間外学習				
Ⅰ回	社会的養護における子どもの権利保障の視点①(グループワーク) 社会的養護を必要とする子どもの現状と児童の権利に関する条約を学ぶ						事前：子ども家庭福祉テキスト p22-27 を熟読する(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅱ回	社会的養護における子どもの権利保障の視点②(グループワーク) 社会的養護の対象となる子どもたちの生活から子どもの権利について学ぶ						事前：社会的養護Ⅰテキスト p56-60 を熟読する(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅲ回	社会的養護における子どもの権利保障の視点③(グループワーク) 子どもたちの声から子どもの権利について学ぶ						事前：子ども家庭福祉テキスト p144-150 を熟読する(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅳ回	施設養護の展開過程(グループワーク) 施設養護プロセスを学ぶ						事前：子ども家庭福祉テキスト p46-54 を熟読する(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅴ回	施設養護の特質と施設保育士の役割①(反転授業、グループワーク) 児童養護施設におけるケアの現状と課題を学ぶ						事前：児童養護施設について調べる(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅵ回	施設養護の特質と施設保育士の役割②(反転授業、グループワーク) 乳児院におけるケアの現状と課題を学ぶ						事前：乳児院について調べる(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅶ回	外部講師 社会的養護現場の実践						事前：社会的養護現場について調べる(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅷ回	子どもの権利保障と施設保育士の役割						事前：第Ⅰ回から第Ⅶ回までのテキストと配布レジュメ、自らまとめたノート熟読する(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(0.5h)				
Ⅸ回	児童虐待に関する児童相談所・地域の役割①(ディスカッション) 児童虐待の現状について学ぶ						事前：前期テキストp35-36、p82-83を熟読する。(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)				
Ⅹ回	児童虐待に関する児童相談所・地域の役割②(グループワーク) 児童虐待にかかる保育士の法定役割について学ぶ						事前：児童虐待防止法 第5条、第6条、児童福祉法 第33条の3の2を熟読する。(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)				
Ⅺ回	社会的養護施設における子どもの権利擁護①(グループワーク) 児童養護施設における被措置児童虐待等について学ぶ						事前：テキストp61、p66を熟読する。(0.5h) 事後：テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)				

12 回	社会的養護施設における子どもの権利擁護②(グループワーク) 乳児の権利擁護に求められる特別の関りについて学ぶ	事前:前期テキストp147-149を熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)																												
13 回	外部講師 里親・ファミリーホームの実際	事前:里親制度、ファミリーホームについて調べる。(0.5h) 事後:外部講師の講和をまとめる。(0.5h)																												
14 回	社会的養護における自立支援計画の作成(グループワーク) 児童相談所の援助指針と自立支援計画の関係・意義について学ぶ	事前:テキストp139-143を熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)																												
15 回	社会的養護における子どものトラウマ理解(グループワーク) トラウマ反応に注目した子どもの行動理解について学ぶ	事前:トラウマインフォームド ケアについて調べる。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 Ⅰ 年次社会的養護Ⅰ 使用テキスト Ⅰ 年次子ども家庭福祉使用テキスト																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②	○	○		○		到達目標③	○		○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○																											
到達目標②	○	○		○																										
到達目標③	○		○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr></table> ルーブリック評価: 取り入れている・取り入っていない		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%			10%			到達目標③	20%			10%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%																											
到達目標②	20%			10%																										
到達目標③	20%			10%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/社会的養護Ⅱ																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	「考えを持つ、考えを伝える、考えを聴く」を目指して、グループワークを進めてきました。メンバーもできるだけ変えるよう試みました。グループワークはどうしても個人のペースでは進められない学び方ですが、他のいろいろなメンバーの意見を聴く事ができるのは素晴らしい点だと思います。仕事は「グループワーク」そのものです。周囲の人から学ぶ面白さを感じて頂けるように取り組んでまいります。																													
受講生へのメッセージ・その他	演習やグループワークを随所に設定しているため、席を指定しています。また、それに伴い授業中の積極性や協調性も求められます。授業中にスマートフォンを用いて、質疑応答やクラス内での情報交換を実施する場面もあります。Ⅰ 年前期に使用したテキストを使用しますので、ご準備下さい。																													
実務経験の有無	あり・なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり・なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	教育と社会	担当者	南泰代	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10109	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：幼稚園を中心とした学校をめぐる制度的、社会的、経営的事項について必要な事項を学ぶ。 到達目標(学修成果)①：学校制度、特に幼稚園を中心とする制度や思想の変遷、意義について理解できる。 到達目標(学修成果)②：コンプライアンス、守秘義務等を含めて、学校経営に必要とされる基礎的事項について学び、説明できる。 到達目標(学修成果)③：わが国における教育に関する諸問題を解決するための基礎的事項を学び、その方法について考察できる。								
授業概要	教育を実践していくうえで必要とされる社会的、制度的及び学校経営の基礎的知識を学生自身が主体的に理解することを目指す。近年のわが国の急激な変容は様々な問題を提起してきている。教育の社会的、制度的、経営的側面を切り口として、学校・家庭・社会を取り上げ、広汎な教育のあり方について理解することを目的とする。適宜、ディスカッションやグループワークを取り入れ、学生同士で共有できるように工夫をする。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 教育と社会の関係について					事前：新聞などを読み、社会の事象に興味を持つ(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
2 回	学校制度の変容 ～ これからの学校教育					事前：教科書1章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
3 回	社会の動向とカリキュラム - 教育内容と教育方法					事前：教科書2章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
4 回	情報化の進展と学校教育					事前：教科書3章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
5 回	学力問題に関する世界的な動向					事前：教科書4章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
6 回	教師教育改革の動向					事前：教科書5章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
7 回	社会の変化と幼児教育					事前：教科書6章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
8 回	学校の危機管理と学校安全 保育所・幼稚園・こども園における視点を含む					事前：教科書7章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
9 回	地域と学校の連携——学校評価とコミュニティ・スクール					事前：教科書8章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
10 回	子どもの生活をふまえた学校と家庭の連携					事前：教科書9章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
11 回	子どもの貧困と虐待 ― 福祉と教育の連携					事前：教科書10章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
12 回	義務教育と不登校					事前：教科書11章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
13 回	マイノリティと学校教育					事前：教科書12章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			

14回	ジェンダーと教育	事前:教科書13章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)					
15回	共生のための教育	事前:教科書14章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)					
16回	定期試験						
テキスト	酒井朗編著『現代社会と教育』ミネルヴァ書房、2021年						
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』東洋館出版、2017年 日本社会教育学会編『「学習の自由」と社会教育』東洋館出版、2020年						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○					
	到達目標②	○	○	○	○		
	到達目標③	○	○	○			
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	30%					
	到達目標②	20%		10%		20%	
	到達目標③	10%		10%			
	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する質問や疑問を通して相談を受ける。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 保育士:保育の本質・目的に関する科目/各指定保育士養成施設において設定						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッセージ・その他	普段の生活から、社会や世界情勢などにアンテナを張っておきましょう。そのアンテナは子どもたちを育てる立場となる人にとって、重要な見地を与えてくれることとなります。何気ない瞬間が大きな意味を持ちます。						
実務経験の有無	あり・ <u>なし</u>		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり・ <u>なし</u>	

科目区分	専門教育科目	科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	担当者	堀本浩史		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS10201	資格等取得との関連	保育士：選択必修・児童厚生員 2 級：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：児童福祉施設である児童館・放課後児童クラブの機能と運営方法について理解する。 到達目標(学修成果)①：児童館・放課後児童クラブの社会的な役割について理解し、それを実践することができる。 到達目標(学修成果)②：児童館・放課後児童クラブのこども支援について理解し、遊びのプログラムを企画できる。 到達目標(学修成果)③：児童館・放課後児童クラブの地域の健全育成環境づくりについて、児童厚生員の役割を説明できる。									
授業概要	児童館職員として勤務してきた30年以上の経験を生かし、0歳から18歳未満のこどもの支援についての方法や実践例について学ぶことができる。児童厚生員や児童福祉にかかわる職員として基礎的・基本的な知識や技能を学び習得できる。 遊びのプログラムの実践例について学び、具体的に習得できる。 地域の健全育成環境づくりにつての実践例について学び、地域に求められる児童館・放課後児童クラブの役割を見通すことができる。									
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習				
1 回	オリエンテーション 児童館とは何か、放課後児童クラブとは何か 児童館の概要					事前：児童館・放課後児童クラブについて調べる(2h) 事後：資料の読み直し授業の振り返りをする(2h)				
2 回	児童館の機能と役割 児童館の種別、機能、特徴					事前：様々な児童館について調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
3 回	児童館の特性、児童館の現状と課題					事前：児童館の特性について理解したうえで再度調べる(2h) 事後：児童館の課題について把握する(2h)				
4 回	遊びによる子どもの育成					事前：小学生の頃の遊びについて振り返る(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
5 回	こどもの居場所としての提供 こどもが意見を述べる場の提供					事前：こどもの居場所と思える場所について調べる(2h) 事後：こどもの意見を取り入れる方法について振り返る(2h)				
6 回	配慮を必要とするこどもの対応					事前：子どもの発達障害について調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
7 回	子育て支援の実施					事前：実際に行われている子育て支援について調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
8 回	地域の健全育成環境づくり ボランティアの育成					事前：地域で行われているこどもに関わる活動について調べる(2h) 事後：地域活動に参加する(2h)				
9 回	放課後児童クラブの実施と連携					事前：放課後児童クラブについて調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
10 回	子育て支援事業の実施 グループワーク(乳幼児保護者が求めていること)					事前：親子で参加できる子育て支援事業について調べる(2h) 事後：子育て支援の課題についてまとめる(2h)				
11 回	子育て支援事業の実施 グループワーク(乳幼児親子対象の企画書の作成)					事前：乳幼児に対するレクリエーションについて調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
12 回	遊びによる育成支援の実践					事前：対象を考えた遊びについて調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
13 回	遊びによる育成支援の実施 グループワーク(現代のこどもの課題について)					事前：現代社会の子どもに関する課題について調べる(2h) 事後：現代社会の子どもの課題について整理する(2h)				

14回	遊びによる育成支援の実施 グループワーク(こどもが楽しく課題が解決できる事業について考える)	事前:こどもが遊ぶレクリエーションについて調べる(2h) 事後:発表できる内容について整理する(2h)																												
15回	遊びによる育成支援の実際 グループワーク(企画書の発表)	事前:企画書について調べる(2h) 事後:授業の振り返りをする(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②改訂版 児童館論(児童館ガイドライン準拠テキスト)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <td>到達目標(学修成果)及び観点</td> <td>知識・理解</td> <td>思考・判断</td> <td>関心・意欲</td> <td>技能・表現</td> <td>その他()</td> </tr> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○	○		到達目標②		○		○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○	○																										
到達目標②		○		○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <td>評価方法・到達目標(学修成果)</td> <td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td> <td>小テスト</td> <td>課題・提出物・レポート</td> <td>発表・実技</td> <td>取り組み姿勢</td> <td>その他()</td> </tr> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%			10%	5%		到達目標②	20%		10%	10%	5%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%			10%	5%																									
到達目標②	20%		10%	10%	5%																									
到達目標③	10%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了後に教室もしくは非常勤講師室にて受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック:グループワークでの内容にかかわる評価や解説を行います。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>全般的に良い評価をいただいたので、さらに研鑽を積み継続していきたいと思います。</p> <p>今年度は遊びの実践やグループワークも行うなど就職後もできるだけ活用しやすい内容にしていきたいと考えています。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	児童福祉などのこども支援にかかわる仕事に就きたい人が、仕事に就いてから役立てるような授業ができるようにしたいと考えています。共に学び共に成長しましょう。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	教育方法と技術	担当者	鈴木建生	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：理解しやすい教授技術を習得する 到達目標①：子ども達に求められる資質や能力を育成するために必要な教育方法を説明できる。 到達目標②：教育の目的に適した指導技術を理解し、活用できる。 到達目標③：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用の育成を視野に入れた適切な教材の作製や活用に関する基礎的な能力を身につけて、活用できる。								
授業概要	この授業では、高等学校等での実務経験を有する教員により、これからの社会を担う子供達の資質や能力を育成するための教育方法や技術習得する。教育方法の基礎的理論と実践に基づいた内容を学習する。学習サイクルと相互評価法などの学習評価法を体験理解する。基礎的な学習指導理論に基づき授業や保育を行うための授業技術を体験理解する。 子供達の学習効果をたかめるために情報機器を活用した効果的な授業や教材作成の技術を習得する。また、情報モラルを含む情報活用能力を高める指導法を学ぶ。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標（学修成果） との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション（授業の進め方、取り組み方） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：シラバスを熟読し、必要に応じてテキストを熟読する。(2h) 事後：各自でこの科目の学習計画を立てる。(2h)				
2 回	幼児教育方法の理解 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
3 回	様々な活動と指導方法・援助 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
4 回	課題活動と指導方法・援助 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
5 回	行事活動と指導方法・援助① 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
6 回	行事活動と指導方法・援助② 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
7 回	異文化理解と地域連携 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
8 回	評価の方法（PDCA サイクル） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
9 回	評価方法の実践（相互評価法） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション				事前：事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
10 回	評価方法の実践（評価の事後処理、リフレクション活動） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション				事前：事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
11 回	評価方法の実践（ PDCA サイクル、KJ 法） 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション				事前：事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				
12 回	教育教材の理解と実践 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション				事前：学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(2h)				

13 回	評価方法の実践 (Web 評価法) 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション	事前: 事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後: 当日学習した内容の復習を行う。(2h)																																							
14 回	Web 評価に基づく振り返り活動 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション	事前: 事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後: 当日学習した内容の復習を行う。(2h)																																							
15 回	教育方法と技術に関するまとめ 個人思考・ペアワーク・グループワーク・全体討論・リフレクション	事前: これまでの学習した内容を整理する。(2h) 事後: これまでの学習した内容を総括する。(2h)																																							
16 回	定期試験	事前: 期末筆記試験の準備を行う。(2h) 事後: 出来なかった内容についてリフレクションを行う。(2h)																																							
テキスト	適宜、資料・ワークシート等を配布しますので、テキストは使用しません。																																								
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『この一冊で分かるアクティブラーニング』PHP出版																																								
到達目標 (学修成果) 及び観点	<table><tr><th colspan="7">【到達目標 (学修成果) 及び観点】</th></tr><tr><td>到達目標 (学修成果) 及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						【到達目標 (学修成果) 及び観点】							到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()		到達目標①	○	○	○	○			到達目標②	○	○	○	○			到達目標③	○	○	○	○		
【到達目標 (学修成果) 及び観点】																																									
到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()																																				
到達目標①	○	○	○	○																																					
到達目標②	○	○	○	○																																					
到達目標③	○	○	○	○																																					
評価方法・基準	<table><tr><th colspan="7">【評価方法・基準】</th></tr><tr><td>評価方法・到達目標 (学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>15%</td><td></td><td>5%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>15%</td><td></td><td>5%</td><td>5%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>15%</td><td></td><td>5%</td><td>5%</td><td>10%</td><td></td></tr></table>						【評価方法・基準】							評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	15%		5%		10%		到達目標②	15%		5%	5%	10%		到達目標③	15%		5%	5%	10%	
【評価方法・基準】																																									
評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																																			
到達目標①	15%		5%		10%																																				
到達目標②	15%		5%	5%	10%																																				
到達目標③	15%		5%	5%	10%																																				
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・取り入れていない																																								
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 希望する場合はリフレクションシートへ書き込むか、授業終了時に申し出てください。 学習成果のフィードバック: リフレクション集を作成し、適宜フィードバックします。																																								
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 / 教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士: 保育の本質・目的に関する科目 / 各指定保育士養成施設において設定																																								
授業評価アンケート結果を受けての改善点	概論にとどまらず、具体的な教育方法と技術の講義を目指しましたが、学ぶ範囲が広域となり理解が難しかったとのこと意見を頂きました。また、さらに実践的な演習も取り入れて、授業構成を見直してまいります。																																								
受講生へのメッセージ・その他	ペアワークの基本からやりますので、安心してください。対話の技法は聞くことと質問することから成り立っています。教育方法を理解し、教育技術を身につけます。特にコミュニケーションスキルについては意識して取り組んでください。実習や保育現場で傾聴・質問・承認のスキルの教育技術の修得に努めます。オンライン授業の場合でもペアワークなどの時間を積極的に活用してください。																																								
実務経験の有無	あり・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり・なし																																				

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽表現Ⅰ	担当者	渡辺ユリナ・村木清子・ 北川由紀・宮田美佐・ 奥村優	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：子どもの音楽表現を読み取る保育者としての視点と価値観に着目し、音楽・音楽表現の知識と技能を習得する 到達目標(学修成果)①：子どもの発達を理解し、生活の中の音楽・音楽表現を読み取る視点を持つことができる 到達目標(学修成果)②：自身の思いや考えを固定観念にとらわれず、また臆することなく表現できる 到達目標(学修成果)③：保育・教育現場で用いる鍵盤楽器の基礎技術を身につけることができる								
授業概要	幼稚園教諭や保育士を目指す学生に必要な音楽・音楽表現の知識と技能を習得することを目的とした授業である。乳幼児の発達や 学びの過程を理解し、また表現活動に影響を与える保育者の多様な視点や価値観を認識した上で、音楽・音楽表現およびその指導 方法について学ぶ。グループワークを行い、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。								
ディプロマポリ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、 他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に 貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション、自己表現、音楽表現について ピアノ個人指導					事前：入学前教育での課題取り組み(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅱ回	幼児期の音楽・音楽表現(Ⅰ)領域「表現」と子どもの音楽的発達 ピアノ個人指導					事前：子どもの声域や発達について調べる(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅲ回	楽典(Ⅰ)読譜の方法(譜表と音名、記号、音の長さ、リズム、拍子) ピアノ個人指導					事前：音の長さについて調べる(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅳ回	聴く(Ⅰ)生活の中の音楽(園庭) ピアノ個人指導					事前：音の日記を書く(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅴ回	聴く(Ⅱ)生活の中の音楽(保育室) ピアノ個人指導					事前：音の日記を書く(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅵ回	楽典(Ⅱ)読譜の練習(譜表と音名、変化記号、音の長さ、リズム、拍子) ピアノ個人指導					事前：課題曲の読譜をする(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅶ回	表現(Ⅰ)音楽表現の多様性(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：サウンドアートについて調べる(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅷ回	表現(Ⅱ)音楽表現と言葉(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：絵本を選び持参する(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅸ回	表現(Ⅲ)音楽表現と物語(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：音の工夫をした読み聞かせの練習をする(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅹ回	楽典(Ⅲ)読譜の方法(音楽用語、演奏記号) ピアノ個人指導					事前：音楽用語と演奏記号について調べる(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅺ回	表現(Ⅳ)音楽表現と色、形(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：色・形を選び写真を撮る(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅻ回	表現(Ⅴ)音楽表現と動き(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：動きと音の融合を探す(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅼ回	こどもの歌(Ⅰ)保育における歌唱活動(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：保育の歌唱について調べる(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			
Ⅽ回	こどもの歌(Ⅱ)導入(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：課題曲の導入を考える(Ⅰh) 事後：その都度、指示した課題を習得する(Ⅰh)			

15 回	こどもの歌(3) 模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導	事前:課題曲の練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	大海由香 古谷和子 肝付文子/編曲 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 第2巻 Gakken (2016)(2017) 保育のうた 155 ひかりのくに(2022)																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td><td>35%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		15%				到達目標②			5%		35%		到達目標③	30%				5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		15%																											
到達目標②			5%		35%																									
到達目標③	30%				5%																									
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている <div>取り入れていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー 学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士: 保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	授業を通して、「音楽とは何か」「豊かな音楽表現とは何か」を自分なりに考えていきましょう。 技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <div>なし</div>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の造形表現Ⅰ	担当者	安藤恭子・河合延佳	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20103	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ： 幼児の造形表現活動を豊かにするために、製作等を通して知識や技術を体得し、感性を磨く。 到達目標(学修成果)①：画材や道具などの基礎基本に関する技術を習得する。 到達目標(学修成果)②：幼児の造形表現の特徴の概要を知り、幼児と一緒に楽しみながら製作する内容の学習過程の実技を通して学ぶ。 到達目標(学修成果)③：幼児が楽しく安全に遊べるおもちゃや季節感のある作品づくりを試みる。								
授業概要	本科目は美術教育を専門に学んだ小学校教員として、さらに岐阜県内公立小学校校長としての実務経験を有する教員（安藤恭子）により、色と形に関わる基礎基本的な内容と、将来の保育者としての造形に関わる内容を鑑みて体系的に習得する。とりわけ、クレヨンやパス、絵具などの画材を幼児に習得させ易い内容で実技を通し、グループワークなどを取り入れて学ぶ。 身近な廃材などを使って、形や色、組み合わせの工夫をして、活動する幼児の姿を思い浮かべながら製作する。その際、はさみや用途に応じた接着剤の使用方法を体得する。 季節感を大切にしたい題材や作って遊ぶことのできる題材を設定し、つくり出す喜びと充実感を持つ。 「計画➡材料準備➡製作➡鑑賞➡片付け➡振り返り」のサイクルを実施する。作品や資料はオリジナルファイルに収め累積する。								
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション ファイルの作成法、テキストの活用法					事前：テキストP19～21 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅱ回	乳幼児期の造形表現に関わる発達 乳幼児期及び児童期の絵画表現の特徴とすばらしさ					事前：テキストP218～221 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅲ回	丸が描ければあなたもアーティスト					事前：○から思いつくものを考えておく。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅳ回	クレヨンやパス、色コンテ、カラーペン、色鉛筆の扱い方					事前：テキストP54～63 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅴ回	食べ物に例えて学ぶ水彩絵の具の扱い方					事前：テキストP50～53 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅵ回	切る、貼るの基礎基本					事前：テキストP82～85 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅶ回	切って貼ってこいのぼり①					事前：テキストP82～85 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅷ回	切って貼ってこいのぼり②					事前：テキストP82～85 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅸ回	ピッカピカ!元気の出る魔法のマイク①(身近な材料の活用—ラップの芯棒等)					事前：テキストP186 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅹ回	ピッカピカ!元気の出る魔法のマイク②(身近な材料の活用—ラップの芯棒等)					事前：テキストP186 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅺ回	見て描く絵(水彩画)					事前：描く対象の選択 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			
Ⅻ回	幼児に人気のアニメのキャラクターにチャレンジ					事前：カレンダーのアニメ等鑑賞 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)			

13 回	モダンテクニックアラカルトⅠ（マーブリング・デカルコマニー折り染め）	事前：テキストP112～119（0.5H） 事後：振り返りシートの記入（0.5H）																												
14 回	パフェ食べたい(カラスプレーと色鉛筆のミックス描法)	事前：テキストP62～63（0.5H） 事後：振り返りシートの記入（0.5H）																												
15 回	オリジナルファイルの作品等の整理・表紙絵の一部作成 前期のまとめレポート(作品製作の工夫、知識理解、学習態度)	事前：テキスト全体（0.5H） 事後：オリジナルファイルの保存（0.5H）																												
16 回	定期試験																													
テキスト	幼児造形の基礎(萌文書林)（安藤恭子・共著）																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 美術教育(教育美術振興会)　MOE(白泉社) 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②	○		○			到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②	○		○																											
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		10%		10%		到達目標②	20%		10%		10%		到達目標③	10%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		10%		10%																									
到達目標②	20%		10%		10%																									
到達目標③	10%		10%		10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価： 取り入れている <div>取り入っていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：授業後やオフィスアワー（木曜日：昼休み）にて受け付ける。授業に関連した作品作りについて追及したい場合や幼児の造形表現の関わり方を更に相談したい場合は、図工室や準備室を開放して、相談にのる。 学習成果のフィードバック：オリジナルファイルを基に、整理しながら今後の自身の課題を色、形、態度の視点から見つめ直し、よりよい学習ができるように振り返りシートに明確に記述し変化を確認するようにする。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園：領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士：保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	一人一人が、線描、彩色、切る、貼るといった基本的な技術力が十分に授業の中で身に付き、力が向上するように、授業の構造化を工夫して行い、みがき合いの場をより充実させる。																													
受講生へのメッセージ・その他	オリジナルファイルに毎時間、努力し工夫した作品や資料などを収め、やがて様々な現場で役立ててください。																													
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	保育内容総論	担当者	田中裕子	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20104	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：保育内容に対する総合的な理解を深める。 到達目標（学修成果）①：幼稚園教育要領における保育内容の「領域」別の「ねらい」や「内容」について理解し、保育教材に反映できる。 到達目標（学修成果）②：遊びの意義、環境との主体的なかわり、生活経験と保育内容との関係について理解し、言語的に説明できる。 到達目標（学修成果）③：情報機器及び教材の活用の視点を含め、保育教材に対する理解と基礎的な保育技術を修得する。								
授業概要	本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により、保育活動の基盤となる「幼稚園教育要領」を中心に幼稚園における保育内容の基礎と内容を学ぶ。また保育内容の中核となる「領域」について概念を理解するとともに、保育そのものを総合的にとらえる視点、あるいは子ども理解の一助となるための必要な知識・技術を習得する。なお、授業内では複数の保育教材を取り上げ、自ら実践することで自身の保育技術向上も図る。								
ディプロマポリシー （DP）と到達目 標（学修成果） との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎＝DP 達成のために特に重要な項目 ○＝DP 達成のために重要な項目 △＝DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	第1章 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容 乳幼児にとっての環境とは					事前：テキスト第1章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シートを利用しての振り返り（0.5h）			
2 回	第2章 保育所の役割と保育内容 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等にはそれぞれ異なる役割があるが、保育内容は共通であることを確認する。					事前：テキスト第2章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート①を利用しての振り返り（0.5h）			
3 回	第3章 幼稚園の役割と保育内容					事前：テキスト第3章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート②を利用しての振り返り（0.5h）			
4 回	第4章 保育内容を展開するプロセス					事前：テキスト第4章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート③を利用しての振り返り（1.5h）			
5 回	第5章 0～2 歳児の保育内容とその展開					事前：テキスト第5章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート④を利用しての振り返り（1.5h）			
6 回	第6章 3歳児の保育内容とその展開					事前：テキスト第6章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート⑤を利用しての振り返り（1.5h）			
7 回	第7章 4・5歳児の保育内容とその展開					事前：テキスト第7章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート⑥を利用しての振り返り（1.5h）			
8 回	第8章 異年齢児の保育内容とその展開 それぞれの発達過程（年齢）に応じた保育を踏まえたうえで、異年齢での交流を図る保育について考える。異年齢保育の重要性、教育的効果、実施にあたっての課題などについて事例を通して協議する。					事前：テキスト第8章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート⑦を利用しての振り返り（1.5h）			
9 回	第9章 保幼小連携を創造する保育内容 幼児期に培うことが望まれる資質・能力、就学までに育ってほしい姿について理解する。就学前教育が小学校教育につながるためにはどのような取り組みを行えばよいのか、交流・接続の事例を通して検討する。					事前：テキスト第9章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート⑧を利用しての振り返り（1.5h）			
10 回	第10章 子育て支援を創造する保育内容 地域の子育て支援への取り組み、地域資源を活用した保育について検討する。自分の居住する地域（行政）においてどのような子育て支援が行われているのか、幼児は地域の資源・人々からどのような学びを得ているのか、具体事例を通して検討する。					事前：テキスト第10章を読んでおく（0.5h） 事後：手遊びの確認と課題シート⑨を利用しての振り返り（1.5h）			

11 回	第11章 地域に開かれた保育所・幼稚園を創造する保育内容 乳幼児の発達と地域社会のかかわりを学ぶ。	事前:テキスト第11章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シート⑩を利用しての振り返り(1.5h)																																			
12 回	第12章 わが国における保育内容の変遷 戦前の保育内容、戦後の保育内容を学ぶ。	事前:テキスト第12章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シート⑪を利用しての振り返り(1.5h)																																			
13 回	第13章 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容を学び、日本の幼児教育・保育との違いを知る。	事前:テキスト第13章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シート⑫を利用しての振り返り(1.5h)																																			
14 回	第14章 これからの保育内容の課題として特別支援保育、多文化共生保育、安全に配慮した保育などについて考える。	事前:テキスト第14章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シート⑬を利用しての振り返り(1.5h)																																			
15 回	まとめ これまでの学びを総合して、すべての子どもが安心して園で過ごすことができる保育を保育者が協働して作っていくことが必要性であることを確認する。	事前:15 回の授業を振り返り、レポートを作成する(0.5h) 事後:15 回の課題シート⑭を利用しての振り返り(1.5h)																																			
16 回	定期試験																																				
テキスト	豊田和子編著、田口他共著「保育内容総論(第2版)」みらい、2018 年																																				
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、 厚生労働省 2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</td></tr><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②		○	○			到達目標③	○		○	○						
【到達目標(学修成果)及び観点】																																					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①	○	○		○																																	
到達目標②		○	○																																		
到達目標③	○		○	○																																	
評価方法・基準	<table><tr><td colspan="7">【評価方法・基準】</td></tr><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>25%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>25%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr></table>		【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%		10%	10%	20%		到達目標②	25%						到達目標③				10%		
【評価方法・基準】																																					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①	25%		10%	10%	20%																																
到達目標②	25%																																				
到達目標③				10%																																	
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ 取り入れていない																																				
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業時に提出する課題シートに記入された質問や疑問を通して相談にのる他、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容総論																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点	良い評価を得ています。 より一層分かりやすく、深い学びができるよう、工夫をしていきます。																																				
受講生へのメッセージ・その他	毎回シラバスで授業内容を確認して授業に臨むとともに、授業後は課題シートを提出すること。																																				
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ なし																																		

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽表現Ⅱ	担当者	渡辺ユリナ・村木清子・ 北川由紀・宮田美佐・ 奥村優	開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20105	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：音楽・音楽表現の知識と技能を習得し、保育者としての音楽表現や子どもの音楽表現の育成に活かす 到達目標(学修成果)①：表現の本質を理解し、他者に向けた表現力を高めると共に多様な表現を認め受け止めることができる 到達目標(学修成果)②：遊びの中での音楽表現活動を展開するために、試行錯誤し工夫して課題解決に向かうことができる 到達目標(学修成果)③：保育・教育現場で用いる鍵盤楽器の基礎技術を身につけることができる								
授業概要	幼児の音楽表現Ⅰにおける学びを基盤とし、幼稚園教諭や保育士を目指す学生に必要な音楽・音楽表現の知識と技能を習得することを目的とした授業である。得た知識と技能を活かして、保育者の子どもに対する、または子ども自身の豊かな音楽表現を育成する方法を学ぶ。グループワークを行い、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション、音楽表現について ピアノ個人指導					事前：「幼児の音楽表現Ⅰ」の学習内容の復習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅱ回	手遊びうた(Ⅰ) 音・音楽あそびノートの作成(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：様々な手遊びうたについて調べる(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅲ回	図形楽譜(Ⅰ) 考案(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：図形楽譜について調べる(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅳ回	図形楽譜(Ⅱ) 試行(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：色と形にあった音と音の出し方を探す (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅴ回	図形楽譜(Ⅲ) 実践(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：色と形にあった音と音の出し方を決める (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅵ回	楽典(Ⅰ) コード奏の基本 ピアノ個人指導					事前：コードについて調べる (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅶ回	楽典(Ⅱ) コード奏の方法 ピアノ個人指導					事前：課題曲のコードを調べる(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅷ回	音で伝える詩の感情・情景(Ⅰ) 考案(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：詩の意味について調べる (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅸ回	音で伝える詩の感情・情景(Ⅱ) 試行(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：詩を通して子どもに伝えたいことを考える(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅹ回	音で伝える詩の感情・情景(Ⅲ) 試行(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：詩にあった音と音の出し方を探す (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅺ回	音で伝える詩の感情・情景(Ⅳ) 実践(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：詩にあった音と音の出し方を決める(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅻ回	こどもの歌(Ⅰ) おはよう、おかえり、おべんとうのうた(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：保育の歌唱場面について調べる (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅼ回	こどもの歌(Ⅱ) 保育における歌唱活動(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：保育の歌唱について調べる(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
Ⅽ回	こどもの歌(Ⅲ) 導入(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：課題曲の導入を考える (1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			

15 回	こどもの歌(4) 模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導	事前:課題曲の練習をする (1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>15%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>15%</td><td></td><td>15%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		10%		15%		到達目標②			15%		15%		到達目標③	30%				5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		10%		15%																									
到達目標②			15%		15%																									
到達目標③	30%				5%																									
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている <div>取り入れていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワー 学習成果のフィードバック:課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	授業では常に、子どもの表現を読み取り、育てる保育者であることを意識において表現しましょう。 技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <div>なし</div>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の造形表現Ⅱ		担当者	安藤恭子・河合延佳		開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20106		資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修					
テーマ・授業の到達目標(学修成果)		テーマ:幼児の造形表現活動を豊かにするために、製作等を通して知識や技術を体得し、感性を磨く。 到達目標(学修成果)①:画材や道具などの基礎基本に関する技術を習得する。 到達目標(学修成果)②:幼児の造形表現の特徴を知り、幼児と一緒に楽しみながら製作する内容の学習過程の実技を通して学ぶ。 到達目標(学修成果)③:幼児が楽しく安全に遊べるおもちゃや季節感のある作品づくりを試みる。									
授業概要		本科目は美術教育を専門に学んだ小学校教員として、さらに岐阜県内公立小学校校長としての実務経験を有する教員（安藤恭子）により、色と形に関わる基礎基本的な内容と、将来の保育者としての造形に関わる内容を鑑みて体系的に習得する。とりわけ、クレヨンやパス、絵具などの画材を幼児に習得させ易い内容で実技を通し、グループワークなどを取り入れて学ぶ。 身近な廃材などを使って、形や色、組み合わせの工夫をして、活動する幼児の姿を思い浮かべながら製作する。その際、はさみや用途に応じた接着剤の使用方法を体得する。 季節感を大切にしたい題材や作って遊ぶことのできる題材を設定し、共同で作る体験をしながらつくり出す喜びと充実感を持つ。 「計画➡材料準備➡製作➡鑑賞➡片付け➡振り返り」のサイクルを実施する。作品はオリジナルファイルに収め累積する。									
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応			① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
		授業計画					時間外学習				
1回		モダンテクニック・アラカルトⅡ (スクラッチング、スタンピング、吹き流し)					事前:テキストP120～131(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
2回		共同製作・グループごとに畳一枚分の大きな紙にローラー走らせたり手足のスタンピング等を施す。					事前:テキストP200～201(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
3回		共同製作・前回の色や形から想像して人や動物などを描きこむ。 〇〇がいっぱい!!					事前:テキストP207～223(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
4回		何色がすき?カラフルペットさん①(水あり) (身近な人工材料工作)					事前:テキストP182(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
5回		何色がすき?カラフルペットさん②(水無し)					事前:テキストP182(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
6回		何色がすき?カラフルペットさん (発表とイラスト、表紙絵の一部)					事前:テキストP182(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
7回		和紙で作るミニタペストリー(スプレーと文字)					事前:タペストリーに書く文字決め(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
8回		落ち葉を集めて葉っぱマン①(顔づくり)(自然物徹底工作)					事前:テキストP92～93(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
9回		落ち葉を集めて葉っぱマン②(胴体づくり)					事前:胴体を筒型か顔と同じ素材が選択しておく。(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
10回		落ち葉を集めて葉っぱマンの発表とイラスト画					事前:葉っぱマンの発表準備(0.5H) 事後:振り返りシートの記入				
11回		どんな色が好き? 歌に合わせて描いた絵の発表					事前:好きな色決めと描くものを決める(0.5H) 事後:振り返りシートの記入				
12回		モデル人形を描く(ポーズを決め、見ることに徹底)					事前:テーマに合ったモデル人形のフォーム作り。(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				

13 回	紙粘土でつくる雪だるま	事前:テキストP72～75 (0.5H) 事後:振り返りシートの記入 (0.5H)					
14 回	石ころの大変身(身近な自然素材とアクリル絵の具)	事前:テキストP72～73 (0.5H) 事後:振り返りシートの記入 (0.5H)					
15 回	子どもの絵のすばらしさ(絵には魔法がかけられる!!)・ 全体のまとめレポート	事前:展示された作品を鑑賞しておく (0.5H) 事後:振り返りシートの記入 (0.5H)					
16 回	定期試験						
テキスト	幼児造形の基礎(萌文書林) (安藤恭子・共著)						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 美術教育(教育美術振興会) MOE(白泉社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○			○		
	到達目標②	○		○			
	到達目標③		○	○			
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	10%		10%		10%	
	到達目標②	20%		10%		10%	
	到達目標③	10%		10%		10%	
	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入れている</u>						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:授業後やオフィスアワー(木曜日:昼休み)にて受け付ける。授業に関連した作品作りについて追究したい場合や幼児の造形表現の関わり方を更に相談したい場合は、図工室や準備室を開放して相談にのる。 学習成果のフィードバック:オリジナルファイルを基に、整理しながら今後の自身の課題を色、形、態度の視点から見つめ直し、よりよい学習ができるように振り返りシートに明確に記述し、変化を確認するようにする。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	つけたい力が一人一人に身についたと実感できるように、自分の作品の良さを感じ取る場や、仲間の作品の良さや、製作への態度のすばらしさを感じ取ることでできる場を十分に設定する。						
受講生へのメッセージ・その他	オリジナルファイルに毎時間、努力し工夫した作品や資料などを収め、やがて様々な現場で役立ててください。						
実務経験の有無	<u>あり</u> ・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<u>あり</u> ・なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	人間関係指導法	担当者	平野晃子	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	演習1 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20107	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:乳幼児の人間関係における発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」のねらいや指導法について理解を深める。 到達目標(学修成果)①:人間関係における発達や学びの過程を理解し、保育実践につなげていくことができる。 到達目標(学修成果)②:発達理論を基に、乳幼児への周囲の人の関わりの重要性を理解し、説明することができる。 到達目標(学修成果)③:領域「人間関係」に関わる指導実践において、主体的に取り組むことができる。								
授業概要	乳幼児期の人間関係における発達を学び、周囲の人の関わりの重要性を理解し、保育者としての適切な指導・支援の在り方について考えを深める。講義では、領域「人間関係」に関連のある多様な教材・教具を可能な限り取り上げることで、実践現場に生きる知識を獲得できるようにする。トラブルが起きた時の場面検討や場面指導からは、トラブルに柔軟に対応する力、知識を実践につなげていく力などを養えるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介、アンケート					事前:自身における「人間関係」を振り返る(0.5h) 事後:学びたいことをまとめる(0.5h)			
2 回	保育の基本と領域「人間関係」、子どもを取り巻く社会の状況					事前:教科書p2～29を読む(0.5h) 事後:教科書p2～29に関して考えをまとめる(0.5h)			
3 回	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取り扱い					事前:教科書p30～44を読む(0.5h) 事後:教科書p30～44に関して考えをまとめる(0.5h)			
4 回	0歳から5歳児における人との関わりの発達と保護者の援助					事前:教科書p46～77を読む(0.5h) 事後:教科書p46～77に関して考えをまとめる(0.5h)			
5 回	愛着形成の理論と実際 ふれあいあそび体験					事前:教科書p78～92を読む(0.5h) 事後:ふれあいあそび体験を通して考えたことをまとめる、教科書p78～92について考えたことをまとめる(0.5h)			
6 回	子どもの自立心、子どもの自己主張と自己発揮 絵本紹介					事前:教科書p93～122を読む(0.5h) 事後:教科書p93～122に関して考えをまとめる(0.5h)			
7 回	いざこざ・けんかなどのトラブル 場面検討:「こんなときどうする?」(ペアワーク)					事前:教科書p123～139を読む(0.5h) 事後:場面検討をとおして考えたことをまとめる、教科書p123～139に関して考えをまとめる(0.5h)			
8 回	共感・思いやり、道徳性・規範意識 紙芝居紹介					事前:教科書p140～165を読む(0.5h) 事後:教科書p140～165に関して考えをまとめる(0.5h)			
9 回	コミュニケーション能力 特別支援教育におけるSSTの紹介					事前:教科書p166～181を読む(0.5h) 事後:SST について考えをまとめる、教科書p166～181に関して考えをまとめる(0.5h)			
10 回	個と集団の育ち、子どもを取り巻く人間関係					事前:教科書p182～212を読む(0.5h) 事後:教科書p182～212に関して考えをまとめる(0.5h)			
11 回	小学校生活への接続と連携 ～小1プロブレムを考える～ (グループワーク)					事前:小学校生活への移行について調べる(0.5h) 事後:対策について考えをまとめる(0.5h)			
12 回	いざこざ・トラブルを想定した場面指導:指導案の作成 (グループワーク)					事前:指導案の作成方法を調べる(0.5h) 事後:グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)			

13 回	いざこざ・トラブルを想定した場面指導：指導案の作成、発表準備（グループワーク）	事前：グループで大まかな構成を話し合う（0.5h） 事後：グループワークで考えたことをまとめる（0.5h）																												
14 回	模擬保育（グループワーク）	事前：グループで打ち合わせ、発表準備をする（1h～） 事後：グループで振り返り、改善点を整理する（0.5h）																												
15 回	振り返りとまとめ	事前：指導案の修正、学習内容を振り返ってまとめる（1h） 事後：全授業を通して学んだことをまとめる（1h）																												
16 回	定期試験（成績評価40%相当）	事前：復習（2h～）																												
テキスト	対話的・深い学びの保育内容 人間関係,萌文書林 ,2019 幼稚園教育要領 ,フレーベル館 ,2017 保育所保育指針 ,フレーベル館 ,2017 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ,フレーベル館 ,2017																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標（学修成果）及び観点	<div>【到達目標（学修成果）及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○			○		到達目標③			○						
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○			○																										
到達目標③			○																											
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>20%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①	20%		10%	20%			到達目標②	10%		10%				到達目標③	10%		10%	10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%		10%	20%																										
到達目標②	10%		10%																											
到達目標③	10%		10%	10%																										
ルーブリック評価	ルーブリック評価： 取り入れている ・ <u>取り入れていない</u>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：オフィスアワーにて対応します。 学習成果のフィードバック：課題や提出物は授業時間内に返却します。 テストは研究室にて保管しています。事前に連絡の上、結果の確認をすることができます。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園：領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 保育士：保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	幼児期における人間関係の在り様は、子どもたちの人格形成に大きな影響を及ぼします。 子どもたちの心に寄り添い、適切な援助ができる指導者を目指していきましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <u>なし</u>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<u>あり</u> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	言葉指導法	担当者	田中裕子	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20108	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：保育内容の領域「言葉」の理解とその指導法を学ぶ。 到達目標①：言葉の発達における保育者の役割と援助の仕方を理解できる。 到達目標②：豊かな言葉の育ちを促す保育のための計画を立案し、保育としての実践ができる。 到達目標③：実際に乳幼児に提供する文化（絵本、お話、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、わらべ歌など）上演のコツを学び、実演する。								
授業概要	本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により、幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達を踏まえて豊かな言葉の感覚や表現力を身に付けるための指導のあり方や教材等の活用方法（情報機器の活用を含める）について学ぶ。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	保育内容における領域「言葉」とは 保育の基本理念と保育内容5領域における位置づけ					事前：シラバスを読み、概要を理解する。(0.5h) 事後：領域相互論から「言葉」の位置づけを復習する。(1.5h)			
2回	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらい及び内容 乳幼児期における言葉の教育の目標					事前：教育要領などに目を通しておく。(0.5h) 事後：0歳児から2歳児向けの絵本を選び、声に出して読む練習をしてくる。(1.5h)			
3回	絵本とは① 0歳児から2歳児					事前：テキストP101～103を読んでおく。0歳児向けの絵本を選び、声に出して読む練習をしてくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
4回	絵本とは② 2歳児から3歳児					事前：テキストP106～109を読んてくる。2歳児から3歳児向けの絵本を選んで持ってくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
5回	絵本とは③ 3歳児から4歳児					事前：テキストP109～111を読んてくる。3歳児から4歳児向けの絵本を選んで持ってくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
6回	絵本とは④ 4歳児から6歳児					事前：テキストP111～115を読んてくる。 4歳児から6歳児向けの絵本を選んで持ってくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
7回	言葉を豊かにする教材の活用について 紙芝居					事前：テキストP126～131を読んてくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
8回	言葉を豊かにする教材の活用について パネルシアター					事前：テキストP135～141を読んてくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
9回	言葉を豊かにする教材の活用について エプロンシアター					事前：テキストP141～146を読んてくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
10回	言葉を豊かにする教材の活用について ペープサート					事前：テキストP146～150を読んてくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
11回	言葉を豊かにする教材の活用について 人形劇					事前：テキストP150～154を読んてくる。(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			

12 回	言葉を豊かにする教材の活用について 情報機器の活用と実践	事前:デジタル紙芝居について調べてくる。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)																												
13 回	言葉を育む保育の構想と計画 ― 指導計画の作成(グループディスカッション)	事前:指導計画を立てる。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)																												
14 回	言葉を育む保育の実践 ― 模擬保育の実施	事前:グループで模擬保育の練習をしておく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)																												
15 回	まとめ 言葉を育む保育の評価と改善 ― 模擬保育の振り返り(グループディスカッションとグループワーク)	事前:確認シートにこれまでの学びを整理する。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	太田光洋(編)『保育内容・言葉』 同文書院 2018 年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、 厚生労働省 2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②	○	○				到達目標③	○								
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②	○	○																												
到達目標③	○																													
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>25%</td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>25%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%	10%	10%	10%			到達目標②	25%				10%		到達目標③			10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	25%	10%	10%	10%																										
到達目標②	25%				10%																									
到達目標③			10%																											
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する課題シート記入された質問や疑問を通して相談に乗るほか、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし。																													
受講生へのメッセージ・その他	・各回ごとにテーマに関する事前学習を行って授業に臨む。また、実施後は内容を振り返り、さらなる学びへ広げる努力をする。 講義中に配布する資料を活用する。 ・季節や各年齢に合った絵本・紙芝居を選び、読む練習をしてくること。 ・「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」は毎回持参すること。																													
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
	<div>あり</div> ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	表現指導法		担当者	中村真緒	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20109		資格等取得との関連		幼稚園：必修・保育士：必修			
テーマ・授業の到達目標(学修成果)		テーマ：表現の芽生えを育む。 到達目標(学修成果)①：領域「表現」のねらいと内容及びその取扱いについて理解し、情報機器及び教材を保育構想に活用することができる。 到達目標(学修成果)②：グループ活動を通して、保育者に必要な人間関係形成・社会形成能力を身に付けることができる。 到達目標(学修成果)③：保育者に必要な豊かな感性・創造力を磨き、様々な方法で表現する力を高めることができる。								
授業概要		保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じて保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音楽やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現ツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考える。また、個人だけでなくグループでの表現活動、ダンスの創作、衣装の制作、模擬発表会を通して、他者と関わり表現を披露することで得られる子どもの表現について理解を深める。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応			① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション 子どもの姿に学ぶ					事前：「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」」第1章を読む(0.5h) 事後：プリントの記入とノート整理をする(0.5h)				
2回	要領・指針にみる領域「表現」のねらいと内容/ディスカッション					事前：「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」」第2・3章を読む(0.5h) 事後：3法令での「表現」のねらいや内容及び内容の取扱いを確認する(0.5h)				
3回	幼児期からみた連携プログラムを考える 10の姿、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					事前：「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」」第14章を読む(0.5h) 事後：プリントの記入とノート整理をする(0.5h)				
4回	保育内容「表現」と他領域との関係 感じる・工夫する・考える・表現する					事前：「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」」第3章を読む。(0.5h) 事後：プリントの記入とノート整理をする(0.5h)				
5回	表現とICT					事前：「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」」第4章の事例を読む(0.5h) 事後：プリントの記入とノート整理をする(0.5h)				
6回	屋外における表現① 季節に合わせた製作					事前：「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」」第9章の事例を読む(0.5h) 事後：プリントの記入とノート整理をする(0.5h)				
7回	屋外における表現② ◇学外活動					事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第10章の事例を読む(0.5h) 事後：プリントの記入とノート整理をする(0.5h)				
8回	身体表現① 手遊びから身体表現へ					事前：身体表現とは何か調べておく(0.5h) 事後：身体表現の効果や重要性についてまとめる(0.5h)				
9回	身体表現② 絵カードを使用した身体表現					事前：身体を使った表現活動を考え、活動の流れや援助法を考えておく(0.5h) 事後：共有した遊びや活動の流れ、援助法をまとめる(0.5h)				
10回	身体表現③ ダンスの創作					事前：ステップの練習をする(0.5h) 事後：課題曲に合わせた振り付けを考える(1h)				

11 回	身体表現④ ダンスの創作	事前:作品を視聴しイメージを膨らませる(1h) 事後:ダンスの練習をする(1h)																																
12 回	身体表現⑤ 衣装の制作	事前:曲のイメージに合った衣装を考える(0.5h) 事後:衣装の制作をする(1h)																																
13 回	身体表現⑥ 衣装の制作	事前:イメージを基に衣装の制作をする(0.5h) 事後:リハーサルに向けてダンスの練習をする(1h)																																
14 回	身体表現⑦ ダンスの創作/リハーサル	事前:自己の健康指導案・教材の見直し・検討する(1h) 事後:発表に向けて最終準備をする(1h)																																
15 回	表現活動における発表会/グループワーク 自己発表の振り返り、他者発表の講評	事前:今までの学びの復習をする(1h) 事後:授業全体のまとめと、配布プリント及びノートの整理する(0.5h)																																
16 回	期末試験																																	
テキスト	吉永早苗編著『子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」』中央法規出版、2022																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 無藤隆『事例で学ぶ保育内容 領域表現』萌文書林、2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018																																	
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○	○					到達目標②	○	○					到達目標③			○	○		
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○	○																																
到達目標②	○	○																																
到達目標③			○	○																														
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>40%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>30%</td><td>10%</td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%		10%				到達目標②					10%		到達目標③				30%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①	40%		10%																															
到達目標②					10%																													
到達目標③				30%	10%																													
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業後やオフィスアワーの日時に対応します。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示をします。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	グループワークでは、受講者 1 人ひとりが意欲を持って参加ができるよう環境を検討します。昨年度に好評いただきました身体表現を中心に、更に表現することの楽しさを感じられるような授業内容とします。																																	
受講生へのメッセージ・その他	子どもの豊かな感性と表現を支える保育者として、まずは自己の様々な表現力を身に付けていきましょう。 実践だけでなく、課題・提出物の期日厳守、それらの質・丁寧さ、取り組み姿勢等は、保育者の基本として評価をします。																																	
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	健康指導法	担当者	中村真緒	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS2020Ⅰ	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:乳幼児期の健康を支える。 到達目標(学修成果)①:領域「健康」のねらいと内容及びその取扱いについて理解し、情報機器及び教材を保育構想に活用することができる。 到達目標(学修成果)②:指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 到達目標(学修成果)③:模擬保育とグループディスカッションを通して、保育を改善する視点を持つことができる。								
授業概要	幼稚園教育要領等に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容とその取扱いについて理解を深め、保育における健康教育の位置づけを明確にする。また、幼児期の健康な心身の発育・発達の基礎理論を基に、現代の幼児の心身に現れている健康上の諸問題の実態を把握し、その対策・指導・今後の課題などについて保育者の果たす役割を考えていく。さらに、健康指導案・手作り教材を作成し、模擬保育を通して適切な指導方法を身に付ける。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
Ⅰ 回	ガイダンス 健康とは何か				事前:テキスト第Ⅰ章を読む。健康について考える。(0.5h) 事後:「健康とは何か」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
2 回	領域「健康」の理解と指導法				事前:テキスト第8章を読む。健康な心と体を育むために必要な環境について考える。(0.5h) 事後:「領域「健康」の理解と指導法」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
3 回	乳幼児期の安全教育とけがの予防				事前:テキスト第2章、第4章を読む。子どもの安全のための大人(保育者)の役割について考える。(0.5h) 事後:「乳幼児期の安全教育とけがの予防」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
4 回	子どもの身体の発育・発達 乳幼児期の運動				事前:テキスト第3章を読む。子どもにとっての運動の意味について考える。(0.5h) 事後:「子どもの身体の発育・発達、乳幼児期の運動」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
5 回	乳幼児期の遊びと運動				事前:テキスト第6章を読む。子どもの遊びと大人の遊びの違いについて考える。(0.5h) 事後:「乳幼児期の遊びと運動」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
6 回	乳幼児期の生活習慣の形成				事前:テキスト第5章を読む。自己の生活習慣について振り返る。(0.5h) 事後:「乳幼児期の生活習慣の形成」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
7 回	乳幼児期の生活と食				事前:テキスト第7章を読む。子どもの食育について考える。(0.5h) 事後:「乳幼児期の生活と食」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
8 回	領域「健康」をめぐる現代的問題				事前:テキスト第9章を読む。子どもの健康を維持に対する大人(保育者)の役割について考える。(0.5h) 事後:「領域「健康」をめぐる現代的問題」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)				
9 回	指導案作成から保育へ				事前:テキスト第Ⅹ章を読む。計画の必要性について考える。(0.5h) 事後:「健康」の指導案作成用プリントの記入とノートの作成(0.5h)				
Ⅹ 回	領域「健康」の理解と保育実践の総括 演習のガイダンス				事前:自己のテーマを決め、健康指導案の作成と資料収集。(Ⅰh) 事後:指導案及び教材の作成。(Ⅰh)				
Ⅺ 回	健康指導案の演習(Ⅰ) テーマ選択と資料収集				事前:自己のテーマを決め、健康指導案の作成と資料収集。(Ⅰh) 事後:テーマに沿って、指導案及び教材の作成。(Ⅰh)				

12回	健康指導案の演習(2)グループワーク 教材作成と発表練習	事前: 自己のテーマに関する参考資料の収集及び教材の作成。(1h) 事後: 指導案及び教材の作成、完成。(1h)																																
13回	健康指導案の発表(1)ディスカッション 自己発表と振り返り	事前: 自己の健康指導案・教材の見直し・検討。(1h) 事後: 発表事案を基に、自己の健康指導案の検討、修正。(1h)																																
14回	健康指導案の発表(2)ディスカッション 他者の発表の講評	事前: 自己の健康指導案・教材の見直し・検討。(1h) 事後: 発表事案を基に、自己の健康指導案の検討、修正。(1h)																																
15回	領域「健康」まとめ	事前: 今までの学びの復習をする。(1h) 事後: 授業全体のまとめと、配布プリント及びノートの整理。(0.5h)																																
16回	定期試験																																	
テキスト	川邊貴子編著『演習 保育内容 健康』建帛社、2019																																	
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 清水将之・相樂真樹子編著『実践例から学びを深める 健康指導法』わかば社、2022 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 日本発育発達学会編『幼児期運動指針実践ガイド』杏林書院、2019 小泉英明ほか『斎藤公子 さくら・さくらんぼ リズム遊び』K・フリーダム、2022																																	
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○	○					到達目標②	○	○					到達目標③			○	○		
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○	○																																
到達目標②	○	○																																
到達目標③			○	○																														
評価方法・基準	<table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>40%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>20%</td><td>10%</td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%		10%				到達目標②			10%		10%		到達目標③				20%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①	40%		10%																															
到達目標②			10%		10%																													
到達目標③				20%	10%																													
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業後やオフィスアワーの日時に対応します。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示をします。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士: 保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	個人での模擬保育発表に対して、自分もしたかったと意欲的な要望がありましたので、出来る限り多くの人が発表できる場を設けていきたいと思っています。																																	
受講生へのメッセージ・その他	子どもの運動・食育・基本的な生活習慣等の重要性を理解し、模擬保育を通して子どもの心と体の健康づくりについて学びます。自分自身の心と体にも向き合いながら、心身ともに健康な保育者を目指しましょう。																																	
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽Ⅰ	担当者	渡辺ユリナ・村木清子・ 北川由紀・宮田美佐	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件		ナンバリング	CS20202	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育者として必要なピアノの演奏、歌唱の技術を身につける 到達目標(学修成果)①：様々なこどもの歌を知り、各曲の良さや意味を伝える導入をすることができる 到達目標(学修成果)②：保育・教育現場での実践を見通して鍵盤楽器の技術を向上することができる 到達目標(学修成果)③：子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支える保育者として、思いや意図をもって弾き歌いできる								
授業概要	ピアノ実技を中心に、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定しながら、保育現場に寄り添った音楽表現活動およびその指導方法について学ぶことを目的とした授業である。グループワークを取り入れ、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		①	保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。						
	◎	②	日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。						
		③	様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。						
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション、弾き歌いの確認(おはよう、おかえり、おべんとうのうた) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
2 回	弾き歌いの応用(1)簡易伴奏 ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
3 回	弾き歌いの応用(2)導入、歌唱 ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
4 回	弾き歌いの応用(3)模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
5 回	弾き歌いの応用(4)模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
6 回	弾き歌いの応用(5)模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
7 回	弾き歌いの応用(1)簡易伴奏、導入、歌唱 ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
8 回	弾き歌いの応用(2)模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
9 回	弾き歌いの応用(3)模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
10 回	弾き歌いの応用(4)模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
11 回	弾き歌いの応用(1)簡易伴奏、導入、歌唱 ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
12 回	弾き歌いの応用(2)模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
13 回	弾き歌いの応用(3)模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			
14 回	弾き歌いの応用(4)模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導					事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)			

15 回	まとめ(1) 課題曲の練習、歌いたくなる楽譜づくり ピアノ個人指導	事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
16 回	定期試験						
テキスト	コードで弾けるピアノ伴奏法 峯晋/藤井菜摘 著(2023)教育芸術社						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○		○			
	到達目標②			○	○		
	到達目標③		○	○			
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	5%		5%		10%	
	到達目標②	30%				10%	
	到達目標③	5%			30%	5%	
ルーブリック評価: 取り入れている 取り入れていない							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談: オフィスアワー 学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッセージ・その他	技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。 ピアノ技術の向上を目指しますが、その目的が演奏披露ではなく、子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支えるためであることを忘れずに取り組みましょう。						
実務経験の有無	あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	保育指導法	担当者	寺西恵子	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム必修 (乳幼児プロ) (地域連携プロ)	ナンバリング	CS20203	資格等取得との関連					
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:こどもの利益につながる保育実践を実習と絡めながら理論的に学ぶ 到達目標(学修成果)①:保育士の様々な仕事内容を知ることによりその役割についての関心を深めることができる。 到達目標(学修成果)②:子どもを取りまく様々な環境について学び理解し実践できるようにする。 到達目標(学修成果)③:保育材料を用いて手作り教材を作り、実践に活かせるようにする。								
授業概要	本講義の担当者は、三重県内保育所での実務経験をふまえ、実際の現場から得られた知見や事例を紹介して実践的な講義を展開していく。保育士には様々な仕事がありその仕事の内容は、多岐にわたっている。事例を通して仕事内容や保育実践の中での疑問など保育について考える機会とする。また、実践においては簡単な手作り教材を作り、披露し楽しみながら技術向上となるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション〈授業の概要と学習方法、評価について〉 保育の仕事について					事前:シラバスに目を通しておく 事後:保育者への動機についてのレポート作成・提出(2h)			
2回	保育現場における保育者の対応 生活の中での関わりについてグループワークを行う					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
3回	保育現場における保育者の対応 あそびの中での関わりについてグループワークを行う					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
4回	保育実習を学びの場にするために ～実体験で子どもを知る①～					事前:事前に配布する資料を読んでおく:(2h) 持ち物～はさみ 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
5回	保育現場を通して学んだこと ～実体験で子どもを知る②～ 小テストを通して授業内容の理解度を確認する					事前:保育実習後の感想が言えるようにしておく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
6回	幼児期に育ってほしい姿 事例を通してグループワークを行う					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
7回	統合保育について ～子どもたちと関わる中で育つ力～					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
8回	保護者支援について～ ～保護者との適切な距離感を考える～					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
9回	園と地域交流について ～地域交流の中で育つ子ども～					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
10回	子どもを中心とした保護者との連絡ツールを学ぶ ～連絡帳編～					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
11回	手作り製作について ～シアターを考える～					事前:事前に配布する資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			
12回	手作り製作をする ～シアター作り～					事前:シアター作りの準備(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)			

13 回	子どもの健康と安全 保育現場で気を付けることをグループワークで話し合う	事前:シアター作りの準備(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)					
14 回	様々な保育園 ～子どもたちをとりまく保育形態について～	事前:シアター作りの準備(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)					
15 回	後期授業の振り返り	事前:今までに配布した資料を読んでおく(2h) 事後:振り返りシートを作成する(2h)					
16 回	定期試験						
テキスト							
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○				
	到達目標②	○	○	○			
	到達目標③	○	○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	20%		10%		5%	
	到達目標②	10%	10%			5%	
	到達目標③	10%		10%	15%	5%	
	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室で質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します。 テストは、保管しています。事前に連絡の上、内容の結果等確認をすることができます。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッセージ・その他	・日常生活の中で様々な保育形態や方法に関心を向けるよう努めていきましょう。 ・講義での学びと実習時での学びを結びつけられるようにしましょう。 ・講義内における学び合いの機会を大切に、様々なメンバーと学ぶことを通してコミュニケーションや傾聴の技術が向上するよう意識しましょう。						
実務経験の有無	<u>あり</u> ・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<u>あり</u> ・なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	環境指導法		担当者	田中裕子		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1 単位
卒業要件	必修		ナンバリング	CS20204	資格等取得との関連		幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）			テーマ：乳幼児が身近な環境を取り入れ、知識・技術を身に付ける方法を学ぶ。 到達目標（学修成果）①：乳幼児が身近な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために、幼児を指導する方法、指導内容を具体的に学ぶことができる。 到達目標（学修成果）②：乳幼児と一緒に遊びながら環境を取り入れる力を養う具体的な方法を身に付けることができる。 到達目標（学修成果）③：乳幼児の環境を取り入れる力を養う教材について、具体的に用い方を身に付けることができる。								
授業概要			幼稚園、保育所、認定こども園の教育・保育における領域「環境」を中心に、その意義、ねらい、内容、指導計画の考え方などを解説するとともに、学生同士ディスカッションを行い、具体的な教育・保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。また、保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により、領域「環境」を理論的、実践的に理解することを目指す。								
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標（学修成果） との対応				① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
			◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
				③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
			◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画						時間外学習				
1 回	子どもと環境について学ぶ 「環境」とは						事前：教科書 P8～P11 まで読んでおく（0.5h） 事後：コラムを読んだ感想を書く（1h）				
2 回	保育内容・領域「環境」について学ぶ 保育・幼児教育の基本						事前：教科書 P12～P23まで読んでおく（0.5h） 事後：コラム「愛着関係とは」を読んでまとめる（1h）				
3 回	保育内容・領域「環境」の展開について学ぶ 「ねらい」及び「内容」の展開						事前：教科書 P24～P37まで読んでおく（0.5h） 事後：事例（年齢別）に対する感想を書く（1h）				
4 回	保育の課程について学ぶ カリキュラムマネジメントの実践						事前：P38～P46まで読んでおく（0.5h） 事後：「カリキュラム・マネジメント」についてまとめる（1h）				
5 回	物とのかかわりについて学ぶ						事前：教科書 P48～P59まで読んでおく（0.5h） 事後：保育の場にあるものを課題シートに書きだす（1h）				
6 回	自然とのかかわりについて学ぶ 「草花あそび」						事前：教科書 P60～P81まで読んでおく（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				
7 回	演習 「ネイチャーゲーム・フィールドビンゴ」						事前：ネイチャーゲームについて調べてくる（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				
8 回	数量・図形とのかかわりの実践について学ぶ						事前：教科書82～P93まで読んでおく（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				
9 回	標識・文字とのかかわりについて学ぶ						事前：教科書 P94～P103まで読んでおく（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				
10 回	身近な情報とのかかわりの実践について学ぶ						事前：教科書 P104～P111まで読んでおく（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				
11 回	身近な施設・地域、さまざまなぶんかとのかわりの実践について学ぶ						事前：教科書 P112～P121まで読んでおく（0.5h） 事後：課題 コマ回しの練習（1.5h）				
12 回	行事とのかかわりの実践について学ぶ						事前：教科書 P122～P132 まで読んでおく（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				
13 回	遊びを通した総合的な指導の展開について学ぶ						事前：教科書 P134～P143まで読んでおく（0.5h） 事後：授業を振り返りポイントをまとめる（1.5h）				

14 回	小学校との連携・接続の実践について学ぶ	事前:教科書 P144～P149 まで読んでおく(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる(1.5h)				
15 回	領域「環境」に関わる現代的な課題について学ぶ	事前教科書 P150～P155まで読んでおく(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる(1.5h)				
16 回	定期試験					
テキスト	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法 わかば社 2021年 ISBN978-4-907270-33-9					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省 2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館					
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○	○	○	○	
	到達目標②		○	○		
	到達目標③		○	○	○	
	【評価方法・基準】					
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
	到達目標①	25%				10%
	到達目標②			15%	15%	
	到達目標③	25%				10%
ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div>						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業時に提出する課題シートに記入された質問や疑問を通して相談にのる他、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:毎回の課題シート・提出物の返却を通して実施する。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	学校平均を上回っていました。 今年は授業が前期になっていますので、4 月～7 月の季節に対応した課題を考えて授業を組み立てます。 予習をしっかりできるように、課題の出し方を工夫をします。					
受講生へのメッセージ・その他	日頃から、自分の周囲をよく観察し、「自然の変化」や「季節に関して敏感に感じ取れるように意識すること」。 子どもが「好奇心や「探求心」をもって関わりたくなる環境をどのように作るのか、共に学びましょう。					
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> ・ なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	教育相談	担当者	水野友美	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20205	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修・准学校心理士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：教育相談のポイントを理解するとともに実践現場で生かす。 到達目標(学修成果)①：教育や子どもの発達について心理学的に説明できる。 到達目標(学修成果)②：学習・発達・性格・教育評価など教育心理学の基礎的知識を説明できる。 到達目標(学修成果)③：基礎的知識をもとに専門家として保育実践に応用できる。								
授業概要	医療現場の小児領域にて心理臨床経験に携わってきた教員が担当します。子どもの発達や心の問題に対して解決の為の支援は、教師の大切な役割の一つである。昨今、保育の場においてカウンセリングマインドをもって子どもや保護者に接することは必須となってきた。そこで本科目では、カウンセリングの基本的知識を学ぶとともに保護者に対する支援がなぜ必要なのかを事例を通じて学びます。教育相談の理論や方法、心得ておくべきカウンセリング基礎知識とその方法を身に付けます。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	ガイダンス 授業の進め方について カウンセリングマインドとは					事前：シラバス、教科書第1章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
2 回	アサーティブ・トレーニング					事前：「言いたくても上手く言えなかった場面」を思い出し、文章にする(2h) 事後：課題① 取り組み(2h)			
3 回	【オンデマンド】メンタルヘルス					事前：自分の精神的特徴を分析する(2h) 事後：小テストの準備(2h)			
4 回	声なき声を聴く(子どもを受け止める)					事前：小テストの準備、教科書第2章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
5 回	カウンセリング技法① 面接の展開					事前：相談をした・された体験を思い出し、どのような感情想起があったかまとめる(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
6 回	多様性の諸問題と同意・合意					事前：前回で得た技法を実際に使用してみる(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
7 回	【外部講師】性教育					事前：自身の性・ジェンダーの課題を考える(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
8 回	カウンセリング技法② 保護者の受容・支援 感情への接近					事前：教科書第1・4章を読む(2h) 事後：授業で得た技法を実際に使用してみる(2h)			
9 回	個人情報、プライバシーの問題、自己開示について					事前：保護者、保育者として情報をどこまで開示していいか考える(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
10 回	気になる子・支援の必要な子への対応・保護者の受容・支援					事前：教科書第3章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
11 回	基礎的対人トレーニング					事前：保育現場での相談内容を考える(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			
12 回	家族と共に子育て —リフレーミング—					事前：教科書第5章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)			

13 回	保育者の自己受容と自己管理				事前:教科書第6章を読む(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																													
14 回	芸術療法 ―描画療法・スクイグル法とその応用―				事前:芸術療法について調べる(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																													
15 回	まとめ 色々なコミュニケーション				事前:これまでの講義を振り返る(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																													
16 回	定期試験																																	
テキスト	保育者のためのカウンセリングマインド入門 チャイルド本社																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 なし																																	
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○	○	○	○			到達目標②		○	○	○			到達目標③		○	○	○		
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○	○	○	○																														
到達目標②		○	○	○																														
到達目標③		○	○	○																														
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>15%</td><td>10%</td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>15%</td><td></td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>15%</td><td></td><td>15%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	15%	10%	15%				到達目標②	15%		15%				到達目標③	15%		15%			
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①	15%	10%	15%																															
到達目標②	15%		15%																															
到達目標③	15%		15%																															
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの活用、または教員が研究室在籍している時間中に随時対応する。 学習成果のフィードバック: 課題の返却や授業内での教示とする。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 保育士: 保育の対象の理解に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業アンケートは肯定的評価が高い結果となったが、さらに授業内容の精度を上げ、具体的なトレーニングを増やすことで学びと実践と双方向の授業構成とした。学生の「できる」という感度を高めることを目指している。																																	
受講生へのメッセージ・その他	他者を受け入れる前に、自分自身を受け入れる準備ができていないこと。課題は文章の多さより熟考した様子が分かる内容化の質の面での評価を重視します。手早く課題を仕上げないよう、心して取り組んでください。																																	
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽Ⅱ		担当者	渡辺ユリナ・村木清子・ 北川由紀・宮田美佐		開講時期	2 年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1 単位
卒業要件		ナンバリング	CS20206		資格等取得との関連		保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)		テーマ:保育者として必要な楽器の演奏、歌唱の技術を向上させる 到達目標(学修成果)①:様々なこどもの歌を知り、各曲の良さや意味を伝える導入をすることができる 到達目標(学修成果)②:保育・教育現場での実践を見通して楽器の技術を向上することができる 到達目標(学修成果)③:子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支える保育者として、思いや意図をもって演奏、弾き歌いできる									
授業概要		幼児の音楽Ⅰにおける学びを基盤とし、ピアノ実技を中心に、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定しながら、保育現場に寄り添った音楽表現活動およびその指導方法について学ぶことを目的とした授業である。グループワークを取り入れ、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応			① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
			③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画							時間外学習			
1 回	オリエンテーション、弾き歌いの確認 ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
2 回	こどもの歌(1) おはよう、おかえり、おべんとうのうた(プレゼンテーション) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
3 回	こどもの歌(2) おはよう、おかえり、おべんとうのうた(プレゼンテーション) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
4 回	弾き歌いの応用(1) 簡易伴奏、導入、歌唱 ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
5 回	弾き歌いの応用(2) 模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
6 回	弾き歌いの応用(3) 模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
7 回	弾き歌いの応用(4) 模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
8 回	器楽(1)保育で用いる楽器の基礎知識と奏法(グループワーク) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
9 回	器楽(2)鍵盤ハーモニカ、ベルの奏法(グループワーク) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
10 回	器楽(3)鍵盤ハーモニカ、ベルの指導法(グループワーク) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
11 回	器楽(4)鍵盤ハーモニカ、ベルの演奏(プレゼンテーション) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
12 回	弾き歌いの応用(1) 簡易伴奏、導入、歌唱 ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
13 回	弾き歌いの応用(2) 模擬保育(グループワーク) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			
14 回	弾き歌いの応用(3) 模擬保育(プレゼンテーション) ピアノ個人指導							事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)			

15 回	弾き歌いの応用 (4) 模擬保育 (プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習 (1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する (1h)	
16 回	定期試験					
テキスト	適宜、資料集を使用する。					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】					
到達目標 (学修成果) 及び観点	【到達目標 (学修成果) 及び観点】					
	到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()
	到達目標①	○		○		
	到達目標②			○	○	
	到達目標③		○	○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】					
ループリック評価	評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他 ()
	到達目標①	5%		5%		10%
	到達目標②	30%				10%
	到達目標③	5%			30%	5%
	ループリック評価: 取り入れている・取り入れていない					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー 学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の内容・方法に関する科目 / 各指定保育士養成施設において設定					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし					
受講生へのメッセージ・その他	技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。 ピアノ技術の向上を目指しますが、その目的が演奏披露ではなく、子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支えるためであることを忘れずに取り組みましょう。					
実務経験の有無	あり・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり・なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児の支援	担当者	小島佳子	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件	プログラム必修 (障がい児プロ)	ナンバリング	CS20207	資格等取得との関連					
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援について学ぶ。 到達目標(学修成果)①:様々な障がいについて、その特性や援助の方法を学ぶとともに自ら調べ学習に取り組み、グループでまとめ、発表することができる。 到達目標(学修成果)②:障がいの有無に関わらず、子ども同士の関わりを育み、共に育ち合うインクルーシブ保育・教育について事例を通して学び、考え合うことができる。 到達目標(学修成果)③:保護者・家族への支援や関係機関との連携について、具体的な支援や連携のあり方についてまとめることができる。								
授業概要	公立保育所で統合保育を実践した経験から実践事例を紹介し、多様な視点から子どもの成長や関係性について学び、考える場を提供する。グループワークやプレゼンテーションの機会を通して学び合う。 本授業では、「障害児保育」「特別支援教育」の基本的な理論や現状を学び、特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援、保護者支援、関係機関との連携等についての知識を修得する。また、「インクルーシブ保育・教育」の理念や歴史を理解し、保育の場で気づく子どもの発達上のつまずきや課題に対し、保育者としての視点から支援のあり方を考える。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション(授業の進め方等) ・「なぜ障害児保育・特別支援教育を学ぶのか」について考える				事前:シラバスに目を通し、内容を把握する。テキスト第 1 章を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
2 回	「障がい」とは何か・「障がいがある」とは ・「国際生活機能分類」を基に「日常生活の困難さ」について考える				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる (2h)				
3 回	「障害児保育」・「特別支援教育」の基本 ・障がいのある子どもの保育・教育の場について考える				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる (2h)				
4 回	「障害児保育」「特別支援教育」の制度と歴史的変遷 ・制度や歴史的変遷を通して、現状や課題について考える				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する (2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
5 回	障がいの理解と保育 ① グループワーク、プレゼンテーション ・身体障がいについて学ぶ(肢体不自由、聴覚障がい、視覚障がい)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
6 回	障がいの理解と保育 ② グループワーク、プレゼンテーション ・知的障がいについて学ぶ(ダウン症など)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
7 回	障がいの理解と保育 ③ グループワーク、プレゼンテーション ・発達障がいについて学ぶ(自閉スペクトラム症)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
8 回	障がいの理解と保育 ④ グループワーク、プレゼンテーション ・発達障がいについて学ぶ(ADHD・LD)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
9 回	多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 ・外国につながる子ども・子どもの貧困について学ぶ				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
10 回	インクルーシブ保育・教育 グループワーク(調べ学習の共有) ・合理的配慮や子ども同士の育ち合いを育む関わりについて学ぶ				事前:「合理的配慮」について調べ学習を行う (2h) 事後:話し合った内容を整理し、まとめる (2h)				

11 回	障がいのある子どもに学ぶ保育実践 ・発達をうながす生活や遊びの環境について事例検討をする ・小テストを通して学習内容の理解度を確認する	事前:小テストに取り組めるよう学習内容を復習する(2h) 事後:事例検討の学びを振り返り、ノートにまとめる。小テストの結果を振り返り、自己評価をする(2h)					
12 回	子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価 ・個別の支援計画の作成について学ぶ	事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:授業内容を参考に個別の支援計画を作成する(2h)					
13 回	保護者・家庭への支援 ・親や家族を理解することの大切さと支援のあり方を考える	事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストと資料を参考にノートにまとめる。(2h)					
14 回	家庭・専門機関との連携 グループワーク(調べ学習の共有) ・保護者や関係機関との連携による支援について考える	事前:県内の子どもの支援に関わる機関について調べる(2h) 事後:話し合った内容を整理し、まとめる (2h)					
15 回	職員間の連携および振り返りとまとめ ・事例を通して連携と協働の重要性について考える ・現状と課題を踏まえ、学習した内容を振り返り、まとめる	事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:授業内容を総合的に振り返り、復習する (2h)					
16 回	定期試験(筆記試験)						
テキスト	前田泰弘 編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林 (2024)						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します。						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○	○	○		
	到達目標②		○	○			
	到達目標③	○	○		○		
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	25%		5%	20%	5%	
	到達目標②		10%	5%		5%	
	到達目標③	25%					
・提出物等については、記述内容の質・量ともに評価します。 ・発表や取り組み姿勢については、主体性や積極性を重視します。 ・期末試験は授業担当者が保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。							
ルーブリック評価:取り入れている・ <div>取り入っていない</div>							
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック: ワークシート等の提出物は授業の中で後日返却します。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	実践的な対応を考え合うためには、具体的な子どもの姿をイメージできることが有効的と思われるので、実践事例の紹介や事例検討を通した授業内容を工夫していきたい。 プレゼンテーションの場においては、受容的な雰囲気を作り、自由な意見交換や質疑等ができるように支援する。						
受講生へのメッセージ・その他	保育・教育の現場で保育者に求められるのは、子どもの個性や特性に応じた多様な援助を考えることです。子ども一人一人が自分らしい豊かな生活が送れるためには、どのような援助が必要かについて一緒に考え合ひましょう。						
実務経験の有無	<div>あり</div> なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	担当者	堀本浩史	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS20208	資格等取得との関連	児童厚生員 2 級:必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：児童福祉施設である児童館・児童クラブの活動内容と指導方法について理解する。 到達目標(学修成果)①：児童館の健全育成事業について理解し、活動の企画ができる。 到達目標(学修成果)②：児童の健全育成について理解し、子どもの発達と遊びについて理解する。 到達目標(学修成果)③：児童厚生員として必要な倫理感を身につける。								
授業概要	児童館職員として勤務してきた 30 年以上の経験の生かし、児童館における子どもの健全育成について理解し、児童館の運営 に必要な知識や技能を学ぶことができる。 児童厚生員として必要な遊びの価値と子どもの育成支援にかかわる実践能力を身 につけ、企画運営ができる。 地域福祉の視点で子どもの環境づくりにかかわることができる。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	児童館の社会的立場と健全育成の理念				事前:健全育成について調べる(2h) 事後:教科書を読み振り返りをする(2h)				
2 回	こどもと育成環境 現代社会とこどもが抱える課題				事前:配布した資料を熟読する(2h) 事後:授業で配布した資料を用いた復習 (2h)				
3 回	児童福祉の理念と健全育成				事前:配布した資料を熟読する。(2h) 事後:授業の復習をする(2h)				
4 回	健全育成に貢献する社会的資源				事前:健全育成に貢献する資源について調べる(2h) 事後:資料の読み返しをして振り返りをする (2h)				
5 回	健全育成と児童館 ・改正児童館ガイドライン				事前:改正児童館ガイドラインを熟読する(2h) 事後:改正児童館ガイドラインについて読み返す(2h)				
6 回	こどもの遊びと発達 ・遊びの価値 ・遊びの定義と分類				事前:こどもの発達に有効な遊びについて調べる(2h) 事後:授業の振り返りをする(2h)				
7 回	遊び支援の実際 レクリエーションの支援方法				事前:集団で利用できるレクリエーションを調べる(2h) 事後:授業で行ったレクリエーションをやってみる(2h)				
8 回	遊び支援の方法 (グループワーク)				事前:子どもの発達に有効な遊びについて調べる(2h) 事後:授業の振り返りをする(2h)				
9 回	大型児童館と遊びの支援 (外部講師招聘)				事前:大型児童館について調べる(2h) 事後:授業の振り返りをする(2h)				
10 回	健全育成と放課後児童クラブ ・放課後児童クラブガイドライン、運営指針 ・放課後児童クラブの実際を調べる				事前:放課後児童クラブガイドラインを読む(2h) 事後:放課後児童クラブの運営について調べる(2h)				
11 回	放課後児童クラブなどの運営と子どもの支援				事前:放課後児童クラブガイドラインを読む(2h) 事後:放課後児童クラブの運営について調べる(2h)				
12 回	地域の健全育成環境づくり 地域の課題の発見と環境づくり				事前:地域で起きているこどもにかかわる課題について調べる(2h) 事後:地域に出向き実際に参加する(2h)				
13 回	児童館・児童クラブの安全指導・安全管理				事前:こどもにかかわる事故について調べる(2h) 事後:こどもにかかわる事故防止について調べる(2h)				

14 回	児童館におけるソーシャルワーク①	事前：ソーシャルワークについて調べる（2h） 事後：授業の振り返りをする（2h）																																
15 回	児童館におけるソーシャルワーク② （グループワーク）	事前：ソーシャルワークの原則について調べる（2h） 事後：傾聴の大切さについての話し合い（2h）																																
16 回	定期試験																																	
テキスト	児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②改訂版 児童館論 一般財団法人児童健全育成推進財団																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ①健全育成論 一般財団法人児童健全育成推進財団																																	
到達目標（学修成果）及び観点	<div>【到達目標（学修成果）及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）		到達目標①	○		○	○			到達目標②		○		○			到達目標③		○	○			
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																													
到達目標①	○		○	○																														
到達目標②		○		○																														
到達目標③		○	○																															
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>ルーブリック評価： 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div></div>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①	20%			10%	5%		到達目標②	20%		10%	10%	5%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																												
到達目標①	20%			10%	5%																													
到達目標②	20%		10%	10%	5%																													
到達目標③	10%				10%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：授業終了後に教室もしくは非常勤講師室にて受け付ける。 学習成果のフィードバック：グループワークでの発表の時間に内容にかかわる評価や解説を行う。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	全般的に良い評価をいただいたので、さらに研鑽を積み継続していきたいと思います。 今年度は遊びの実践やグループワークも行うなど就職後もできるだけ活用しやすい内容にしていきたいと考えています。																																	
受講生へのメッセージ・その他	児童館などのこども支援にかかわる仕事に就きたい人が、仕事に就いてから役立てるような授業ができるようにしたいと考えています。 共に学び共に成長しましょう。																																	
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ <div>なし</div>																													

科目区分	専門教育科目	科目名	レクリエーション論	担当者	鯖戸善弘	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS20209	資格等取得との関連	保育士：選択必修・レクリエーション：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：笑顔、楽しさ、遊びを基調としたレクリエーションの在り方と実践方法について理解できるようになる。 到達目標(学修成果)①：子どもから高齢者、障害の有無にかかわらず、全世代へのレクリエーション支援の意義について説明できる。 到達目標(学修成果)②：楽しさ、遊び、笑顔を基調としたレクリエーション支援に関する思考・判断力が高められる。 到達目標(学修成果)③：レクリエーション事業企画をとおして、目的と対象者に合わせたレクリエーション実技ができる。								
授業概要	保育士や幼稚園教諭は、本来的に「遊び」を必要とする存在(子ども)に関わる援助や教育を実施する専門職である。子どもだけに留まらず、生活への潤いや安らぎ、そして、楽しさや喜びは保育や教育のあらゆる場面のなかで、あらゆる世代で取り組まなければならない課題がレクリエーションである。本講義では、レクリエーション活動(事業)の意義と目的を概説し、アイスブレイキングの方法、ホスピタリティの効果などを用い、地域で活躍する「レクリエーション・インストラクター」の基礎的な能力を向上する授業を実施する。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	・オリエンテーション(授業の概要と学習方法、評価について) ＜ワーク アイスブレイキングゲーム、自己紹介ゲーム＞					事前：シラバスを熟読し理解しておく(2h) 事後：授業の概要と学習方法、内容等を振り返る(2h)			
2 回	・レクリエーションを学ぶにあたって ・私にとってのレクリエーションとは ＜ワーク 「レクリエーションとは」を A4 用紙に書き、話し合い＞					事前：テキストのp4－8を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
3 回	・レクリエーション支援とは ・レクリエーション・インストラクターの 2 つの役割 ＜ワーク スマホでレクリエーション協会を検索し、存在意義を理解する＞					事前：テキストのp10－17を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
4 回	・楽しさをとおした心の元気づくりの理解 ＜ワーク 「フロー理論」と「マズローの欲求 5 段階説」を説明する＞					事前：テキストのp20－28を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
5 回	・ライフステージと心の元気づく 子どもや高齢者の心の元気づくり ・障がいのある人の心の元気づくりの課題 ＜ワーク 障がい児・者に使えるレクゲーム体験＞					事前：テキストのp29－32を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
6 回	・地域のきずなづくり ・子どもを育む地域のきずな ・高齢者を支える地域のきずな ・きずなづくりとレクリエーション ＜ワーク 地域社会でレクリエーション活動で貢献できる場面を検索する＞					事前：テキストのp33－36を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
7 回	・レクリエーション支援におけるコミュニケーション ・対象者との信頼関係 ・信頼関係づくりの方法 ＜ワーク 「メラビアンの法則」と「ジョハリの窓」を説明する＞					事前：テキストのp38－43を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
8 回	・集団づくりの理解 ・レクリエーション活動をととした良好な集団づくり ・集団内のコミュニケーションの促進 ＜ワーク 居心地良い集団、居心地良くない集団の特徴を理解する＞					事前：テキストのp44－49を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
9 回	・自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 ・やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み ・成功体験を支え合う対象者のかかわり ＜ワーク 内発的動機づけ、外発的動機づけについて説明する＞					事前：テキストのp50－55を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			
10 回	・あたたかくもてなす意識と配慮 ＜グループワーク ホスピタリティのある関係性を内省する＞					事前：テキストのp58－61を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)：			
11 回	・気持ちをひとつにするコミュニケーション技術 ＜ペアワーク 相手の話を聴く＞					事前：テキストのp62－65を熟読し理解しておく(2h) 事後：テキストや資料を通しての振り返り(2h)			

12 回	・アイスブレイキングのプログラム ＜ワーク ゲーム支援で、同時発声・同時動作、一指示一動作を体験＞ ・アイスブレイキングの効果を高める支援技術	事前:テキストのp66－69を熟読し理解しておく(2h) 事後:テキストや資料を通しての振り返り(2h)																																			
13 回	楽しむ力を高める目標設定 ＜ワーク ゲーム支援で、ハードル設定のコツを学び合う＞	事前:テキストのp70－73を熟読し理解しておく(2h) 事後:テキストや資料を通しての振り返り(2h)																																			
14 回	レクリエーション活動を対象者に合わせる ＜ワーク 対象者に合わせ、ゲームのアレンジをする＞	事前:テキストのp74－77を熟読し理解しておく(2h) 事後:テキストや資料を通しての振り返り(2h)																																			
15 回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法 ＜ワーク CSS プロセスのコツを学び合う＞	事前:テキストのp78－82を熟読し理解しておく(2h) 事後:テキストや資料を通しての振り返り(2h)																																			
16 回	定期試験																																				
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』(公財)日本レクリエーション協会発行																																				
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『コミュニケーションと人間関係づくりのためのグループ体験ワーク』 鯖戸善弘著 金子書房(2016 年)																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</td></tr><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②			○	○		到達目標③		○								
【到達目標(学修成果)及び観点】																																					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①	○			○																																	
到達目標②			○	○																																	
到達目標③		○																																			
評価方法・基準	<table><tr><td colspan="7">【評価方法・基準】</td></tr><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>25%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>25%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>20%</td><td>20%</td><td></td></tr></table>		【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%						到達目標②	25%		10%				到達目標③				20%	20%	
【評価方法・基準】																																					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①	25%																																				
到達目標②	25%		10%																																		
到達目標③				20%	20%																																
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れていない																																				
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: ・授業前後に教室や非常勤講師室で受け付ける。 学習成果のフィードバック: ・ジャーナル(ふりかえりの記録)の提出。返却します。 ・テストは、採点后返却します。																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価がありません。																																				
受講生へのメッセージ・その他	・レクリエーションは、「心の元気づくり」です。自分自身が積極的に元気よく授業に臨みましょう。 ・学びの中で考えたこと、気づいたことを言語化することはとても大切なことです。自分の言葉で発言したり、記述する能力を高めていきましょう。 ・自分自身の言動すべてが幼児に影響します。幼児の模範となる言動で楽しく学びの場を作っていきましょう。																																				
実務経験の有無	なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり																																		

科目区分	専門教育科目	科目名	基礎ゼミナールⅠ	担当者	田中裕子・水野友美・ 仲森みどり・中村真緒・ 渡辺ユリナ・平野晃子	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30101	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎を身につける。 到達目標(学習成果)①：少人数での活動を通し、様々な授業で学んだ知識・技能を応用的に活用できる。 到達目標(学習成果)②：主体的に学んでいくための土台を形成し修得する。 到達目標(学習成果)③：専門職として必要とされるコミュニケーション能力の基礎を修得する。								
授業概要	教育現場や福祉現場等での実務経験のある教員が担当する本ゼミナールは、保育専門職を目指す大学生として、一方ではさまざまな授業で学んだ知識・技能を応用的・実践的に活用するための基礎となる能力を身につけることを目指し、ゼミナールごとの製作活動や、あそびの追究を行う。他方で、ファイリングや対人コミュニケーション、そしてアカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。これらの実践をとおして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎となる力を身につける。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション 保育者養成の学習の特徴(入学前課題をふまえて) ICTについて					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅱ回	学生生活と学び① 図書館・受講姿勢と生活マナー・学外研修について					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅲ回	あそび新聞① 実践の目的					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅳ回	あそび新聞② 実践の検討(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅴ回	あそび新聞③ 戸外遊びの発表(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅵ回	あそび新聞④ 室内遊びの発表(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅶ回	教材研究① 計画(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅷ回	教材研究② 製作(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅸ回	教材研究③ 製作(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅹ回	教材研究④ 製作(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅺ回	教材研究⑤ 発表(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅻ回	裁縫技術① ◇外部講師					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅼ回	裁縫技術② ◇外部講師					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			

14 回	裁縫技術③	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																												
15 回	裁縫技術④ ◇外部講師 振り返りとまとめ	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																												
16 回																														
テキスト	長島和代ほか「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」わかば社																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②		○		○		到達目標③				○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②		○		○																										
到達目標③				○																										
評価方法・基準 ルーブリック評価	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			20%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②			10%		10%																									
到達目標③			20%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:各担当教員のオフィスアワーにて対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業内で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>昨年度も高評価をいただきました。</p> <p>引き続き、実践を多く組み込み、協働して作り上げる達成感を感じてもらえたらと計画しました。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>グループワークが多いため、ひとり一人の積極的な参加、取り組みを求めます。</p> <p>また、協働・連携する力(気持ち)が必要となりますので、様々な視点を持ち相手の気持ちをよく考える心でご参加ください。</p>																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p><input type="checkbox"/> あり ・ なし</p>																												

科目区分	専門教育科目	科目名	基礎ゼミナールⅡ	担当者	田中裕子・水野友美・仲森みどり・中村真緒・渡辺ユリナ・平野晃子	開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30102	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：実践をとおして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎をさらに身につける。 到達目標(学修成果)①：少人数での活動および模擬保育によって、これまで学んだ知識・技能を応用的に活用できる。 到達目標(学修成果)②：複数回の実践をとおし、主体的に学んでいくための土台をさらに形成し修得する。 到達目標(学修成果)③：専門職として必要とされるコミュニケーション能力の基礎を修得できる。								
授業概要	教育現場や福祉現場等での実務経験のある教員が担当する本ゼミナールは、様々な授業での学びや体験を参考に、模擬保育およびより実践的な教材研究を行う。これらの活動については、少人数での計画・準備、受講者全体を対象とした実践、そしてその振り返りによって行われる。これまでに体得した知識・技能の応用的・実践的活用の機会、また自身の省察の機会としながら、同時に同僚性やチーム保育のための基盤となるコミュニケーション力のさらなる育成を図る。また、これらの実践をとおして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎となる力をさらに身につける。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーションと後期の学習計画について（入学前教育の課題をふまえて）製作① 導入					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅱ回	遊び研究①計画と説明、役割分担決め(グループワーク) 漢字テスト(幼児園版)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅲ回	遊び研究②制作目標（グループワーク）					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅳ回	遊び研究③制作（グループワーク）					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅴ回	遊び研究④制作（グループワーク）					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅵ回	遊び研究⑤制作 外部講師（グループワーク）					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅶ回	遊び研究⑥ 発表（グループワーク）					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅷ回	遊び研究 振り返り(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅸ回	アサーティブトレーニング					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅹ回	チームの合意形成(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅺ回	粗大運動遊び① 実践					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅻ回	粗大運動遊び② 応用					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			
Ⅼ回	音遊び① 実践					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)			

14 回	音遊び② 応用				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																														
15 回	漢字テスト(保育園版) 振り返りとまとめ 専門ゼミに向けて				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																														
16 回	定期試験																																		
テキスト	長島和代ほか「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」わかば社(前期同様)																																		
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する。																																		
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>							到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①			○	○			到達目標②	○	○	○	○			到達目標③			○	○		
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																														
到達目標①			○	○																															
到達目標②	○	○	○	○																															
到達目標③			○	○																															
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr></table>							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			20%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																													
到達目標①			20%		20%																														
到達目標②			10%		10%																														
到達目標③			20%		20%																														
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																																		
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:各担当教員のオフィスアワーにて対応する。 学習成果のフィードバック:授業内で指示する。																																		
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																		
授業評価アンケート結果を受けての改善点	制作や企画発表についての振り返りがなかったとの指摘を受けたため、今回は自身の振り返り、共有と課題について整理できる時間を確保した。																																		
受講生へのメッセージ・その他	グループワークや制作が多いため、一人一人の積極的な参加、取り組みを求めます。																																		
実務経験の有無	なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり																													

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅠ (乳幼児プログラム)	担当者	田中裕子・水野友美	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS3020Ⅰ	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性について実践的に理解する 到達目標(学習成果)①：テーマに沿った形での実践を計画・立案・実践・省察を繰り返し実践できる。 到達目標(学習成果)②：専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる。 到達目標(学習成果)③：保育専門職として必要な専門的知識を修得できる。								
授業概要	本ゼミナールは、幼児教育、あるいは保育の場面で必要とされる専門的知識及び技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育に対する課題設定、保育教材の開発、保育の計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身に付ける。幼稚園教諭、園長としての実務経験があり、保育者としての専門的知識や技術を生かした演習を行う。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 読み聞かせの絵本を選ぶ 面談					事前：自分の研究テーマについて考える (0.5h) 事後：自分の研究テーマについて考える(1h)			
2 回	実践 Ⅰ 読み聞かせの模擬保育①(グループワーク)					事前：読み聞かせの読み方について調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする。(1h)			
3 回	実践 Ⅰ 読み聞かせの模擬保育②(グループワーク)					事前：読み聞かせの読み方について調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
4 回	実践 Ⅰ 読み聞かせの模擬保育③(グループワーク)					事前：読み聞かせの読み方について調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
5 回	実践 2 パネルシアターの模擬保育①(グループワーク)					事前：パネルシアターの演じ方について調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする。(1h)			
6 回	実践 2 パネルシアターの模擬保育②(グループワーク) 実践					事前：パネルシアターの演じ方について調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
7 回	実践 2 パネルシアターの模擬保育③(グループワーク) 実践					事前：パネルシアターの演じ方について調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
8 回	実践 3 教材準備(製作)①					事前：製作準備を進める(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
9 回	実践 3 教材準備(製作)②					事前：製作を進める(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
10 回	実践 3 教材準備(製作)③					事前：製作を進める(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
11 回	実践 3 教材発表①(プレゼンテーション)					事前：製作教材のプレゼン練習をする(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
12 回	実践 3 教材発表②(プレゼンテーション)					事前：製作教材のプレゼン練習をする(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
13 回	実践 3 教材発表③(プレゼンテーション)					事前：製作教材のプレゼン練習をする(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			

14 回	成果レポートの作成準備①	事前: 先行研究を調べる (0.5h) 事後: 先行研究を調べる (1h)																												
15 回	まとめ 成果レポートの作成準備②	事前: 中間報告に向けて調べたことをまとめる (研究テーマを決める) (0.5h) 事後: 総合的に自分の考えをまとめる 保育方法について考える (1h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する</p>																													
到達目標 (学修成果) 及び観点	<p>【到達目標 (学修成果) 及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標 (学修成果) 及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他 ()</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> </tbody> </table>		到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○		○					
到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準 ルーブリック評価	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標 (学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他 ()</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①			10%	10%	20%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																								
到達目標①			10%	10%	20%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>高い評価を受けました。</p> <p>学生が自分たちの課題を見つけて主体的に取り組む姿が見られました。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。</p> <p>・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p> <p>・学生が主体的に取り組むようにしてください。</p>																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p><input type="checkbox"/> あり ・ なし</p>																												

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅠ (障がい児プログラム)	担当者	仲森みどり・平野晃子		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS3020Ⅰ	資格等取得との関連	保育士：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:保育専門職(幼稚園教諭・保育士・施設職員等)に必要とされる専門性について実践的に理解する。 到達目標(学修成果)①:障がいについての理解を深め、現代社会における課題を認識し向き合うことができる。 到達目標(学修成果)②:専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる。 到達目標(学修成果)③:障がい支援の専門職として必要な専門的知識・技術を習得・研鑽できる。									
授業概要	保育園、児童相談所、母子生活支援施設、特別支援学校での実務経験を持つ教員により、本ゼミナールは、保育者として必要とされる、障がいに関する専門的知識及び支援技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育・支援に対する課題設定、教材の開発、支援計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身に付ける。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画						時間外学習			
1 回	オリエンテーション						事前:自分の研究テーマについて考える(0.5h) 事後:自分の研究テーマについて考える(1h)			
2 回	障がいの理解について グループワーク①						事前:障がいの種類や特徴について調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
3 回	障がいの理解について グループワーク②						事前:グループで障がいへの理解を深める(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
4 回	障がいの理解について グループワーク③ 発表						事前:プレゼンの仕方についてイメージを共有(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
5 回	おもちゃ図書館見学①						事前:おもちゃ図書館について調べる(0.5h) 事後:見学の際に聞きたいことなどをまとめる(1h)			
6 回	おもちゃ図書館見学②・まとめ						事前:グループでの質問事項をまとめておく(0.5h) 事後:見学で得たものをまとめる(1h)			
7 回	さまざまな障がいの理解 「自閉スペクトラム症」①						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
8 回	さまざまな障がいの理解 「自閉スペクトラム症」②						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
9 回	さまざまな障がいの理解 「聴覚障がい」①						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
10 回	さまざまな障がいの理解 「聴覚障がい」②						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
11 回	さまざまな障がいの理解 「視覚障がい」① 外部講師						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
12 回	さまざまな障がいの理解 「視覚障がい」② 外部講師						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
13 回	さまざまな障がいの理解 「知的障がい(知的発達症)」①						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
14 回	さまざまな障がいの理解 「知的障がい(知的発達症)」②						事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			

15 回	まとめ	事前:総合的に自分の考えをまとめる(0.5h) 事後:具体的な支援方法について考える(0.5h)																																
16 回																																		
テキスト	無し																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する</p>																																	
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> </table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○			到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○	○		○																														
到達目標②	○	○	○																															
到達目標③	○	○		○																														
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他()</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>20%</td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr> </table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	20%	10%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①			10%	20%	10%																													
到達目標②			10%		10%																													
到達目標③			10%	10%	20%																													
ルーブリック評価	<p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で指示をする。</p>																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	専門性の高い外部講師の講義やフィールドワーク等から学びが深められたとの回答が多かったため、実践的な学びや取り組みを設けていく。																																	
受講生へのメッセージ・その他	<p>・障がいについての学びや理解を深めていきましょう。</p> <p>・受講姿勢は、授業への参加態度や提出物の提出状況で評価を行います。</p> <p>・提出物は、文量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p>																																	
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅠ (地域連携プログラム)	担当者	中村真緒・渡辺ユリナ		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS3020Ⅰ	資格等取得との関連	保育士：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性について実践的に理解する 到達目標(学修成果)①：テーマに沿った形での実践を計画・立案・実践・省察を繰り返し実践できる 到達目標(学修成果)②：専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる 到達目標(学修成果)③：保育専門職として必要な専門的知識を修得できる									
授業概要	保育教諭としての勤務経験のある教員が担当する本ゼミナールは、幼児教育、あるいは保育の場面で必要とされる専門的知識及び技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育に対する課題設定、保育教材の開発、保育の計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身に付ける。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習				
1 回	全体オリエンテーション					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
2 回	担当教員によるオリエンテーション					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
3 回	実践Ⅰ：計画(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
4 回	実践Ⅰ：準備・教材作成(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
5 回	実践Ⅰ：準備・教材作成(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
6 回	実践Ⅰ：準備・教材作成(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
7 回	実践Ⅰ：発表(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
8 回	実践Ⅰ：振り返り(グループワーク) 実践Ⅱ：計画(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
9 回	実践Ⅱ：準備・教材作成(プレゼンテーション)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
10 回	実践Ⅱ：準備・教材作成(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
11 回	実践Ⅱ：準備・教材作成(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
12 回	実践Ⅱ：発表(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
13 回	実践Ⅱ：教材発表(プレゼンテーション)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
14 回	実践Ⅱ：振り返り(グループワーク) ○外部講師（歌などの発声練習法）					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				

15 回	まとめ	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)																																
16 回																																		
テキスト	特に無し																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する。																																	
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○	○					到達目標②			○	○			到達目標③			○	○		
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○	○																																
到達目標②			○	○																														
到達目標③			○	○																														
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			10%	10%	20%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																												
到達目標①			10%	10%	20%																													
到達目標②			10%	10%	10%																													
到達目標③			20%		10%																													
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	非常に高評価をいただきました。 学生自身が主体的に学ぶことができる環境作りを目指し、引き続き授業内容を検討していきます。																																	
受講生へのメッセージ・その他	受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価をします。 また、提出物は文量や授業内容の理解度をもとに評価します。																																	
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅡ (乳幼児プログラム)	担当者	田中裕子・水野友美	開講時期	2 年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める 到達目標(学修成果)①：専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める。 到達目標(学修成果)②：専門職として必要とされる「研究力」について、実践発表・ディスカッション等を通じて実践的にできる。 到達目標(学修成果)③：修得した専門的知識を包括的に研究につなげることができる。								
授業概要	専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。本プログラムでは保育指導法、乳幼児の理解の科目が専門ゼミナール必修科目となっている。これらの科目の単位が認められてこの科目の単位が認定される。幼稚園教諭、園長としての実務経験があり、保育者としての専門的知識や技術を生かした演習を行う。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ 回	オリエンテーション 成果レポートの作成準備①					事前：専門ゼミナールⅠの内容を復習する(0.5h) 事後：研究テーマについて調査を進める(Ⅰh)			
2 回	実践Ⅰ 子育て支援ルーム指導計画案作成					事前：指導案を作成する(0.5h) 事後：をまとめる(Ⅰh)			
3 回	教材研究Ⅰ(カプラ)					事前：カプラについて調べてくる(0.5h) 事後：実践後レポートをまとめる(Ⅰh)			
4 回	実践2 学祭教材準備・実習後面談					事前：実践内容を検討する(0.5h) 事後：実践の練習をしておく(Ⅰh)			
5 回	実践2 学祭教材準備・実習後面談					事前：指導計画案を作成する(0.5h) 事後：実践の練習をしておく(Ⅰh)			
6 回	実践2 学祭(保育実習室で実践する)					事前：保育実習室の環境構成をする(0.5h) 事後：実践後レポートをまとめる(Ⅰh)			
7 回	実践3 学外演習準備(指導案作成・リハーサル)					事前：指導計画案を作成する(0.5h) 事後：実践の練習をしておく(Ⅰh)			
8 回	実践3 学外演習(塩浜こども園)					事前：実践の練習をする(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(Ⅰh)			
9 回	実践3 学外演習振り返り					事前：学外演習のビデオを観て共有する(0.5h) 事後：グループでの学びをまとめる(Ⅰh)			
10 回	教材研究(スライム・その他)					事前：スライムについて調べる(0.5h) 事後：実践後レポートをまとめる(Ⅰh)			
11 回	教材研究(泥団子)					事前：泥団子について調べる(0.5h) 事後：実践後レポートをまとめる(Ⅰh)			
12 回	卒業研究					事前：成果発表の準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の振り返りをする(Ⅰh)			
13 回	卒業研究					事前：成果発表の準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の振り返りをする(Ⅰh)			

14 回	卒業研究最終提出	事前:成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)																												
15 回	まとめ	事前:成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する</p>																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②		○		○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②		○		○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他()</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>20%</td><td>20%</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		20%		到達目標②				20%			到達目標③				20%	20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②				20%																										
到達目標③				20%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>高い評価を受けました。</p> <p>学生が自分たちの課題を見つけて主体的に取り組む姿が見られました。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。</p> <p>・提出物は、文量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p> <p>・学生が主体的に取り組むようにしてください。</p>																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし																											

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅡ (障がい児プログラム)	担当者	仲森みどり・平野晃子		開講時期	2 年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	保育士：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士・施設職員等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める 到達目標(学修成果)①：専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める。 到達目標(学修成果)②：専門職として必要とされる「研究力」について、実践発表・ディスカッション等を通じて実践的にできる。 到達目標(学修成果)③：修得した専門的知識を包括的に研究につなげることができる。									
授業概要	保育園、児童相談所、母子生活支援施設、特別支援学校での実務経験を持つ教員が、専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職・障がい支援職のとしてのさらなる向上を図ることをねらいとする。本プログラムでは「障がい児の支援」、「障がい児の理解」の2科目がゼミナール必修科目となっている。これらの科目の単位が認められてこの科目の単位が認定される。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画						時間外学習			
Ⅰ 回	オリエンテーション						事前：専門ゼミナールⅠの内容を復習する(0.5h) 事後：研究テーマについて調査を進める(1h)			
2 回	障がいを考慮したおもちゃの作成①(グループワーク)						事前：授業で学んだことをふまえ計画を立てる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
3 回	障がいを考慮したおもちゃの作成②(グループワーク)						事前：前回の内容をふまえ準備・修正を行う(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
4 回	障がいを考慮したおもちゃの作成③(グループワーク)						事前：前回の内容をふまえ準備・修正を行う(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
5 回	障がいを考慮したおもちゃの作成④(グループワーク・ディスカッション) 製作物の発表						事前：製作物を通してプレゼン方法を計画(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
6 回	製作物の発表と実践						事前：製作物のプレゼンテーション(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
7 回	成果レポートの作成準備						事前：自らの研究動機をまとめ、深める(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
8 回	障がいと歯科衛生①(グループワーク・ディスカッション) 外部講師(ユマニテック医療福祉大学校 歯科衛生学科)						事前：歯科衛生に関する情報を調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
9 回	障がいと歯科衛生②(グループワーク・ディスカッション) 外部講師(ユマニテック医療福祉大学校 歯科衛生学科)						事前：歯科衛生と障がいの関係性を調べる(0.5h) 事後：事後の振り返りをする(1h)			
10 回	成果レポートの執筆①						事前：成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
11 回	成果レポートの執筆②						事前：成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
12 回	成果レポートの執筆③						事前：成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
13 回	成果レポートの執筆④						事前：成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			

14 回	成果レポートの発表（ディスカッション）	事前：成果レポート発表の準備をする（0.5h） 事後：成果レポートをまとめる（1h）																																
15 回	成果レポートの発表とまとめ（ディスカッション）	事前：成果レポート発表の準備をする（0.5h） 事後：成果レポートをまとめる（1h）																																
16 回																																		
テキスト	無し																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																																	
到達目標（学修成果）及び観点	<p>【到達目標（学修成果）及び観点】</p> <table border="1"> <tr> <td>到達目標（学修成果）及び観点</td> <td>知識・理解</td> <td>思考・判断</td> <td>関心・意欲</td> <td>技能・表現</td> <td colspan="2">その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>						到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）		到達目標①	○						到達目標②		○		○			到達目標③		○	○			
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																													
到達目標①	○																																	
到達目標②		○		○																														
到達目標③		○	○																															
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <tr> <td>評価方法・到達目標（学修成果）</td> <td>定期試験 （筆記試験・実技試験）</td> <td>小テスト</td> <td>課題・提出物・レポート</td> <td>発表・実技</td> <td>取り組み姿勢</td> <td>その他 （ ）</td> </tr> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>ループリック評価： <input type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>						評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 （ ）	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%	10%	10%		到達目標③			20%	10%		
評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 （ ）																												
到達目標①			20%		10%																													
到達目標②			20%	10%	10%																													
到達目標③			20%	10%																														
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談：オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック：授業の中で指示する。</p>																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	専門性の高い外部講師の講義やフィールドワーク等から学びが深められたとの回答が多かったため、実践的な学びや取り組みを設けていく。																																	
受講生へのメッセージ・その他	問題意識を持ち成果報告書に向けてコツコツと進めていきましょう。																																	
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅡ (地域連携プログラム)	担当者	中村真緒・渡辺ユリナ		開講時期	2 年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	保育士：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める 到達目標(学修成果)①：専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める 到達目標(学修成果)②：専門職として必要とされる「研究力」について、発表・ディスカッション等を通じて実践的にできる。 到達目標(学修成果)③：修得した専門的知識を包括的に研究につなげることができる									
授業概要	保育教諭としての勤務経験のある教員が担当する本ゼミナールは、専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、ゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画						時間外学習			
1 回	全体オリエンテーション						事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと成果レポートの準備をする(1h)			
2 回	担当教員によるオリエンテーション 実践に向けての準備①(グループワーク)						事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと成果レポートの準備をする(1h)			
3 回	成果レポートの作成準備① ゼミ内ディスカッション、方向性の確認 実践に向けての準備②(グループワーク)						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果レポートをまとめる(1h)			
4 回	成果レポートの作成準備② ゼミ内ディスカッション、序論下書き作成 実践に向けての準備③(グループワーク)						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
5 回	成果レポートの作成準備③ ゼミ内ディスカッション、本文下書き作成 実践に向けての準備④(グループワーク)						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
6 回	成果レポートの作成準備④ ゼミ内ディスカッション、結論下書き作成 実践に向けての準備⑤(グループワーク)○外部講師						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
7 回	成果レポート中間報告(プレゼンテーション)						事前：発表に向けての準備をする(0.5h) 事後：発表の振り返りをする(1h)			
8 回	成果レポートの執筆① 序論 実践に向けての準備⑥						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
9 回	成果レポートの執筆② 本論 実践に向けての準備⑦						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
10 回	学外活動(地域連携活動)						事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
11 回	成果レポートの執筆③ 結論						事前：成果レポートの準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
12 回	成果レポートの執筆④ 遂行 プレゼンテーションにむけての準備						事前：成果発表に向けての準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の準備をする(1h)			
13 回	プレゼンテーション						事前：成果発表に向けての準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)			

14 回	プレゼンテーションの振り返り	事前:成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)																												
15 回	ゼミナールの 1 年間のまとめと振り返り	事前:1 年間のまとめを振り返る(0.5h) 事後:1 年間のまとめをする(1h)																												
16 回																														
テキスト	特に無し																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②			○	○		到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②			○	○																										
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<table><tr><th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物 レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み 姿勢</th><th>その他 ()</th></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			20%			
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②			20%		20%																									
到達目標③			20%																											
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	非常に高い評価をいただきました。 受講者が前向き且つ主体的に学ぶことができるよう、環境作りを検討していきます。																													
受講生へのメッセージ・その他	受講姿勢は、成果レポートの作成を含む授業への参加態度をもとに評価をします。 また、成果レポートは、文量やレポート内容の理解度をもとに評価をします。																													
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	保育・教職実践演習	担当者	平松喜代江・徳増全矢 田中裕子・中村真緒 平野晃子	開講時期	2 年 後期	授業形態・ 単位数	演習 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30203	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：幼児教育者あるいは保育者として、保育内容にかかわる理解を深めるとともに受講者の指導力向上を図る。 到達目標(学修成果)①：ひとりの社会人及び教育・保育の専門職としての使命感、常に学び続ける意欲を持つことができる。 到達目標(学修成果)②：組織の一員としての自覚を持ち、職責・職務の遂行に向けた適切な発言と良好な人間関係を形成できる。 到達目標(学修成果)③：子どもの心身の発達、安全に配慮した実践をすることができる。 到達目標(学修成果)④：これまでの学びや学外実習等の経験をもとに、一人ひとりの子どもの特性や状況に配慮した指導法の工夫及び自己の実践に対する評価・改善に取り組むことができる。								
授業概要	現場経験を有する教員が、専門性を生かし分担しながら進める授業である。2年間の学び、あるいは学外実習で得られた専門的な知識及び技術について、学内でのディスカッション、あるいは保育現場での実践を通じて再確認するとともに、保育者として必要とされる使命感、社会性、責任感、子どもに対する理解などを深めることを目的とする。また、外部講師からの講話や各現場でのフィールドワーク、実践を通じて理解を深め、受講生の幼児教育者あるいは保育者としての指導力向上に資することをねらいとする。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	イントロダクション 履修カルテを用いた、今までの学修の振り返り・自己評価					事前：履修カルテを利用してこれまでの振り返り(1h) 事後：学習内容の振り返りとまとめ(1h)			
2 回	グループによるディスカッション(保育内容の指導上の能力について) 自分たちの課題をまとめる					事前：自らの課題を発表用にまとめる(1h) 事後：グループでの内容をまとめ、振り返る(1h)			
3 回	現場の組織について、保育者の資質について(外部講師による特別講義) グループによるディスカッション					事前：これまでの指導実習を振り返る(1h) 事後：特別講演を拝聴してのまとめと振り返り(1h)			
4 回	保育者として求められる資質①「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
5 回	保育者として求められる資質②「社会性や対人関係能力に関する事項」 (グループワーク・ディスカッション)					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
6 回	保育者として求められる資質③「幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
7 回	保育者として求められる資質④「保育内容等の指導力に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
8 回	効果的な指導案の作成について(外部講師による特別講義)					事前：指導案に関しての振り返りをする(1h) 事後：特別講義を受けてのまとめと振り返り(1h)			
9 回	模擬保育検討のための指導案作成					事前：指導案作成等の下準備をする(1h) 事後：指導案に関する再検討を行う(1h)			
10 回	模擬保育に向けての準備① 実際の環境を整備					事前：指導案に基づき準備をする(1h) 事後：不足分について学習する(1h)			
11 回	模擬保育に向けての準備② リハーサル等					事前：指導案に基づき準備をする(1h) 事後：不足分について学習する(1h)			
12 回	模擬保育に向けての準備③ 最終調整等					事前：指導案に基づき準備をする(1h) 事後：不足分について学習する(1h)			

13 回	模擬保育の実施① AB グループによる模擬保育+CD グループは観察・検証	事前:指導案に基づき準備をする(1h) 事後:実施後の自己評価と振り返りをする(1h)																																				
14 回	模擬保育の実施② CD グループによる模擬保育+AB グループによる観察・検証	事前:指導案に基づき準備をする(1h) 事後:実施後の自己評価と振り返りをする(1h)																																				
15 回	総括:学びの振り返りと学修成果の再構成・最終的な自己評価	事前:半期分の学習について振り返りをする(1h) 事後:自己評価を振り返る(1h)																																				
16 回																																						
テキスト	資料については必要に応じて授業時に配布する。																																					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018																																					
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標④</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>			到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○			到達目標②		○	○			到達目標③		○	○	○		到達目標④		○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																	
到達目標①		○	○																																			
到達目標②		○	○																																			
到達目標③		○	○	○																																		
到達目標④		○	○	○																																		
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>期末試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標④</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr></table> 授業記録、課題、レポートの提出物は、内容と分量・提出期限から評価を行う。 研究保育は事前の指導案作成や指導、事後における指導や課題提出を含めて評価を行う。 ルーブリック評価:取り入れている・ <div>取り入れていない</div>			評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%		10%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			10%	10%	10%		到達目標④			10%	10%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																																
到達目標①			10%		10%																																	
到達目標②			10%		10%																																	
到達目標③			10%	10%	10%																																	
到達目標④			10%	10%	10%																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは各教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行います。 学習成果のフィードバック: 試験結果、各種課題の返却については授業時間にて指示します。																																					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育実践に関する科目/教職実践演習 保育士:総合演習/保育実践演習																																					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年度の反省から、教員間の連携を密に行い、グループごとの個体差が出ないように工夫をする。模擬保育がより充実したものとなるよう、綿密な計画を立てて臨む。																																					
受講生へのメッセージ・その他	・受講姿勢は、指導案等成果物の作成を含む授業への参加態度をもとに評価します。 ・成果物は、分量やレポート内容の理解度をもとに評価します。																																					
実務経験の有無	有	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																																				
		<div>あり</div> ・ なし																																				

科目区分	専門教育科目	科目名	教育心理学	担当者	水野友美	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修・准学校心理士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を学ぶ。 到達目標(学修成果)①：教育や子どもの発達について心理学的に説明できる。 到達目標(学修成果)②：学習・発達・性格・教育評価など教育心理学の基礎的知識を説明できる。 到達目標(学修成果)③：基礎的知識をもとに専門家として保育実践に応用できる。								
授業概要	本科目は、心理士としての小児の臨床経験と保護者や教員への助言経験を有する担当教員により理解を進める。教育心理学の基礎知識を、乳幼児期・児童期（障害児を含む）に焦点を当てて学ぶ。子どもの知的発達や学びのプロセスを理解するため、子どもの発達や知能、性格、学修のメカニズム、意欲や動機付け、その評価等についても学び、保育や教育現場で役立てられることを目的とする。また、これらを学ぶことで、表面上ではなく子どもたちの背景を正しく把握する力や対処法を身に付けていくことも狙いとする、 なお、授業時には適宜グループワークを行い、学習内容を深化できるようにする。								
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、 他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に 貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	思考の育ち 認知発達について					事前：教科書代 1 章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
2 回	喜怒哀楽の育ち 情動発達について					事前：教科書第 2 章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
3 回	「わたし」の育ち 社会化と自己の発達について					事前：教科書第3章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
4 回	学びの基礎（Ⅰ） 学習、記憶について					事前：教科書第4章 P.68-75 を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
5 回	学びの基礎（Ⅱ） メタ認知について					事前：教科書第 4 章 P.76-81 を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
6 回	やる気がでるとき、でないとき（Ⅰ） 興味 効力感 自律的動機付け 自己決定理論 達成目標 課題価値					事前：教科書第5章 P.86-91 を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
7 回	やる気がでるとき、でないとき（Ⅱ） 再帰属訓練 マインドセット 自律性支援 エンゲージメント 動機づけ					事前：教科書第5章 P.92-101 を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
8 回	教え方、学び方 学習指導について					事前：教科書第6章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
9 回	【オンデマンド】学びのとらえ方 評価の機能 学力評価の歴史 新しい学力観 評価の方法					事前：教科書第7章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
10 回	仲間との学び合い 共同学習 ピア・サポート					事前：教科書第8章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
11 回	仲間との関係 適応 社会的学習 ソーシャルスキル					事前：教科書第9章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
12 回	学びと育ちを支える教室 子ども関係 学習風土 学校文化					事前：教科書第10章を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			
13 回	子どもの困難の理解と支援（Ⅰ）					事前：教科書第11章 p.197-203 を読む（2h） 事後：学習内容を復習しまとめる（2h）			

14 回	子どもの困難と理解と援助(11) 因果関係の循環的捉え システム的視点と対応	事前:教科書第 11 章 p.204-214 (2h) 事後:学習内容を復習しまとめる(2h)					
15 回	個のニーズに応じた学び 特別支援教育について	事前:教科書第 12 章を読む(2h) 事後:学習内容を復習しまとめる(2h)					
16 回	定期試験						
テキスト	中谷素之、中山留美子、町岳著「エピソードに学ぶ教育心理学」 有斐閣 2022 年						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜紹介						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○					
	到達目標②	○					
	到達目標③	○					
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	20%		20%			
	到達目標②	20%		20%			
	到達目標③	10%		10%			
ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:授業後やオフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程 保育士:保育の対象の理解に関する科目/保育の心理学						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業内容を具体的な生活と関連付けグループワークを増やした。						
受講生へのメッセージ・その他	自分や他の人のことについて考え、学びの本質的なことを理解していきます。身の回りに起こる様々な現象を、心の動きと共に記録しておきましょう。なにかしらの答えを見つける手掛かりになると思います。						
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の言葉	担当者	南泰代	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、幼児教育者・保育者として言葉の育ちを促す保育内容を創造する。 到達目標(学修成果)①:乳幼児の言葉獲得の道筋を理解し、言葉の発達を支える保育内容について理解する。 到達目標(学修成果)②:保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「言葉」の基礎が理解できる。 到達目標(学修成果)③:児童文化財と言葉の発達を理解できる。								
授業概要	人間にとっての言葉の持つ意義・役割とその獲得過程を理解することを通して、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚や想像力を豊かにするための児童文化財の活用について、実践を通して修得する。アクティブラーニングを利用し、ディスカッションやグループワークを取り入れる。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 自分の言葉を分析し、保育者・教育者としての言葉を考える。					事前:自分の使う言葉を分析する。(0.5h) 事後:今後の自分の言葉を考える。(0.5h)			
2 回	言葉獲得の前提となるコミュニケーションの基礎は何であるのか考え、言葉の獲得と人間の育ちとの関係を考察する。テキスト「保育内容・言葉」第1章「こどものことばと育ち」に従って「ことばの育ちを支えるもの」について考える。					事前:テキストP1～4頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
3 回	言葉にはどのような機能があるのか考える。テキスト「保育内容・言葉」第 1 章「ことばはどのような機能をもっているか」で考える。ビゴツキーの「内言・外言」について予備知識をもって臨む。					事前:テキストP5を読み、ビゴツキーの「内言・外言」について予備知識をもって臨む。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
4 回	保育内容「領域」とは何かを理解し、領域「言葉」のねらいと内容について考える。テキスト「保育内容・言葉」第 2 章「領域“言葉”とは何か」及び「幼稚園教育要領」などを参考にして“ねらい”“内容”“内容の取り扱い”を理解する。					事前:テキスト P11～25 頁を読んでおく。(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(0.5h)			
5 回	乳児期(3 歳未満児)における言葉獲得の過程と特質について理解する。 テキスト「保育内容・言葉」第 3 章乳児期～幼児期前半の説明を中心に考える。「一語文」について予備知識を得ておく。0・1歳児向け					事前:テキストP27～35頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
6 回	幼児期後期における語彙の増加と会話の育ち及び文字の獲得について検討・理解する。テキスト「保育内容・言葉」第 3 章の幼児期後半の説明を中心に考える。「文字の獲得」のプロセスについて自らの考えをまとめておく。					事前:テキストP35～42 頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
7 回	事例を通して、子どもの言葉を培う保育について考える。 テキスト第 4 章の事例を確認しながら「保育の中でことば獲得への配慮はどうあったらよいか」検討する。					事前:テキストP43～59頁の事例を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
8 回	子どもの観察を実施し、言葉と発達、言葉と心、言葉と生活等を考察し、発表・討論する。観察対象を定め、こどもと言葉について観察を実施し、記録としてまとめ、考察を加えて発表する。					事前:子どもと言葉について観察をし、記録としてまとめる。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
9 回	言葉獲得において特に配慮を必要とする幼児の実態についてテキスト第 5 章に沿って考える。特別な配慮が必要な子どもとして、例えば発達障害(自閉症スペクトラム)の言葉獲得の特徴について予備学習をして臨む。					事前:テキストP61～75 頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
10 回	テキスト第 6 章「うたや触れあいを楽しむ遊び」の内容に沿って「言葉を使った遊び」の実践を学習する。					事前:知っているわらべ歌を調べて歌ってみる。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)			
11 回	言葉文化としての絵本・紙芝居・お話の教育的意義について考える。 テキスト第 7 章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」を参考に、絵本やお話・紙芝居の教育的意義について討論する。声を出して絵本を読む練習をする。					事前:絵本を 1 冊読む練習をして持参する。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。 声を出しておすすめ絵本を読む練習をする。(0.5h)			

12 回	言葉文化としてのペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの教育的意義について考える。ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどを製作する。(SDGs)	事前:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの題材を考えてくる。(0.5h) 事後:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作をする。(0.5h)																												
13 回	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどを製作する。(SDGs)	事前:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作をする。(0.5h) 事後:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作をする。(0.5h)																												
14 回	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターの発表練習をとおして、保育者・教育者としての言葉を考える。幼児の言葉と発達を考える。	事前:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作と発表練習をする。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)																												
15 回	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターの発表 相互評価をして、さらに上演技術が向上するように発表の場を得る。 (写真撮影) 振り返りとまとめ 確認シートにこれまでの学びを整理する。	事前:確認シートにこれまでの学びを整理する。(0.5h) 事後:授業を振り返り、今後のことばを考える。(0.5h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	太田光洋(編)『保育内容・言葉』 同文書院 2018 年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017 年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017 年 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 2017 年																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②		○	○			到達目標③		○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②		○	○																											
到達目標③		○	○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>25%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>25%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	25%		10%	10%	20%		到達目標②	25%						到達目標③				10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	25%		10%	10%	20%																									
到達目標②	25%																													
到達目標③				10%																										
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業時に提出する課題シートに記入された質問や疑問を通して相談にのる。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/言葉 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	普段からできるだけ多くの絵本や紙芝居・お話に触れ、声を出して読むように心がけておくこと。そのため、できるだけ図書館を活用し、おすすめ絵本や紙芝居などを探しておく。																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ なし																											

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の健康	担当者	平野晃子	開講時期	Ⅰ 年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40103	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修・レクリエーション：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:乳幼児の発育発達を理解し、運動・保健指導についての考えを深める。 到達目標(学修成果)①:乳幼児期の発育発達を理解し、運動・保健指導の意義や価値について考え、説明できる。 到達目標(学修成果)②:発達段階や指導目的に合わせた運動・保健指導の立案と展開ができる。 到達目標(学修成果)③:乳幼児期の運動・保健指導の重要性を理解し、主体的に運動・保健指導に携わることができる。								
授業概要	本講義では、乳幼児と健康とのかかわり、乳幼児の心身の発育発達、様々な運動・保健の指導法について学び、幼児保育における健康について考えを深める。講義の中では、多様な教材・教具を紹介し、現場実践につながる知識を学ぶことができるようにする。模擬保育からは、学んだことを現場実践につなげていく力、省察していく力、授業について客観的に考察していく力などを養えるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ 回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介					事前:シラバスを読む(0.5h) 事後:学びたいことをまとめる(0.5h)			
2 回	健康とは、領域「健康」の考え方					事前:教科書p12-29を読む(0.5h) 事後:教科書p12-29に関する考えをまとめる(0.5h)			
3 回	身体発育、心と身体の健康					事前:教科書p30-57を読む(0.5h) 事後:教科書p30-57に関する考えをまとめる(0.5h)			
4 回	運動能力・動きの獲得、遊びの種類と養われる多様な運動能力					事前:教科書p58-88を読む(0.5h) 事後:教科書p58-88に関する考えをまとめる(0.5h)			
5 回	運動あそびの指導案立案 (グループワーク)					事前:個々で運動あそびの活動例を調べる(0.5h) 事後:グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)			
6 回	運動あそびの模擬保育 (グループワーク)					事前:グループで発表の準備をする(1h～) 事後:発表を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
7 回	運動あそびの模擬保育 (グループワーク)					事前:グループで発表の準備をする(1h～) 事後:発表を通して考えたことをまとめる(0.5h)			
8 回	基本的生活習慣に関わる指導 歌の紹介 生活保健指導の実践紹介【外部講師】					事前:教科書p90-101を読む(0.5h) 事後:教科書p90-101に関する考えをまとめる(0.5h)			
9 回	食育に関わる指導 「美味しい野菜スープ」のパネルシアター実践					事前:教科書p102-115を読む、パネルシアター実践をイメージする(1h) 事後:教科書p102-115に関する考えをまとめる(0.5h)			
10 回	保育の中の行事、養護と健康					事前:教科書p134-155を読む(0.5h) 事後:教科書p134-155に関する考えをまとめる(0.5h)			
11 回	伝承あそび体験 伝承あそび発表会					事前: 伝承あそびを調べ、発表準備をする(1h) 事後: 伝承あそびに関する考えをまとめる(0.5h)			
12 回	安全指導と安全への配慮、小学校教育とのつながり					事前:教科書p116-133、156-164を読む(0.5h) 事後:教科書p116-133、156-164に関する考えをまとめる(0.5h)			
13 回	生活保健の指導法考案 (グループワーク)					事前:個々で生活(保健)指導の活動例を調べる、考える(0.5h) 事後:グループワークで考えたことをまとめる(0.5h)			

14 回	生活保健の指導法発表 (グループワーク)	事前:グループで発表準備をする(1h) 事後:発表を通して考えたことをまとめる(0.5h)																																
15 回	振り返りとまとめ	事前:学習内容を振り返り、まとめる(1h) 事後:全授業を通して学んだことをまとめる(1h)																																
16 回	定期試験(成績評価40%相当)	事前:復習(2h~)																																
テキスト	新・保健内容 健康 ―活き活きとした子どもの発達発達を求めて― ,教育情報出版 ,2022 幼稚園教育要領 ,フレーベル館 ,2017 保育所保育指針 ,フレーベル館 ,2017 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ,フレーベル館 ,2017																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 見て、聞いて、触って、動いて 多感覚で楽しむストーリーテリング ―心豊かな学びと支援― ,ジヤーズ教育新社																																	
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○	○		○			到達目標②	○	○		○			到達目標③	○		○			
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○	○		○																														
到達目標②	○	○		○																														
到達目標③	○		○																															
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 (指導案)</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>30%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>10%</td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 (指導案)	到達目標①	30%		10%				到達目標②				20%		10%	到達目標③	10%			20%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 (指導案)																												
到達目標①	30%		10%																															
到達目標②				20%		10%																												
到達目標③	10%			20%																														
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>																																	
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーにて対応します。 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します。 テストは研究室にて保管しています。事前に連絡の上、結果の確認をすることができます。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/健康 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																																	
受講生へのメッセージ・その他	乳幼児期における健康教育について一緒に学びを深めていきましょう。																																	
実務経験の有無	あり・ <u>なし</u>		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<u>あり</u> ・なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の環境	担当者	徳増全矢	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40104	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：生活と自然や社会とのかかわり 到達目標(学修成果)①：身近な自然に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつことができる。 到達目標(学修成果)②：身近な自然に関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする事の大切さを述べることができる。 到達目標(学修成果)③：日常経験の中で、物の性質や数量、図形などに対する感覚を豊かにする遊びや体験を工夫できる。								
授業概要	本科目は、小学校での実務経験を有し、ネイチャーゲーム指導員としての実践経験を有する教員（徳増）により、保育現場の実態に即して理解を深める。季節による自然の変化や身近な動植物について、観察や体験活動をグループワーク形式で行う。子どもが興味や関心をもつような自然環境・社会環境について学習する。ネイチャーゲームを代表とする自然体験学習や社会的な体験活動について理解し、遊びの計画を立案する。直接体験が難しいものについては、ICTを活用して間接的な理解が深まるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション「環境」とは 子どもを取り巻く環境の変化について SDGsってなに？					事前：教科書1章、2章、3章を読む。（1h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（1h）			
2回	子どもの発達と周囲の環境 子どもの発達と環境 園の環境 環境の「ねらいと内容」					事前：教科書4章、5章、6章を読む。（1h） 事後：学習内容を復習し、まとめる。（1h）			
3回	自然とふれあい感動する（1） ネイチャーゲーム（アクティビティ：フィールドビンゴ、コウモリとガなど）					事前：自然と関わった経験を振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
4回	自然とふれあい感動する（2） ネイチャーゲーム（アクティビティ：カモフラージュ・マイクロハイクなど）					事前：自然と関わった経験を振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
5回	物事の法則性に気づく（1） 縮む 飛び出る 跳ねる 転がる					事前：物事の法則性について予習しておく（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
6回	物事の法則性に気づく（2） 染み込む 染まる 溶ける 固まる					事前：物事の法則性について予習しておく（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
7回	季節感を味わう 秋探しマップを作ってみよう					事前：季節の特徴を予習しておく（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
8回	自然を取り入れて遊ぶ 季節の素材を用いた製作活動について					事前：自然で遊んだ経験を振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
9回	生命の営みにふれる 飼育・栽培について ネイチャーループ					事前：自然で遊んだ経験を振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
10回	身のまわりの物に愛着をもつ（1） 身のまわりの物を用いた製作活動の計画立案					事前：生きものと関わった経験を振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
11回	身のまわりの物に愛着をもつ（2） 身のまわりの物を用いた製作遊びの計画立案・紹介・実践					事前：生きものと関わった経験を振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
12回	科学を体感する 重力を用いた遊び 磁力を用いた遊び など					事前：身の回りにある物と自分の関わりを振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			
13回	数量・図形に親しむ 数量・図形を用いた遊びの立案・紹介・実践					事前：身の回りにある物と自分の関わりを振り返る（1h） 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる（1h）			

14 回	標識や文字の必要感を育む 標識や文字を用いた遊びの立案・紹介・実践	事前:科学と自分の関わりを振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)																												
15 回	身近な施設情報や施設を活かし、生活を豊かにする 身近な施設(社会教育施設など)を活用した活動	事前:科学と自分の関わりを振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)																												
16 回	定期試験	事前: 事後:																												
テキスト	田宮縁著『体験する 調べる 考える 領域「環境」(第三版)』萌文書林、2024 年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー』新潮社																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		10%		10%		到達目標②	10%		10%		10%		到達目標③	20%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		10%		10%																									
到達目標②	10%		10%		10%																									
到達目標③	20%		10%		10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: <div>取り入れている</div> ・取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する課題に記入された質問や疑問を通し、相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/環境 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	今年度も引き続き演習を効果的に用いて活動を行う。グループごとで温度差が出ないように、心がけて授業を行います。																													
受講生へのメッセージ・その他	気象条件などによって、授業の順序が変わることがある。また、屋外での活動を行うため、服装などを指定することがある。活動への意欲的な参加を前提とするので、学生本人の関心意欲態度を評価する。																													
実務経験の有無	有	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<div>あり</div> ・ なし																											

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの保健	担当者	水野友美	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40105	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:子どもの心身の健康について学び、保育実践に繋がる保健活動の意義を理解する。 到達目標(学修成果)①:子どもの体の発育・生理機能について説明できるようにする。 到達目標(学修成果)②:子どもの健康状態とその把握方法を知り、実践に活かすことができる。 到達目標(学修成果)③:子どもの疾病とその予防方法や適切な対応について説明できる。								
授業概要	感染症、アレルギー疾患領域における心理的介入研究をしている教員（水野）が担当します。保育士として子どもの命を守る立場であることを一人ひとりが自覚できるよう、保育現場での事例も伝えながら子どもの健康・成長発達について学んでいきます。また、保育士として、自分自身の健康に対する意識も高められるように伝えていきます。受胎と胎生期から乳幼児期までの成長発達や生理機能の発達について理解し、子どもの心身の健康に関心を持つこと。子どもの疾病や予防についての知識を身につけ、日常生活（園生活）において適切な対応ができるようにする。複雑な情報を分かりやすく伝達可能なインフォグラフィックを作成することで、保健情報の手技や情報提示を学んでいきます。小テストが2回（第4回、10回目）あります。								
ディプロマポリシー（DP）と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	授業計画の説明					事前:シラバス、テキストP1-19を読む(2h)			
	生命の保持と状況の安定に係る保健活動の意義と目的 保健活動に関わる歴史的な流れ・子どもの出生と母子保健の意義					事後:学んだ用語を整理しまとめる(2h)			
2 回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 統計やグラフから現状を捉えて、課題について考える					事前:子どもの体力・運動の変化について調べる テキストP.21-29(2h)を読む 事後:学んだ用語を整理し振り返り問題を行う(2h)			
	子どもの発育・発達と保健(小テスト①※持ち込み可) 子どもの身体発育と運動機能の発達					事前:テキストP.31-44を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理し振り返り問題を行う(2h)			
4 回	子どもの発育・発達と保健 生理機能の発達と生活習慣					事前:テキストP.45-53を読む(2h) 事後:学んだ用語を整理し振り返り問題を行う(2h)			
	地域における保健活動と子供の虐待防止 虐待の実態から虐待防止への取り組み 保護者との情報共有と家族の支援 健康診断と関係機関との連携					事前:テキストP.55-63、129-148を読む(2h) 事後:学んだ用語を整理し振り返り問題を行う(2h)			
6 回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握					事前:テキストP.65-70を読む(2h) 事後:学んだ用語を整理し振り返り問題を行う(2h)			
	【外部講師】運動機能の発達					事前:テキストP.31-44を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)			
8 回	【外部講師】運動機能の発達					事前:乳幼児の運動機能について調べる(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)			
	子どもの病気 ① 子どもの免疫の発達と感染症の特徴					事前:テキストP.71-80を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)			
10 回	子どもの病気 ② 感染症の予防および適切な対応					事前:テキストP.80-88を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)			
	子どもの病気(小テスト②※持ち込み可) ③ 救急疾患の特徴と適切な対応					事前:テキストP.89-98を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)			
12 回	子どもの病気 ④ 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と慢性疾患の特徴と適切な対応					事前:テキストP.99-105、115-127を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)			

13 回	子どもの病気 ⑤ (小テスト③読みテスト※持ち込みなし) アレルギー疾患の特徴と適切な対応	事前:テキストP.106-114を読む(2h) 事後:授業で学んだ用語を整理しまとめる(2h)																												
14 回	【外部講師】多様性と性教育 保育者としての性教育の知識と実践	事前:これまで受講した性教育について調べる 事後:講義の振り返りをまとめる(2h)																												
15 回	インフォグラフィクス発表会	事前:発表会の準備をする 事後:振り返り																												
16 回	定期試験																													
テキスト	「授業で現場で役に立つ!子どもの保健テキスト」改訂第3版 編著小林由紀 出版社 診断と治療社 2024年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜紹介																													
到達目標 (学修成果) 及び観点	<div>【到達目標 (学修成果) 及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標 (学修成果) 及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	到達目標①	○					到達目標②	○		○	○		到達目標③	○								
到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()																									
到達目標①	○																													
到達目標②	○		○	○																										
到達目標③	○																													
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標 (学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>20%</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>ループリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div></div>		評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()	到達目標①	20%	10%		10%			到達目標②	20%	10%		10%			到達目標③	10%	10%				
評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%	10%		10%																										
到達目標②	20%	10%		10%																										
到達目標③	10%	10%																												
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 毎回の授業の際に提出するカードに記入された質問や疑問を通して相談を受ける。またオフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック: 提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の対象の理解に関する科目 / 子どもの保健																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	生徒の学力レベルによる習熟度の幅を減らす為に、見慣れぬ言葉を円滑に読めるよう課題に含めた。																													
受講生へのメッセージ・その他	健康とは何かを考えながら「一人一人の子どもの健全な発育・発達」をみまもり、援助できる立場になれるよう共に学んでいきましょう。小テストはウェブ上または紙面での実施となります。スマートフォン、またはタブレットを持参してください。CANVA アプリを希望者は使用します。																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ <div>なし</div>																											

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児保育	担当者	仲森みどり	開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件		ナンバリング	CS40106	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：障がい児保育についての概観を理解し、実践的能力の基礎を身につける。 到達目標(学修成果)①：障がい児保育の歴史的変遷及び社会背景、現状について説明できる。 到達目標(学修成果)②：障がいのある子どもたちの障がい特性に関して説明できる。 到達目標(学修成果)③：障がいのある子どもたちと共に育ちあう保育についての実践的能力の基礎を身につける								
授業概要	保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、障がいのある子どもへの保育や支援の現場経験から、障がい児保育の歴史的変遷や社会的背景を学び、障がい児保育の現状について正しい理解をする。特にインクルーシブ保育の概念や合理的配慮を理解し、今後求められる障がい児保育に関する実践的能力を熟成する。同時に障がい児や保護者との信頼関係を築き、保育園内外において障がい児保育を実践する能力を身に付ける。授業については「障がいとは何か」などの基本的な知識を得ることから始め、障がい児保育についての基本姿勢や心構え及び対応等について保育との関連性を図りながら学び取るとともに「障がい児保育観」の確立を目指して授業を進める。いくつかの障がい児保育の事例に触れ、共に考え、より実践的に学ぶようにする。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進度を深める。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション（授業概要と授業のすすめ方） 障がい児保育とは					事前：教科書pp.2～pp.5 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅱ回	乳幼児期における障がい特性					事前：教科書pp.6～pp.9 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅲ回	乳幼児期における発達課題と障がい特性					事前：教科書pp.10～pp.19 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅳ回	幼児期の障がいのある子どもの抱える「困り感」					事前：教科書 pp.20～pp.21 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅴ回	障がい児保育の仕組み					事前：教科書pp.22～pp.37 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅵ回	知的障害の特徴と保育での支援					事前：教科書pp.40～pp.55 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅶ回	自閉スペクトラム症の特徴と保育での支援					事前：教科書pp.56～pp.73 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅷ回	注意欠如・多動症の特徴と保育での支援					事前：教科書pp.74～pp.89 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅸ回	学習障害の特徴と保育での支援					事前：教科書pp.90～pp.107 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅹ回	視覚・聴覚・言語・肢体の特徴と保育での支援					事前：教科書pp.108～pp.127 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅺ回	インクルーシブ保育とは					事前：教科書pp.130～pp.147 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
Ⅻ回	保育所・幼稚園での支援体制					事前：教科書pp.148～pp.162 を熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			

13 回	家族への支援 保護者の障害受容と支援	事前:教科書pp.164～pp.179を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																												
14 回	障害児のアセスメント 心理検査(知能検査・発達検査・言語発達検査)	事前:教科書pp.180～pp.201を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																												
15 回	発達支援の技法・まとめ	事前:教科書pp.202～pp.231を熟読する。今まで学んだところを見直しておく。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																												
16 回	定期試験																													
テキスト	尾崎康子ほか編『よくわかる障害児保育 第2版』ミネルヴァ書房 2020																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 松本峰雄 監修 増南太志 編著『障害児保育演習ブック』ミネルヴァ書房 2021 伊丹昌一 編著『インクルーシブ保育論』ミネルヴァ書房 2017																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他()</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②	○			○		到達目標③	○	○							
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②	○			○																										
到達目標③	○	○																												
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th><th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他()</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td><td>25%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td>25%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%		10%				到達目標②	25%			10%			到達目標③	20%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	25%		10%																											
到達目標②	25%			10%																										
到達目標③	20%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業内に指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の内容・方法に関する科目/障害児保育																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	障害についての専門的な用語又は障害名が出てくるため、繰り返し伝え、理解度を確認していく。昨今、インターネット等で特に発達障害については、情報が沢山出ているが、障害についての学びはスタートとして捉え、詳細に丁寧に伝えていく。																													
受講生へのメッセージ・その他	授業時間内で伝えられる内容には限りがあるため、事前に教科書を熟読し、予習をして下さい。また、自分の理解度の確認のため復習もしっかりと行って、定期試験に臨んで頂きたいです。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり ・ <input type="checkbox"/> なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の人間関係	担当者	平松喜代江	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS4020Ⅰ	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:乳幼児の人間関係の育ちと保育者としての役割の理解についてグループワーク・ディスカッションを通して学ぶ 到達目標(学修成果)①:乳幼児期の人間関係の発達に関する知識と現代的課題を説明できる。 到達目標(学修成果)②:保育者としての子どもに対する共感の姿勢を説明できる。 到達目標(学修成果)③:幼児期の仲間関係を支える保育者としての援助を説明できる。								
授業概要	愛着の形成から仲間関係まで、乳幼児期の人間関係の育ちに関する基礎的な知識を学修する。また、保育者の資質として求められる共感性について、事例や省察によって考察し、理解を深める。これらの理解をもとにして、幼児期の仲間関係や集団遊びを支える保育者の役割や地域子育て支援との関連について学ぶ。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ 回	子どもを取り巻く人間関係 グループワーク					事前:テキスト p.Ⅰ2-23 を熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
2 回	保育における人間関係のねらい グループワーク					事前:テキスト p.24-35 を熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
3 回	自己覚知-自分の価値観を知る- ディスカッション					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
4 回	他者理解①-共感の体験- グループワーク					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
5 回	他者理解②-グループコンセンサス- グループワーク					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
6 回	人間関係とアイデンティティ					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
7 回	外部講師 幼児のアイデンティティ					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
8 回	自己肯定感とアイデンティティ グループワーク					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
9 回	乳児期の人間関係 乳幼児の心の発達とコミュニケーション					事前:テキスト p.36-45 を熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅰ0 回	Ⅰ 歳以上 3 歳未満児の人間関係					事前:テキスト p.46-58 を熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
ⅠⅠ 回	3 歳以上児の人間関係					事前:テキスト p.59-70 を熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅰ2 回	家庭や地域との連携とソーシャルワーク					事前:テキスト p.83-97 を熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅰ3 回	外部講師 保護者支援、保護者との連携					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
Ⅰ4 回	子どもの人間関係と社会性・道徳性					事前:テキスト p.7Ⅰ-82 を熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			

15 回	保育者が紡ぐ人間関係	事前:テキスト p.98-103 を熟読する。(0.5h) 事後:配布レジュメを参考にノートをまとめる。(0.5h)					
16 回	定期試験						
テキスト	菊池篤子著『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』株式会社みらい 2020 年						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】						
到達目標 (学修成果) 及び観点	【到達目標 (学修成果) 及び観点】						
	到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	
	到達目標①	○		○			
	到達目標②	○	○				
	到達目標③	○	○		○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	20%					
	到達目標②	20%		10%		10%	
	到達目標③	20%		10%		10%	
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/人間関係 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	毎回の授業のはじめに「今回の目標」を示しており、授業のポイントを事前にお伝えすることができたかと思います。その目標達成において、授業内容を絞っているのも、授業理解の促進につながったのかと思います。引き続き、目標を達成できる授業構成を心掛けていきたいです。グループワークをたくさん取り入れており、学生の皆さんは毎回しっかりとグループワークに取り組んでくださいました。グループ編成も色々変化をつけて工夫しました。皆さんからは普段関りの少ない仲間と取り組めて新鮮で違った考え方を知れたとの意見を頂きました。						
受講生へのメッセージ・その他	・取り組み姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。 ・提出物は、文量や授業内容の理解度をもとに評価します。						
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり ・ なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	特別支援教育論	担当者	仲森みどり	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40202	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修・准学校心理士：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：特別の支援を要する子ども（幼児・児童）についての指導のあり方や支援の実践について理解する。 到達目標（学修成果）①：特別の支援を要する子どもに合った対応に必要なとされる基礎的知識・技術を修得し、保育現場で実践できる。 到達目標（学修成果）②：特別支援の具体的な支援方法や教育課程のあり方について基礎的な知識や技術を理解し、保育現場で実践できる。 到達目標（学修成果）③：特別支援教育体制のしくみや各種機関等の連携のあり方について理解し、保育現場で実践できる。								
授業概要	特別支援教育の歴史的変遷や特別支援教育の理念、「特別なニーズ教育」をめぐる動向、特別支援教育の制度と教育内容に関して基礎的な理解を得ることをめざす。さらに、特別の支援を要する子どもについて具体例を挙げて、個別の支援のあり方や指導計画の作成について理論と実際の両面から学んでいく。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進捗を深める。								
ディプロマ ポリシー （DP）と到達目 標（学修成果） との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション・特別支援教育の理念と意義					事前：教科書pp.2～pp.12 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
2 回	インクルーシブ教育とは					事前：教科書pp.2～pp.12 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
3 回	特別支援を要する子どもの特性と理解①（知的障害）					事前：教科書pp.22～pp.26 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
4 回	特別支援を要する子どもの特性と理解②（発達障害：ASD）					事前：教科書pp.36～pp.37、pp.48～51 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
5 回	特別支援を要する子どもの特性と理解③（発達障害：AD/HD）					事前：教科書pp.42～pp.47 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
6 回	特別支援を要する子どもの特性と理解④（発達障害：SLD）					事前：教科書pp.38～pp.41 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
7 回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑤（視覚障害、聴覚障害） 外部講師					事前：教科書pp.14～pp.17 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
8 回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑥（肢体不自由、病弱他）					事前：教科書pp.27～pp.34 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
9 回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑦（発達障害：DCD）					事前：教科書pp.52～pp.56 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
10 回	多様な教育的ニーズの理解と支援（言語障害、情緒障害）					事前：教科書pp.58～pp.72 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
11 回	特別支援を要する子どもへの支援と教育課程とのかかわり					事前：教科書pp.74～pp.79 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
12 回	特別支援を要する子どもへの支援計画の意義と作成					事前：教科書pp.108～pp.118 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
13 回	関連機関・家庭・地域との連携と支援体制の構築					事前：教科書pp.120～pp.134 までを熟読する。(0.5h) 事後：プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			

14 回	教育的ニーズを必要とする子どもの理解と支援 (外国籍児、生活困難児)				事前:教科書pp.64～pp.67 までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																													
15 回	障害が重い子どもの理解と支援 (重症心身障害児、医療的ケア児) まとめ				事前:教科書pp.68～pp.72 までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																													
16 回	定期試験																																	
テキスト	編著 野内友規・綿引清勝 『気になる子のインクルーシブ教育・保育』 中央法規 2022																																	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 杉本敏夫監修『最新はじめて学ぶ社会福祉 23 特別支援教育と障害児の保育・福祉』ミネルヴァ書房、2023 湯浅恭正 『よくわかる特別支援教育』 第 2 版 ミネルヴァ書房 2018																																	
到達目標 (学修成果) 及び観点	<div>【到達目標 (学修成果) 及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標 (学修成果) 及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td colspan="2">その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>						到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()		到達目標①	○		○				到達目標②	○	○	○				到達目標③				○		
到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()																													
到達目標①	○		○																															
到達目標②	○	○	○																															
到達目標③				○																														
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標 (学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物 レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み 姿勢</td><td>その他 ()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>25%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>25%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	25%			10%	10%		到達目標②	25%		10%				到達目標③	20%					
評価方法・到達目標 (学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																												
到達目標①	25%			10%	10%																													
到達目標②	25%		10%																															
到達目標③	20%																																	
ループ リック評価	ループリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>																																	
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:事前に予約の上、個別に応じる。なお、学習内容のささやかな質問は、授業の前中後いつでも応じる。 学習成果のフィードバック:試験結果に基づく。																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 保育士:保育の内容・方法に関する科目/障害児保育																																	
授業評価アンケート結果を受けての改善点	障害についての専門的な用語又は障害名が出てくるため、繰り返し伝え、理解度を確認していく。昨今、インターネット等で特に発達障害については、情報が沢山出ているが、障害についての学びはスタートとして捉え、詳細に丁寧に伝えていく。																																	
受講生へのメッセージ・その他	幼稚園、保育所、児童福祉施設等の保育現場では、必ず特別な支援を必要としている子どもと出会います。そうした子どもに対する実践での支援方法をぜひ学んで、特別な支援を必要としている子どもたちの保育に役立てて欲しいと思っています。																																	
実務経験の有無	あり ・ <div>なし</div>		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ <div>なし</div>																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの理解と発達	担当者	水野友美	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40203	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：子ども（乳幼児期）の理解に基づく発達援助の知識や技術を学ぶ。 到達目標(学修成果)①：子ども理解についての知識を学び、保育者としての考え方や基礎的態度を身につけることができる。 到達目標(学修成果)②：子どもを理解するための具体的な方法について学び、実際の子どもの関わり場面において活用することができる。 到達目標(学修成果)③：子ども一人一人の生活や遊びの実態に即して、子どもの発達を理解し、その過程で生じる葛藤やつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになる。								
授業概要	小児科領域の発達評価や適応指導の経験のある教員（水野）がその経験を生かし、具体的な子どもの姿や子ども・保護者との関わり方について実践事例を通して考える機会を提供する。 子どもの理解は、保育・教育のあらゆる営みの基本である。子ども理解の意義と重要性を学び、保育・教育実践と結びつけて考察する。また、子どもの発達過程で生じる葛藤やつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける。事例検討やグループワーク等を通して、意見交換をしながら理解を深めていく。各講義終了時に小テストを行う。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	保育における子ども理解の意義					事前：シラバスに目を通し、内容を把握する(0.5h) 事後：テキスト第 1 章を熟読し、復習する(0.5h)			
2 回	子どもに対するかかわりと共感的理解					事前：テキスト第 2 章を熟読する(0.5h) 事後：演習課題を仕上げ、内容を復習する(0.5h)			
3 回	こどもの生活や遊び					事前：テキスト第 3 章を熟読する(0.5h) 事後：課題①を提出し、学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
4 回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達					事前：テキスト第4章を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
5 回	子ども相互のかかわりと関係づくり					事前：テキスト第5章を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
6 回	集団における経験と育ち					事前：テキスト第6章を熟読する(0.5h) 事後：課題②を提出し、学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
7 回	発達における葛藤やつまずき					事前：テキスト第7章を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
8 回	保育の環境の理解と構成					事前：テキスト第8章を熟読する(0.5h) 事後：課題③を提出し、学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
9 回	環境の変化や移行					事前：テキスト第9章を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
10 回	子ども理解のための観察・記録と省察・評価					事前： テキスト第10章を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
11 回	子ども理解のための職員間の対話					事前：テキスト第11章を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			
12 回	子ども理解のための保護者との情報共有					事前： テキスト第12章を熟読する(0.5h) 事後：課題④を提出し、学習内容を復習し、まとめる(0.5h)			

13 回	発達の課題に応じた援助とかかわり	事前:テキスト第13章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習し、まとめる(0.5h)					
14 回	特別な配慮を要する子供の理解と援助	事前:テキスト第14章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習し、まとめる(0.5h)					
15 回	発達の連続性と就学への支援	事前:テキスト第15章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習し、まとめる(0.5h)					
16 回	定期試験	これまでの小テスト、授業内容を復習する(0.5h) 事後:誤った点を確認し訂正する(0.5h)					
テキスト	杉村伸一郎他 編 子どもの理解と援助 中央法規						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 Ⅰ年次で使用した子どもの保健テキスト(第10回で使します)						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ループリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○				
	到達目標②	○	○	○			
	到達目標③	○	○	○			
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	10%		20%			
	到達目標②	10%		20%			
	到達目標③	20%		20%			
小テスト、ワークシート等については、記述内容の質・量ともに評価する							
ループリック評価: 取り入れている・ <div>取り入れていない</div>							
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 毎回の授業の際に提出する、カードに記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/幼児理解の理論及び方法 保育士:保育の対象の理解に関する科目/子どもの理解と援助						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	時間管理を適切にし、十分な授業計画を行う。小テストが多いとの指摘があったが、演習科目ということもあり提出課題に代替し、考え言語化する内容に変更した。						
受講生へのメッセージ・その他	予習・復習にテキストを十分活用してください。 保育者となった時をイメージしつつ、実践に対応する力をつけていきましょう。						
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり		

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭支援の心理学	担当者	水野友美	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40204	資格等取得との関連	保育士：必修・准学校心理士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:子どもの心身の発達と保育実践を学ぶ。 到達目標(学修成果)①:生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明できる。 到達目標(学修成果)②:保育実践にかかわる心理学の知識を説明できる。 到達目標(学修成果)③:子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について理解し課題解決について考え、表現することができる。								
授業概要	小児領域で長年心理臨床をしてきた教員（水野）が担当をします。実践の場において、子ども理解が深められるように、発達心理学及び臨床心理学の知見を踏まえて生涯発達の観点から乳幼児期以降の発達課題を学び、グループワークやディスカッションを通じて理解を深めます。そして、子どもの心身の発達と、それを支える家庭、地域社会という環境の在り方について学ぶことを通し、子どもと家庭を包括的にとらえる視点の習得を図る。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション 生涯発達:乳幼児期の発達とは				事前:教科書第1章を熟読し、講義内容のアウトラインをあらかじめ整理する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
2 回	生涯発達:幼児期の発達				事前:教科書第2章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
3 回	生涯発達:学童期の発達				事前:教科書第3章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
4 回	生涯発達:青年期の発達				事前:教科書第4章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
5 回	生涯発達:成人期・中年期の発達				事前:教科書第5章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
6 回	生涯発達:老年期の発達				事前:事前:教科書第6章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
7 回	生涯発達 振り返り				事前:教科書第1－6章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
8 回	家族・家庭の理解:家族・家庭の意義と機能				事前:教科書第7章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
9 回	家族・家庭の理解:家族関係・親子関係の理解				事前:教科書第8章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
10 回	家族・家庭の理解:子育て経験と親としての育ち				事前:教科書第9章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
11 回	子育てに関する現状と課題:子育てを取り巻く社会的状況				事前:教科書第10章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
12 回	子育てに関する現状と課題:ライフコースと仕事・子育て				事前:教科書第11章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				
13 回	子育てに関する現状と課題:多様な家庭とその理解／特別な配慮を要する家庭				事前:教科書第12・13章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)				

14 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの生活・生育環境とその影響	事前：教科書第 14 章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)					
15 回	子どもの精神保健とその課題：子どものこころの健康にかかわる問題	事前：教科書第 15 章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を 整理し、ノートにまとめる。(2h)					
16 回	定期試験						
テキスト	白川桂子 他 編 『子ども家庭支援の心理学』 新基本保育シリーズ9 中央法規						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】						
到達目標 (学修成果) 及び観点	【到達目標 (学修成果) 及び観点】						
	到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()	
	到達目標①	○		○			
	到達目標②	○		○			
	到達目標③	○		○			
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	20%	20%				
	到達目標②	20%	20%				
	到達目標③	10%	10%				
小テストは 5 回実施。							
ルーブリック評価： 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入れていない <input type="checkbox"/>							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談：オフィスアワー（掲示板にて確認）、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック：授業内にて教示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育の本質・目的に関する科目 / 子ども家庭支援の心理学						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	小テストが多いとの指摘を受けたが、振り返りを通した学習定着を目的としているため、変更しない。時間管理については綿密な授業計画の元実行する予定である。						
受講生へのメッセージ・その他	授業で扱える内容には限りがあるので、各自教科書以外にも積極的に学びを深めることを期待します。また、子どもおよび子育て家庭を取り巻く問題について、自分で調べ、授業内容と関連づけていくことが望まれます。 毎回、オンライン上で小テストを実施します。スマートフォンやタブレットの準備をしてください。						
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無				なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの健康と安全	担当者	松井雅子	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	演習 I 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40205	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：保育における保健的な観点から子どもの健康と安全を守るための知識や技術を修得する。 到達目標(学修成果)①：保健的な観点から、子どもの健康・安全や保育の環境について考慮でき、実践できるようになる。 到達目標(学修成果)②：衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理災害対策など知識を身につける。 到達目標(学修成果)③：応急処置や救急処置・蘇生法を具体的に身につけ実践できるようになる。								
授業概要	病院、公立保育所での実務経験を有する教員が、子ども及び自身の健康および安全にかかわる知識技術について保育現場の実態も交え、授業を展開する。演習を通して日常的な健康支援のための技術や、子どものけが・体調不良時の対応方法、感染症の予防・発生時の対応、救急処置等を身に付ける。その他安全管理の実施体制や災害の備え、地域や家庭との連携等の知識を学び、理解を深め実践する。演習は役割分担してのグループ演習やグループ発表等を行う。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	授業内容や進め方についての説明 子どもの健康と安全を学ぶ意義				事前：シラバスと保育所保育指針第 3 章「健康と安全」を読む(0.5h) 事後：授業内容について、確認する(0.5h)				
2 回	保育者の健康管理と衛生管理 自身の体調観察、ガイドラインの紹介 実習：手洗いチェッカー				事前：テキスト P8-9 正しい手洗いの手順を読む(0.5h) 事後：授業内容について確認し、自身の衛生面を振り返る(0.5h)				
3 回	子どもの健康支援 健康状態の評価、発育の評価 実習：身体測定				事前：自分の母子手帳を確認して、見ておく(0.5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				
4 回	保育の環境および衛生管理 保育の衛生管理、感染症発生時の対応と罹患後の対応 嘔吐時の対応実践				事前：保育室内外の環境や子どものかかりやすい感染症について、調べる(1.0h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				
5 回	事故防止および安全対策(子どもの特性と事故の現状) ガイドラインの紹介、身近に起こっている事故事例について 幼児視野体験				事前：子どもの発達の特性から、起きやすい事故について調べる(1.0h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				
6 回	事故防止および安全対策(事故予防と対応) 事故防止と対策について チャイルドマウス体験				事前：前回の授業内容から、事故予防と対応について考える(0.5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				
7 回	子どもの体調不良等に対する適切な対応と応急手当 体調不良時の対応、応急手当				事前：テキスト P71-102 を読む(0.5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				
8 回	救命手当(救急蘇生法・AEDの使用手法) 一次救命、AED 使用、異物除去(外部講師予定)				事前：テキスト P97-102 を読む(0.5h) 事後：救急蘇生法を確認し、繰り返し練習し習得する(0.5h)				
9 回	個別の配慮が必要な子どもへの対応(慢性疾患やアレルギー疾患・障害を持つ子ども) ガイドラインの紹介、エピペン使用方法の実習				事前：他の授業での学びから、配慮に必要な子どもの対応について調べる。テキスト P103-105 を読む。(0.5h) 事後：授業内容をまとめ、エピペンの使用方法を復習する(0.5h)				
10 回	災害への備えと危機管理				事前：どのような災害が発生しているか調べてみる(1.0h) 事後：災害の対策について、学びをまとめる(0.5h)				
11 回	災害時の対応(火災・風水害・地震・不審者など) 学校から実際に避難を行う計画を立てる				事前：保育の現場で想定される様々な災害場面について考える(1.0h) 事後：危機管理についてまとめる(0.5h)				
12 回	健康および安全管理の実施体制(職員間の連携・協働、地域の関係機関との連携)				事前：地域の関係機関について調べる(1.0h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				

	子育て世代包括支援センターについてグループワーク（各市町）																													
13 回	子育て世代包括支援センターについてプレゼンテーション 事故事例の検討	事前：プレゼンテーションの準備。 身近に起きた事故について調べる（1.0h） 事後：事故対応の基本についてまとめる（0.5h）																												
14 回	事例をもとに、対応についてディスカッション 保健活動計画と記録 手洗い指導案もしくは保健だよりの作成	事前：季節や月間の健康指導計画について調べる（0.5h） 事後：手洗い指導案もしくは保健だよりを作成する（1.0h）																												
15 回	手洗い指導案もしくは保健だよりの発表と評価 子どもの健康と安全のまとめ	事前：発表に向けて準備する（0.5h） 事後：今までの学びを確認する（0.5h）																												
16 回	定期試験	事前：今までの授業を振り返り、確認する（2h） 事後：今までの学びをまとめる（0.5h）																												
テキスト	編著：高内正子・梶 美保 保育の場で生きる「子どもの健康と安全」（株式会社 建帛社）																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他は授業内で紹介する。																													
到達目標（学修成果）及び観点	<table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○		○			到達目標③	○	○	○	○					
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○	○	○	○																										
到達目標（学修成果）及び観点	【評価方法・基準】																													
評価方法・基準	<table><tr><td>評価方法・到達目標（学修成果）</td><td>定期試験 （筆記試験・実技試験）</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）	到達目標①	20%			10%	10%		到達目標②	10%		10%	10%	10%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）																								
到達目標①	20%			10%	10%																									
到達目標②	10%		10%	10%	10%																									
到達目標③	10%				10%																									
ルーブリック評価	テスト・小テストでは、演習内容の習熟度で評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守した上で、記述内容の質・量ともに丁寧さも評価する 自分やグループで調べたことや意見を積極的に発表する姿勢を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習や授業時に真面目で且つ意欲的な取り組みを評価する。また、心肺蘇生法の習得も評価する ルーブリック評価：取り入れている（取り入っていない）																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：授業終了前後に教室、もしくは非常勤講師室で質問を受け付ける 随時、電子メールで質問を受け付ける（matsui.masako@koushi.ohashi.gr.jp） 学習成果のフィードバック：課題や提出物は授業時間内に返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育の内容・方法に関する科目/子どもの健康と安全																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	保育の仕事をしていくうえで、まず、自らの生活態度や健康管理を行い、心身ともに健康に過ごすことができるように日々心がけることが重要です。そして、日頃から子どもに関するニュース（病気や事件・事故等）に注意して関心を持ち、常に自分がその場にいたらどう対応したらよいのか考えるようにしましょう																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	乳児保育Ⅰ	担当者	山野栄子	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40206	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:人間の人格形成の基礎を培う大切な乳児期の保育について理解し、知識と技能を修得する。 到達目標(学修成果)①:乳児保育の意義や目的、歴史を知り、現代社会における乳児保育の役割と機能について説明できる。 到達目標(学修成果)②:乳児期の心身の発達について知識を深め、発達の特性を説明できる。 到達目標(学修成果)③:乳児保育における連携・協働(保護者・職員間・地域や他機関)の重要性について考えることができる。								
授業概要	三重県内公立保育所での実務経験を有する教員が、保育現場の実態に即して、乳児保育の重要性や乳児期における心身の発達、さらに保育内容と記録のとり方など、乳児の保育について理解を深める科目である 乳児保育の歴史的変遷及び現代社会における現状や乳児保育の重要性を学ぶ。そして乳児期は、人間の人格形成を培う大切な時期であることが分かり、乳児の発達や特性について知識を習得し、その時期の子どもの生活や遊びの内容に興味や関心を持って基礎理論を学ぶ。また連携や協働の在り方についても学ぶ。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	授業の進め方・評価の仕方等 毎回、順番に「手遊び」を紹介する方法の説明 視聴覚教材「赤ちゃんのこのすばらしき生命」				事前:シラバスを読む。自身の乳児期を知る(2h) 事後:乳児保育の重要性「生命の誕生」についてまとめる(2h)				
2 回	乳児保育の目的・役割				事前:教科書 P10～P17 と指針の総則を読む(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				
3 回	乳児保育の基本(歴史や制度、現状と課題) ディスカッション				事前: p18～p27 を読む。また現代のニーズや課題を調べる(2h) 事後:現代社会の現状と課題をまとめる(2h)				
4 回	0・1・2歳児の発達と道筋(全身・手指) グループワーク 視聴覚教材 子どもの発達と支援「運動機能の発達」				事前:教科書 p28～p32 と指針を読み発達の道筋について調べる(2h) 事後:授業内容を振り返り、発達表をまとめる(2h)				
5 回	0・1・2歳児の発達の道筋(言葉・社会性) グループワーク 視聴覚教材 子どもの発達と支援「社会性の発達」				事前:教科書 p33～p35 と指針を読み発達の道筋について調べる(2h) 事後:授業内容を振り返り、発達表をまとめる(2h)				
6 回	乳児の発達の道筋まとめ プレゼンテーション				事前:調べた内容を発表に向けて準備する(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				
7 回	乳児(0歳児)の保育内容 グループワーク				事前:教科書 p36～p47 と指針の第 2 章保育の内容の1を読む(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				
8 回	1歳以上～3歳未満児の保育内容 グループワーク				事前:教科書 p48～p63 と指針の第 2 章保育の内容の2を読む(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				
9 回	乳児(0歳児)・1歳以上～3歳未満児の発達の道筋のまとめ(小テスト) 乳児の生活と遊びの基本的事項				事前:発達の筋道を確認する。また教科書 p64～p81 を読み復習する(2h) 事後:発達の習得度合いを再確認し、整理する(2h)				
10 回	乳児の生活と保育者の関わり グループワーク				事前:教科書 p82～p101 を読む(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				
11 回	乳児の遊びと保育者の関わり グループワーク				事前:事前:教科書 p102～p115 を読み、発達に即した遊びを調べる(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				
12 回	乳児保育の環境構成 ディスカッション				事前:教科書p116～p123 を読む(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)				

13 回	乳児保育の計画・評価	事前:教科書p124～p133を読む(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)																												
14 回	子育て支援・連携と協働(保護者・職員同士・地域・関係機関) 視聴覚教材「保育所の地域子育て支援」第Ⅰ巻 ディスカッション	事前:教科書p134～p143を読み、地域の関係機関を調べる(2h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(2h)																												
15 回	乳児保育について習得内容を振り返り、まとめる。 手遊びの習熟度の確認 手作り玩具の制作	事前:授業内容のまとめを整理する。また手作り玩具の材料を準備する(2h) 事後:玩具を完成させ、配布プリントにまとめる(2h)																												
16 回	定期試験	事前:今までの授業を振り返り、確認する(2h) 事後:今までの学びをまとめる(2h)																												
テキスト	小山朝子 編著 亀崎美沙子 善本真弓「講義で学ぶ乳児保育」(わかば社) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②	○		○			到達目標③	○		○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○																											
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○		○	○																										
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td>10%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td>10%</td><td>10%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td>5%</td><td></td></tr></table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%	10%					到達目標②	10%	10%	10%		5%		到達目標③	10%		10%	10%	5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%	10%																												
到達目標②	10%	10%	10%		5%																									
到達目標③	10%		10%	10%	5%																									
ループリック評価	ループリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:事前に連絡の上、授業日 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します テストは、保管しています。事前に連絡の上、内容の結果等確認をすることができます																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/乳児保育Ⅰ																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	現場で即、役に立つ「手遊び」がたくさん覚えられたことが、多くの学生に好評だったので、続けて実施していきたい。また、より主体的な学びの姿勢の育成になるよう授業の工夫をする。 学びを深めていけるように振り返りシートの記入時間の確保にも配慮していきたい。																													
受講生へのメッセージ・その他	乳児用の手遊びは、授業の初めに毎回紹介し合いますので、覚えて実践できるようにしましょう 身近で乳児に触れたり、親子の様子を観察したりして、興味や関心を持ちましょう 授業内で調べたりまとめたりした資料は、ファイルに綴じて、実習や現場に行った時の参考になるように丁寧に保管しましょう																													
実務経験の有無	<u>あり</u> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<u>あり</u> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児の理解	担当者	仲森みどり	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	プログラム必修 (障がい児プロ) (地域連携プロ)	ナンバリング	CS40207	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：障がいのある子どもについて、知識を習得し理解を深め、保育の専門性を高める。 到達目標(学修成果)①：様々な障がいの特性について学び、障がいのある子どもについて理解して実践に活かすことができる。 到達目標(学修成果)②：特別な支援を必要とする子どもについて学び、多様な保育の在り方に気付くことができる。 到達目標(学修成果)③：特別な支援を必要とする子どもへの対応について学び、事例について自分の考えや感じたことを記録する。								
授業概要	保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、障がいのある子どもへの保育や支援の現場経験から、障がいのある子ども・特別な支援を必要とする子どもとかかわる中で大切にしたいこと、また、保護者の思いについて考える。障がいのある子ども・特別な支援を必要とする子どもの特性について学び、子どもへの理解を深め、保育者として、その家族を含めた支援のあり方を知る。障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例、家庭に関する事例を紹介し、そこから生起する問題についての対応や支援の方法を考える。理論と事例を結び付けて考えることにより、実践で様々な課題と向き合える力を培う。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション 授業の概要・授業計画・評価方法などについて					事前：テキスト P.2～13 を熟読する(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
2 回	障がいの概念 障がいの捉え方と障がい児の保育の理念					事前：テキスト P.2～13 を熟読する(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
3 回	障がい児保育と保育者の専門性 障がい児保育の基本と保育者の役割					事前：保育所保育指針・幼稚園教育要領の第 1 章を熟読する(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
4 回	障がいのある子どもと気になる子ども 「気になる子ども」について調べ発表する グループワーク					事前：「気になる子ども」について調べる(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
5 回	身体障害の特性と理解 肢体不自由、視覚・聴覚障害について 外部講師					事前：テキスト P.63～P.66 までを読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
6 回	発達障害の特性と理解① 自閉スペクトラム症について					事前：テキスト P.82～P.85 までを読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
7 回	発達障害の特性と理解② 注意欠如・多動症と限局性学習症について					事前：テキスト P.82～P.85 までを読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
8 回	知的障害の特性と理解 知的障害児の特徴と支援について					事前：テキスト P.70～P.75 までを読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
9 回	気になる子どもの理解 落ち着きのない子どもや被虐待児等の理解と支援					事前：テキスト P.120～P.125 までを読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
10 回	特別な支援を必要とする子どもの保育① 障がいのある子どもの事例検討					事前：テキスト P.170～P.175 までを読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
11 回	特別な支援を必要とする子どもの保育② グループワーク ・気になる子どもの事例検討 ・被虐待児の事例検討					事前：配布した資料を読む(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
12 回	子ども一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境 ・生活や遊びの環境を考える					事前：テキスト P.130～P.138(2h) 事後：テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			

13 回	障がいのある子ども等の保護者や家族への支援 保護者への支援事例検討	事前:テキストP.165～P.180 までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)																												
14 回	職員間の協働 職員の研修と協力体制	事前:テキスト P.183～P.192 を読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)																												
15 回	障がい児の理解のまとめ	事前:今まで学んだところを見直しておく(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)																												
16 回	定期試験	事前:試験に向けてしっかり準備する。(2h) 事後:試験結果を受けて、確認・再整理する。(2h)																												
テキスト	監修 小橋明子 編著小橋拓真 著小山内あかね・竹野内ゆかり『障がい児保育』中山書店 2022 第2刷発行																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 小林徹・栗山宣夫 編『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい 2021 初版第 2 発行 監修 藤永保 著者 阿部五月 大熊光穂 小泉左江子 田中規子 村田カズ『障害児保育子どもとともに成長する保育者を目指して』萌文書林 2020 年第 3 版																													
到達目標(学修成果)及び観点	<div>【到達目標(学修成果)及び観点】</div> <table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②				○		到達目標③			○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②				○																										
到達目標③			○																											
評価方法・基準	<div>【評価方法・基準】</div> <table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>60%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>10%</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>ループリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div></div>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	60%						到達目標②				10%	10%		到達目標③			20%			
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	60%																													
到達目標②				10%	10%																									
到達目標③			20%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:事前に予約の上、個別に応じる。なお、学習内容のささやかな質問は、授業の前中後いつでも応じる。 学習成果のフィードバック:試験結果に基づく。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	試験対策としても、復習が重要になってくると考える。そのため、授業外での復習ができるような問題や小レポート等も課題として出すこともしていきたい。																													
受講生へのメッセージ・その他	現場に出た時に、子どものみでなく保護者との関わりが必須になります。障がいのある子どもの保護者の気持ちや理解も深めていって欲しいと思います。																													
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	乳幼児の理解	担当者	小島佳子	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件	プログラム必修 (乳幼児プロ)	ナンバリング	CS40208	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：乳幼児期の子どもへの理解を深め、発達援助の知識や技術を学ぶ。 到達目標(学修成果)①：乳幼児期の子どもの発達について理解し、説明することができる。 到達目標(学修成果)②：子どもの理解に基づく具体的な関わりや援助方法を学び、実践する力を身につけることができる。 到達目標(学修成果)③：事例を通して、子どものつまずきや課題解決に必要な視点や手立てを考えることができるようになる。								
授業概要	公立保育所において0歳から就学前の子どもたちや保護者と関わった経験を生かして、実践事例をまじえた講義を主軸に置きながら、保育・教育現場で活用できる教材や遊びを紹介する。 グループ・ワークを通して、意見交換や振り返りの中で考え合う機会を提供する。 人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期に携わる保育者は、子どもを深く理解するように努め、適切な援助を行うことが求められる。本講義において乳幼児期の子どもの発達特性、環境、生活や遊び、子育て支援等について理解するとともに、保育・教育において子どもの内面を理解することの重要性について理解を深める。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果)と の対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション(授業の進め方等) ・「子ども理解」の意義について考える ・絵本の読み聞かせワークや「えほんだより」作成について説明する					事前：シラバスに目を通し、内容を把握する(2h) 事後：テキスト第1章と資料を振り返り、内容を整理する(2h)			
2 回	子どもを取り巻く社会環境の変化と現状 ・「子どもの誕生にまつわる行事」からグループワークを行う ・遊びの研究 ① (0・1 歳児と楽しみたい「ふれあい遊び」)					事前：配布資料(課題)について調べ学習を行う(2h) 事後：「ふれあい遊び」を演習し、実践できるようにする(2h)			
3 回	保育における養護および教育の一体的展開 ・遊びの研究 ② (2・3 歳児と楽しみたい「手遊び」)					事前：テキスト第2章を熟読する(2h) 事後：「手遊び」を演習し、実践できるようにする(2h)			
4 回	保育における共感的理解と子どもとの関わり ・遊びの研究 ③ (4・5 歳児と楽しみたい「ことば遊び」)					事前：テキスト第 3 章・第 5 章を熟読する(2h) 事後：「ことば遊び」を演習し、実践できるようにする(2h)			
5 回	生活の場面における保育者の援助 ・遊びの研究 ④ (つながる楽しさ・喜びを体験する遊び)					事前：保育所保育指針第 1 章を熟読する(2h) 事後：「つながり遊び」を復習し、実践できるようにする(2h)			
6 回	遊びの場面における保育者の援助 ・教材研究 ① (エプロンシアター) ・小テストを通して授業内容の理解度を確認する					事前：テキスト第4章を熟読する。小テストに取り組めるよう授業内容を復習する(2h) 事後：小テストを振り返り、自己評価をする(2h)			
7 回	子ども相互の関わりと集団における経験と育ち (インクルーシブ保育の実践から) ・教材研究 ② (腹話術・手づくり絵本) ※外部講師招聘予定					事前：テキスト第 6 章・第 7 章を熟読する(2h) 事後：ワークシートを記入し、整理する(2h)			
8 回	保育環境の理解と構成 ・教材研究 ③ (パネルシアター)					事前：テキスト第 8 章を熟読する(2h) 事後：ワークシートを記入し、整理する(2h)			
9 回	子どもを理解する方法(観察・記録・評価・省察) ・教材研究 ④ (子育て支援と絵本)					事前：テキスト第 9 章を熟読する(2h) 事後：ワークシートを記入し、整理する(2h)			
10 回	保護者への関わりの基本と支援 ・ DVD 視聴後にグループワークを通して考え合う					事前：子どもへの不適切な対応に関わる事件やニュースを調べる(2h) 事後：グループで話し合った内容をまとめる(2h)			
11 回	職員間の対話・園内の協力体制 ・グループワーク(0.1 歳児と読みたい絵本)					事前：テキスト第 10 章を熟読する。絵本を選書し、読み聞かせの練習をする(2h) 事後：ワークシートにまとめ、振り返る(2h)			

12 回	発達課題に応じた援助や関わり(個と集団の両義性の視点から) ・グループワーク(2.3 歳児と読みたい絵本)	事前:テキスト第 11 章を熟読する。絵本を選書し、読み聞かせの練習をする(2h) 事後:ワークシートにまとめ、振り返る(2h)																													
13 回	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の保育・教育 ・グループワーク(4.5 歳児と読みたい絵本)	事前:配布資料(課題)について調べ学習をする。絵本を選書し、読み聞かせの練習をする (2h) 事後:ワークシートにまとめ、振り返る(2h)																													
14 回	子育て支援の現状と課題 ・DVD 視聴後にグループワークを通して考え合う ・「えほんだより」を提出	事前:「えほんだより」を作成する(2h) 事後:グループで話し合った内容をまとめる (2h)																													
15 回	発達の連続性と就学への支援 (保幼小の接続) ・振り返りとまとめ	事前: テキスト第 13 章を熟読する(2h) 事後:授業内容を総合的に振り返り、復習する (2h)																													
16 回	定期試験(筆記試験)																														
テキスト	請川滋大 著書『子どもの理解—個と集団の育ちを支える理論と方法—』萌文書林 (2020) 文部科学省編『幼稚園教育要領』(2017) 厚生労働省編『保育所保育指針』(2017) 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(2017)																														
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します。																														
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②		○	○	○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																										
到達目標①	○			○																											
到達目標②		○	○	○																											
到達目標③		○	○																												
評価方法・基準	<table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>20%</td><td>10%</td><td></td><td></td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td>15%</td><td>5%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td><td>5%</td><td></td></tr></table> <p>・提出物等については、記述内容の質・量ともに評価します。</p> <p>・発表や取り組み姿勢については、主体性や積極性を重視します。</p> <p>・期末試験は授業担当者が保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。</p> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div></p>			評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%	10%			5%		到達目標②	10%		10%	15%	5%		到達目標③	10%		10%		5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																									
到達目標①	20%	10%			5%																										
到達目標②	10%		10%	15%	5%																										
到達目標③	10%		10%		5%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック: 小テストやワークシート等は授業の中で後日返却します。																														
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																														
授業評価アンケート結果を受けての改善点	乳幼児の理解を深める知識の習得と共に、実践力を高める「遊びの研究」「教材研究」「絵本の読み聞かせワーク」等のプログラムには、学生の興味・関心が高いと思われるので、授業内容を吟味し、学生の意見等を取り入れながら主体的に参加できる方法を工夫していきたい。																														
受講生へのメッセージ・その他	予習・復習にテキストを十分活用してください。 遊びや教材研究、絵本の読み聞かせワークにおいては、子どもの側にたって楽しさや心地よさを体験してください。																														
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<div>あり</div> ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの食と栄養	担当者	前澤いすず	開講時期	2年 通年	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS40209	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:保育者は子どもの健康にとって望ましい食生活と支援を常に考え的確に捉えて実践する。 到達目標(学修成果)①:食事と栄養素の関係を理解し、栄養バランスのとれた献立を考えることができる。 到達目標(学修成果)②:調乳方法及び離乳食の適切な味・形態・量を理解し、実践できる。 到達目標(学修成果)③:子どもの発達と栄養摂取法・食生活の関係を説明できる。 到達目標(学修成果)④:子どもを取り巻く食の現状と課題から、食育の必要性、その内容を理解し、実践できる。 到達目標(学修成果)⑤:特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる。								
授業概要	健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。家庭や児童福祉施設での子どもの食生活の現状と問題点を解説し、望ましい食生活のための食育の意義・目的・基本的な考え方を学ぶ。さらに調理を通じた食育について、実際に調理実習を行い、実践的な指導方法を習得する。また、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、関連するガイドラインやデータを踏まえて解説を行う。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他 ③ 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		④ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	子どもの健康と食生活					事前:テキスト第1章を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
2回	栄養に関する基礎知識① 栄養素の消化吸収					事前:テキスト第2章①と②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
3回	栄養に関する基礎知識② 栄養素の種類とはたらき					事前:テキスト第2章③を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
4回	栄養に関する制度① 日本人の食事摂取基準					事前:テキスト第3章①を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
5回	栄養に関する制度② 献立作成・調理の基本					事前:テキスト第3章②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
6回	演習「食事バランスの取れた1日分の献立を考える」					事前:演習説明のプリントを熟読するとともに食事バランスの取れた献立について調べておく(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
7回	妊娠期と授乳期の食生活					事前:テキスト第4章を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
8回	乳児期の食生活① 乳汁栄養					事前:テキスト第5章①を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
9回	乳児期の食生活② 哺乳瓶の消毒と調乳					事前:テキスト67ページを熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
10回	乳児期の食生活③ 離乳の意義とその実践(離乳初期、離乳中期)					事前:テキスト第5章②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
11回	乳児期の食生活④ 離乳の意義とその実践(離乳後期、離乳完了期)					事前:テキスト第5章②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			
12回	演習「ベビーフードの試食」					事前:演習説明のプリントを熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)			

13 回	幼児期の心身の発達と食生活	事前:テキスト第6章①を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
14 回	幼児期の栄養の問題	事前:テキスト第6章②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
15 回	演習「幼児期の間食を考える」	事前:演習説明のプリントを熟読するとともに幼児期の 間食レシピについて調べておく(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
16 回	学童期、思春期の心身の発育・発達と食生活と栄養の問題	事前:テキスト第7章①を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
17 回	学童期、思春期の学校給食と栄養問題	事前:テキスト第7章②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
18 回	生涯発達と食生活	事前:テキスト第8章を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
19 回	食育の基本	事前:テキスト第9章①と②を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
20 回	食育の内容と計画および評価	事前:テキスト第9章③を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
21 回	食育のための環境づくりと食を通した保護者への支援	事前:テキスト第9章④と⑤を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
22 回	演習「食育に関係する絵本の発表」	事前:食育に関する絵本を調べ発表に向けてレポート 作成をする。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
23 回	児童福祉施設における食事と栄養	事前:テキスト第10章を熟読する。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
24 回	調理実習「幼児食 子どもも参加できる料理の調理と試食」	事前:調理実習内容を確認しておく。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
25 回	疾病および体調不良の子どもへの対応	事前:テキスト第11章①を熟読する(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
26 回	障がいのある子どもへの対応	事前:テキスト第11章②を熟読する(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
27 回	食物アレルギーの基礎知識	事前:テキスト第12章①を熟読する(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
28 回	保育所での食物アレルギー対応	事前:テキスト第12章②を熟読する(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
29 回	調理実習「食物アレルギー対応の間食(おやつ)の調理と試食」	事前:調理実習内容を確認しておく。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
30 回	まとめ 保育者に求められることを「子ども」「食」から考える	事前:授業内容を振り返り、食と栄養について子ども たちに伝えたいことを整理しておく。(0.5h) 事後:復習プリントに取り組む(0.5h)
31 回	定期試験	
テキスト	『子どもの食と栄養 第3版 ～保育現場で活かせる食の基本』 太田百合子 堤ちはる 編 羊土社(2025)	
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・授業内で紹介する	

到達目標（学修成果）及び観点	【到達目標（学修成果）及び観点】						
	到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	
	到達目標①	○			○		
	到達目標②	○					
	到達目標③	○					
	到達目標④	○		○	○		
	到達目標⑤	○					
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他 ()
	到達目標①		5%	5%		3%	
到達目標②		5%	5%		3%		
到達目標③		5%	5%		3%		
到達目標④	20%		5%	5%	3%		
到達目標⑤	20%		5%		3%		
評価方法・基準 ループ・リック評価	・小テストは理解度、記述内容の質・量ともに評価する ・課題・提出物は記述内容の質・量ともに評価する ・発表は内容や態度、積極性を評価する ・取り組み姿勢は事前事後学習の取り組みと授業時の積極性を評価する ループ・リック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
	学習相談：授業終了前後に教室（もしくは非常勤講師室）で質問を受け付ける						
	学習成果のフィードバック：小テストや課題は授業時間内に返却します						
	法令等に定められた授業科目に含める必要事項						
	保育士：保育の対象の理解に関する科目/子どもの食と栄養 授業評価アンケート結果を受けての改善点						
	[予習や復習を行って授業に出席した]のアンケート結果が好ましくなかったため、事前事後学習の内容について改善を行う。事前学習では予習してほしいテキストの箇所を具体的に示した。事後学習では、授業内容確認のための選択問題に加え、授業内容の要点を記入できるような復習プリントを作成し事後学習の充実を図る。						
	受講生へのメッセージ・その他						
	「子どもの食と栄養」を学ぶこの機会に、自分自身の食生活についても再確認してみましょう。そして、授業を通して食べることの楽しさ、栄養バランスの大切さを知り、子どもたちにとって望ましい食生活を伝えることができる保育者になってくれることを期待しています。						
	実務経験の有無		あり ・ <input type="checkbox"/> なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		
					あり ・ <input type="checkbox"/> なし		

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭支援論	担当者	仲森みどり	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40210	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援をおこなえる力を身につける。 到達目標(学修成果)①:保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明できる。 到達目標(学修成果)②:子ども家庭支援の現状と課題について説明できる。 到達目標(学修成果)③:子育て家庭に対する支援体制と子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開について説明できる。								
授業概要	急速な少子化が進行し又、結婚・出産・子育ての希望がかなえられない現状の中、子ども・子育てを取り巻く環境も大きく変化してきている。保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、子どもや保護者への支援を行ってきた現場経験から、家庭支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制と多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進度を深める。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他 ③ 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		④ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	子ども家庭支援の意義と必要性					事前:テキスト P2-12 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
2 回	子ども家庭支援の目的と機能					事前:テキスト P14-24 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
3 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源					事前:テキスト P38-48 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
4 回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援					事前:テキスト P50-60 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
5 回	子どもの育ちの喜びの共有					事前:テキスト P62-72 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
6 回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援					事前:テキスト P74-84 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
7 回	保育士に求められる基本的態度					事前:テキスト P86-96 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
8 回	家庭の状況に応じた支援 外部講師					事前:テキスト P98-107 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
9 回	保育士の役割と地域の資源の活用					事前:テキスト P110-120 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
10 回	子ども家庭支援のアプローチ					事前:テキスト P122-132 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
11 回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援					事前:テキスト P134-144 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
12 回	地域の子育て家庭への支援					事前:テキスト P146-156 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)			
13 回	要保護児童およびその家庭に対する支援 外部講師					事前:テキスト P158-168 を熟読する。(2h) 事後:外部講師の講話をまとめる。(2h)			

14 回	子育て支援に関する課題と展望	事前:テキスト P170-175 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)				
15 回	子育て支援の海外の動向	事前:テキスト P176-179 を熟読する。(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)				
16 回	定期試験					
テキスト	財団法人児童育成協会監修、松原康雄、村田典子、南野奈津子編集『子ども家庭支援論第 2 版』中央法規、2024 年					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で随時紹介する					
到達目標 (学修成果) 及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標 (学修成果) 及び観点】					
	到達目標 (学修成果) 及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他 ()
	到達目標①	○				
	到達目標②	○		○		
	到達目標③	○	○	○		
	【評価方法・基準】					
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他 ()
	到達目標①	20%		10%		
	到達目標②	20%		10%		
	到達目標③	20%			10%	10%
ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業のなかで指示する。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の本質・目的に関する科目 / 子ども家庭支援論					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし					
受講生へのメッセージ・その他	家庭や家族の在り方が大きく変化してきたと言えます。子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解し、学びを深めていて欲しいと願っています。					
実務経験の有無		<input type="checkbox"/> あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ <input type="checkbox"/> なし

科目区分	専門教育科目	科目名	乳児保育Ⅱ	担当者	寺西恵子	開講時期	2 年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ 単位
卒業要件		ナンバリング	CS402Ⅱ	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:乳児期の保育について、実践的な知識と技能を修得する。 到達目標(学修成果)①:乳児の生活の援助と保育者の関わりの仕方が分かり、実践できるようになる。 到達目標(学修成果)②:各々の発達に応じた保育内容や環境構成を具体的に考えることができる。 到達目標(学修成果)③:指導計画立案と評価、記録の必要性を学び、実践できるようになる。								
授業概要	三重県内保育所での実務経験を有する教員が、保育現場の実態に即して、乳児保育の重要性や乳児期における心身の発達、さらに保育内容と記録のとり方など、乳児の保育について理解を深め実践力を身につける科目である。 一人一人の子どもの主体性や育ちを大切に、保育の内容や環境を具体的に学び、個別の指導計画や記録のとり方・保育者間の連携、保護者・子育て支援のあり方など事例を交えて、保育者としての実践的能力と資質が身につくようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他							
		③ 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		④ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画				時間外学習				
1 回	授業の進め方、評価の仕方 等 毎回、乳児向け「絵本」の紹介方法の説明 乳児の手作り玩具（プレゼンテーション）				事前:シラバスを読む。手作り玩具を完成し、プレゼンの準備をする（0.5h） 事後:手作り玩具作成のプリントの整理をする（0.5h）				
2 回	乳児保育の重要性 （養護と教育の一体性、主体性の尊重、個別の関わりなど）				事前:保育所保育指針第Ⅰ章総則の2を読む（0.5h） 事後:授業内容をまとめる（0.5h）				
3 回	食事の援助と環境 授乳の演習				事前:前期教科書の P82～P86 の振り返りと教科書 P36～P49 を読む（0.5h） 事後:授業内容をまとめ、課題をする（0.5h）				
4 回	排泄と着脱の援助と環境 おむつ交換の演習				事前:前期教科書の P90～P97 の振り返りと教科書 P50～P59・P68～P79 を読む（0.5h） 事後:授業内容をまとめ、課題をする（0.5h）				
5 回	睡眠・休息の援助と環境 視聴覚教材「子どもを育む保育の環境」第Ⅰ巻 3歳未満児				事前:前期教科書の P86～P89 の振り返り、教科書 P60～P67 を読む（0.5h） 事後:授業をまとめ、課題をする（1.0h）				
6 回	清潔に関する援助と環境 沐浴と着替えの演習				事前:前期の教科書の P98～P101 を振り返り、教科書 P80～P89 を読む（0.5h） 事後:授業内容をまとめ、課題をする（1.0h）				
7 回	0歳児の保育内容・あそびと保育者の援助 グループワーク				事前:前期の教科書の P36～P47・P64～P81 を振り返り、教科書 P98～P105 を読み調べる（0.5h） 事後:授業をまとめ、課題プリントを作成する（1.0h）				
8 回	1歳児保育内容・あそびと保育者の援助 グループワーク				事前:前期教科書の P48～P81 の振り返りと教科書 P106～P119 を読み調べる（0.5h） 事後:授業をまとめ、課題プリントを作成する（1.0h）				
9 回	2歳児保育内容・あそびと保育者の援助 グループワーク				事前:前期の教科書の P48～P81 を振り返り、教科書 P106～P119 を読み調べる（0.5h） 事後:授業をまとめ、課題プリントを作成する（1.0h）				
10 回	発表にむけ各グループでディスカッション、 学びのプレゼンテーション（0歳児）				事前:調べたことを発表にむけて準備する（1.0h） 事後:学びを振り返り、プリントを整理する（0.5h）				
11 回	学びのプレゼンテーション（1歳児・2歳児） 乳児保育の健康管理と安全管理 グループワーク				事前:調べたことを発表にむけて準備する（1.0h） 事後:学びを振り返り、プリントを整理する。前期教科書の P76～P81 の振り返りと教科書 P90～P97 を読み課題プリントを完成する（1.0h）				
12 回	学びのプレゼンテーション（乳児保育の健康管理と安全管理） 保育課程と指導計画・計画の評価と反省				事前:課題プリントを準備する。前期教科書の P124～P133 の振り返りと指針第Ⅰ章総則の3と教科書 P120～P129 を読み調べる（1.0h）				

		事後:授業内容をまとめ、確認する(0.5h)					
13回	保育の記録、家庭との連絡(連絡ノート)、保育日誌 計画の立案・事例のディスカッション	事前:教科書 P128~P129 を読む(0.5h) 事後:事例について考え、授業内容を確認する(0.5h)					
14回	乳児の養育環境とこれからの課題 (少子化と子育て支援・虐待問題など)	事前:教科書 P130~P136 を読んで、そのうえで今、社会で話題に なっていることを調べる(1.0h) 事後:修得したことをまとめ、確認する(0.5h)					
15回	今までの振り返りとまとめ	事前:授業内容を振り返り復習し、確認する(1.0h) 事後:学びの振り返りとわからないところを確認する(0.5h)					
16回	定期試験	事前:今までの授業を振り返り、確認する(2.0h) 事後:今までの学びをまとめる(0.5h)					
テキスト	善本真弓 編著 小山朝子 亀崎美沙子 「演習で学ぶ乳児保育」(わかば社) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
参考書・参考資料・参考 URL・ 準備物など	【購入を必須としないもの】 前期の乳児保育Ⅰのテキスト「講義で学ぶ乳児保育」						
到達目標(学修 成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修 成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○		○	○		
	到達目標②	○	○	○	○		
	到達目標③	○		○			
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達 目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	15%		5%	10%	10%	
	到達目標②	15%	10%	5%	10%	10%	
	到達目標③	10%					
評価方法・基準	テスト・小テストでは、記述内容の質・量、技術の習得度ともに評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守したうえで、記述内容の質・量、文字の丁寧さを評価する 発表では、みんなが理解できるように分かりやすく発表する内容や態度、積極性を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習や授業時の真面目で意欲的な姿勢を評価する。また人とディスカッションを行い、グループで創意工 夫し、協働する姿勢も評価する						
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ 取り入れていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:事前に連絡の上、授業日 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します テストは、保管しています。事前に連絡の上、内容の結果等確認をすることができます						
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/乳児保育Ⅱ						
授業評価アンケ ート結果を受け ての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッ セージ・その他	・乳児用の絵本について、授業の初めに毎回紹介しますので、日ごろから、いろんな絵本に触れて読むようにしましょう ・授業内で調べたりまとめたりした資料は、ファイルに綴じて、実習や現場に行った時の参考になるように丁寧に保管しましょう ・今、社会で起きている子育てに関する情報等に関心を持ちましょう						
実務経験の有無		あり ・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	地域ボランティア実践Ⅰ	担当者	徳増全矢・浦中こういち 中村真緒・平野晃子	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS60101	資格等取得との関連	保育士：必修・レクリエーション：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：地域活動やフィールドワーク等を通して、ボランティアの意義・実践技術を習得する。 到達目標(学修成果)①：ボランティアの基本である他人への「思いやり」や「つながり」の意義について、実践を通して理解できる。 到達目標(学修成果)②：ボランティア精神に基づく地域との関わり方に触れるなかで、ボランティア活動について意欲と関心を持つことができる。 到達目標(学修成果)③：地域におけるボランティア活動が子どもや市民の生活にもたらす理解を深めることができる。								
授業概要	現代社会においてボランティア活動の重要性が増大してきている。私たちの社会が少子高齢社会となり、特に地域に密着したボランティア活動の意義はますます重要なものとなってきている。大学が所在する近隣地域でのボランティア活動の実践やフィールドワークを通して、地域の状況を知るとともに、地域社会に生活する様々な人との交流を通じて、学生自身のさらなるコミュニケーション能力の伸長を図る。								
ディプロマ ポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ回	オリエンテーション ＜授業の概要と学習方法、評価について＞					事前：シラバスを熟読し理解しておく(0.5h) 事後：授業の概要と学習方法、内容等を振り返る(1h)			
Ⅱ回	ボランティア活動の基本と応用 浦中先生による、アイデア紹介					事前：ボランティア活動への意識を深める(0.5h) 事後：レクチャーに対する振り返り(1h)			
Ⅲ回	ボランティアイベントの企画① 前回のレクチャーで得たアイデアをもとにグループでブースを考案する					事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅳ回	ボランティアイベントの企画② グループでブース案を作成する。					事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅴ回	ボランティアイベントの準備① 具体的な制作物の作成					事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅵ回	ボランティアイベントの準備② 具体的な制作物の作成					事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅶ回	ボランティアイベントの準備③ 浦中先生からのレクチャー、提供に関する注意等					事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：レクチャーに対する振り返り(1h)			
Ⅷ回	ボランティアイベントの準備④ 前回の授業をふまえて内容を改善。リハーサル等を行う					事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅸ回	ボランティア活動の実践①(現場での参加) ※学外授業					事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅹ回	ボランティア活動の実践②(現場での参加) ※学外授業					事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)			
Ⅺ回	リフレクション					事前：ボランティア参加の感想をまとめる(0.5h) 事後：グループでの発表を受けて個人で振り返る(1h)			
Ⅻ回									
Ⅼ回									

14回		事前： 事後：																												
15回		事前： 事後：																												
16回	定期試験（振り返りレポートの提出）																													
テキスト	なし。授業の中で資料を配布。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜、授業で紹介をする。																													
到達目標（学修成果）及び観点	【到達目標（学修成果）及び観点】 <table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>		到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○	○				到達目標②				○		到達目標③		○	○						
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②				○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table><tr><td>評価方法・到達目標（学修成果）</td><td>定期試験（筆記試験・実技試験）</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>10%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td>10%</td><td></td></tr></table> ループリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験（筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）	到達目標①	30%						到達目標②			30%				到達目標③	10%			20%	10%	
評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験（筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）																								
到達目標①	30%																													
到達目標②			30%																											
到達目標③	10%			20%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：毎回の授業の際に提出する、Teams に記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック：提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年度の授業では、ブースに分かれた際に温度差があったりしたことが報告されていました。今年度は、教員間で分担して細かくケアをしていく形をとります。浦中先生からの助言を得ることで、学生が具体的なイメージを持てるようにしていきます。貴重な学外授業になるので、教員側で共通認識を持って臨みます。																													
受講生へのメッセージ・その他	今年度の児童館まつりは <u>6 月 29 日（日）</u> に実施される。本授業は、そこに向けて内容を醸成していく形で行う。受講者は参加が必須となるので、しっかり準備しておくこと。																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習 事前事後指導	担当者	田中裕子・渡辺ユリナ	開講時期	Ⅰ 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件		ナンバリング	CS60102	資格等取得との関連	幼稚園：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：幼稚園教諭としての基本的資質を身につける 到達目標（学修成果）①：幼稚園教育実習に向けた書類の作成方法や社会でのマナーを身につけることができる。 到達目標（学修成果）②：幼稚園教諭としての役割を理解し、専門性の向上に向けて自己課題を設定することができる。 到達目標（学修成果）③：幼稚園教育実習を通じて、幼稚園教育および教諭について学習し、実践へつなげることができる。								
授業概要	本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により指導する。教育実習の意義と幼稚園や子どもへの理解を深め、大学で得た理論や技術を教育実習の場で活用するために必要となる事柄について学修する。また、実習に際して必要となる準備やマナー、記録の取り方や、子どもや教職員とのコミュニケーションについて理解し、幼稚園教諭としての資質を身につける。実習後には、経験を記録等から振り返り、気づきや学びを記録に残したり共有したりすることで、次の実習に向けた自己の課題を明らかにする。								
ディプロマポリシー （DP）と到達目 標（学修成果） との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ 回	教育実習への心構え・教育実習の概要と意義 入学前教育「すたーとあっぷ」第 Ⅰ2 回課題の提出 幼稚園・保育所・認定こども園の違い					事前：自分の出身園（幼稚園・保育所）を確認しておく。 教科書 P5～7 第Ⅰ章第Ⅰ節「実習とは」を読む（0.5h） 事後：学外実習に関する調査書を記入する（Ⅰh）			
2 回	教育実習の流れと諸手続き 入学前教育「すたーとあっぷ」第 Ⅰ2 回課題の振り返り					事前：教科書 P8～9第2節「教育実習（幼稚園）」を読む（0.5h） 事後：学外実習先に関する希望調査書を記入する（Ⅰh）			
3 回	幼稚園実習のⅠ日					事前：教科書 PⅠ0～Ⅰ3「幼稚園実習のⅠ日」を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（Ⅰh）			
4 回	DVD 視聴「幼稚園教諭になるために」					事前：教科書「幼稚園実習のⅠ日」をまとめる（0.5h） 事後：講義時に指示する（Ⅰh）			
5 回	観察実習の方法と実習記録の意義					事前：プリント第 2 章-5 を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（Ⅰh）			
6 回	実習記録の作成と文章表現					事前：プリント第 3 章-5 を読む（0.5h） 事後：講義内で配布された実習記録の修正を行う（Ⅰh）			
7 回	参加実習の方法と記録の関連性					事前：プリント第 3 章-5.6 を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（Ⅰh）			
8 回	指導案の意義と作成方法					事前：プリント第 3 章-4 を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（Ⅰh）			
9 回	必要書類の作成（Ⅰ）個人票・誓約書・園の概要記入 実習先発表・オリエンテーションの受け方・計画書の記入法					事前：教科書 P36～39第 2 節「オリエンテーションとは」を読む（0.5h） 事後：提出期限内に必要な書類を作成し提出する。オリエンテーションでの質問事項をまとめておく（Ⅰh）			
Ⅰ0 回	課題の明確化と教育実習の計画（グループディスカッション）					事前：教育実習で学びたい事項を具体的に考えておく（0.5h） 事後：実習計画書を作成する（Ⅰh）			
ⅠⅠ 回	必要書類の作成（2）計画書・オリエンテーション報告書・訪問用案内 地図・お礼状の書き方					事前：各種書類について、分かる範囲で下書きしておく（0.5h） 事後：各種書類の清書（Ⅰh）			
Ⅰ2 回	直前指導（Ⅰ）教育実習Ⅰ					事前：これまでの実習事前指導を振り返って、書類の準備と実習に関する質問をまとめておく（Ⅰh） 事後：直前指導を踏まえて、実習までに不備がないか今一度確認する（0.5h）			

13 回	教育実習事後指導(1) 自己評価、抱負と課題から	事前:幼稚園教育実習Ⅰでの学びを振り返る(0.5h) 事後:自己評価と他者評価から、教育実習Ⅱの課題を設定する(1h)																																			
14 回	直前指導(2) 教育実習Ⅱ	事前:これまでの実習事前指導と教育実習Ⅰを振り返って、書類の準備と実習に関する質問をまとめておく(1h) 事後:直前指導を踏まえて、実習までに不備がないか今一度確認する(0.5h)																																			
15 回	教育実習事後指導(2) 教育実習Ⅰ・Ⅱの振り返りと総括	事前:設定した課題に対し、幼稚園教育実習Ⅱでの学びを振り返る(0.5h) 事後:教育実習全体を通じて、自分が思い描く教諭像を明確にするとともに、目標達成への課題設定を行う(1h)																																			
16 回	定期試験																																				
テキスト	大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018																																				
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 内閣府保育福祉六法 編集委員会「保育福祉小六法」2020																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><td colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</td></tr><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○			到達目標③			○	○						
【到達目標(学修成果)及び観点】																																					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①	○	○	○	○																																	
到達目標②	○	○	○																																		
到達目標③			○	○																																	
評価方法・基準	<table><tr><td colspan="7">【評価方法・基準】</td></tr><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>30%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr></table>		【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			30%		20%		到達目標②			10%		20%		到達目標③			10%		10%	
【評価方法・基準】																																					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①			30%		20%																																
到達目標②			10%		20%																																
到達目標③			10%		10%																																
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div>																																				
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:火曜 12:40~13:10 学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。作成教材については、個別指導のうえ返却する。																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習 保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点																																					
受講生へのメッセージ・その他	学外実習の内規に定める事項に該当する者には実習への参加を認めない。 実習5か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ保育者を目指す者として「先生」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。																																				
実務経験の有無	<div>あり</div> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																																			
		<div>あり</div> ・ なし																																			

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅰ		担当者	徳増全矢・中村真緒・仲森みどり・平野晃子		開講時期	1.2 年 通年	授業形態・ 単位数	演習 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS60103		資格等取得との関連		保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：「保育実習」を通じて、「保育士」として必要となる専門性を学ぶ 到達目標(学修成果)①：実習に必要な心構え等を学び、実習につなげることができる 到達目標(学修成果)②：実習に必要な記録の書き方等を学び、実習では記録を通じて子どもや保育について省察することができる 到達目標(学修成果)③：保育士として必要な職業倫理等を学び、日頃から自覚をもって行動することができる										
授業概要	<p>〈保育所〉</p> <p>保育園での実務経験を持つ教員が、保育所での保育実習前には、実習に向けた自己課題を明確にし、保育所の特性や保育士の仕事、保育所実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方を授業の中で学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p> <p>〈施設〉</p> <p>保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、施設での実習前には、実習に向けた自己の課題を明確にし、施設の特性や施設保育士の仕事、施設実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方の実際を学ぶ。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務についても学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、施設の特性や施設保育士の仕事、子どもや児童についての理解を深める。</p>										
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。									
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他									
		③ 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。									
	◎	④ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。									
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目										
	授業計画					時間外学習					
1 回	オリエンテーション 保育実習における記録と実践の視点(入学前教育をふまえて)					事前：前期の教育実習事前事後指導を受けて、幼稚園と保育所とこども園について復習する(1h) 事後：講義時に指示された書類を作成する(0.5h)					
2 回	保育実習の概要と意義					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第5章1節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
3 回	保育実習の流れと諸手続き					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第6章を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
4 回	保育実習生としての心構え(グループワーク)					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第5章3節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
5 回	実習に向けた書類作成(1)個人票・誓約書他					事前：1年前期に下書きした個人票を確認しておく(0.5h) 事後：必要書類作成(1h)					
6 回	保育実習と乳幼児の理解					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第5章2節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
7 回	保育実習の内容(観察・参加・責任実習)					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第7章2節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
8 回	実習日誌の書き方(子どもの姿・ねらい・活動・記録)					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第8章を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
9 回	指導計画案の作成意義と書き方					事前：『考え、実践する教育・保育実習』第7章4節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					
10 回	実習に向けた自己課題の設定と実習への抱負(グループワーク)					事前：実習園について保育方針や保育課程を調べておく(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)					

11回	実習に向けた書類作成(2) 実習計画書	事前: 自己課題と実習への抱負をまとめておく(0.5h) 事後: 実習計画書の下書きする(1h)
12回	オリエンテーションの意義と受け方	事前: 『考え、実践する教育・保育実習』第6章1節を読む(1h) 事後: 実習先へオリエンテーションのアポイントをとる(0.5h)
13回	実習指導(保育所)のまとめ	事前: 実習指導ノートをまとめ復習しておく(1h) 事後: 実習前の準備について確認する(0.5h)
14回	保育所実習事後指導(1) 自己評価、抱負と課題から	事前: 保育所実習を振り返り感想をまとめる(1h) 事後: 配布されたシートを記入する(0.5h)
15回	保育所実習事後指導(2) グループ討議と今後に向けての課題	事前: グループ討議に向けて実習園の保育の特徴や子どもや保育士から学んだことをまとめておく(1h) 事後: 保育実習Ⅱに向けて今後の課題をまとめる(0.5h)
16回	施設実習の意義と実習先の選定	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.8～pp.15 を読む(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
17回	施設実習先の理解(1) 乳児院	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.16～pp.29 を読む(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
18回	施設実習先の理解(2) 児童養護施設	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.38～pp.47 を読む(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
19回	施設実習先の理解(3) 知的障害児・者施設	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.48～pp.58 を読む(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
20回	施設実習への心構え	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.90～pp.105 を読む(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
21回	施設実習に向けての書類作成	事前: 下書きした個人票を確認しておく(0.5h) 事後: 必要書類作成(1h)
22回	施設実習の内容(1) 観察・参加実習	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.106～pp.115 を読む(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
23回	施設実習の内容(2) 責任実習	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』を読み返す(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
24回	施設実習における留意事項	事前: 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』を読み返す(0.5h) 事後: テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
25回	施設実習における記録の書き方(1) 子どもの理解	事前: 1 年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後: 記録の書き方をもとに書いてみる(1h)
26回	施設実習における記録の書き方(2) 保育士の動き	事前: 1 年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後: 記録の書き方をもとに書いてみる(1h)
27回	施設実習における指導計画案作成について	事前: 1 年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後: 指導案を立案してみる(1h)
28回	施設実習事後指導(1) 実習報告書の作成	事前: 施設実習を振り返り感想をまとめる(0.5h) 事後: 配布された報告書を記入する(1h)
29回	施設実習事後指導(2) 実習評価に基づく振り返り	事前: 施設実習を振り返り自己評価を行う(0.5h) 事後: 実習評価から自己課題を見つめる(1h)
30回	施設実習事後指導(3) 保育者としての自己課題	事前: 実習評価から自己課題をまとめる(0.5h) 事後: 今後の課題をまとめる(1h)
テキスト	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2020 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 2023 改訂版発行 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018	

参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																																		
到達目標（学修成果）及び観点	【到達目標（学修成果）及び観点】 <table border="1"> <tr> <th>到達目標（学修成果）及び観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>技能・表現</th><th>その他（ ）</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> </table>							到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①		○	○			到達目標②		○	○	○		到達目標③	○	○		○					
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																														
到達目標①		○	○																																
到達目標②		○	○	○																															
到達目標③	○	○		○																															
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <tr> <th>評価方法・到達目標（学修成果）</th><th>定期試験 （筆記試験・実技試験）</th><th>小テスト</th><th>課題・提出物・レポート</th><th>発表・実技</th><th>取り組み姿勢</th><th>その他（ ）</th></tr> <tr> <td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr> <tr> <td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr> </table> <p>ノートや課題等の提出物は、期限内に提出することを前提とし、質・量の両面から判断する</p> <p>取り組み姿勢は、授業の参加度から評価する</p> <p>なお、学外実習の内規に定める事項に抵触する者には実習への参加を認めない</p> <p>ルーブリック評価：<input type="checkbox"/>取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>							評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）	到達目標①			20%		20%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			20%		20%	
評価方法・到達目標（学修成果）	定期試験 （筆記試験・実技試験）	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）																													
到達目標①			20%		20%																														
到達目標②			10%		10%																														
到達目標③			20%		20%																														
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：各担当教員のオフィスアワーに対応する。 学習成果のフィードバック：ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。作成教材については、個別指導のうえ返却する。																																		
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育実習/保育実習指導Ⅰ																																		
授業評価アンケート結果を受けての改善点																																			
受講生へのメッセージ・その他	学外実習内規の事項に抵触する者は実習の参加を認めない。履修する学生は保育者を目指す者として実習5か条を遵守し、謙虚にそして誠実に、「先生」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。																																		
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<input type="checkbox"/> あり ・ なし																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習Ⅰ		担当者	田中裕子・渡辺ユリナ		開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	実習Ⅰ単位
卒業要件		ナンバリング	CS60104		資格等取得との関連	幼稚園：必修					
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:幼稚園教諭として必要とされる基礎的知識・技術について実践的に考える 到達目標(学修成果)①:幼稚園や幼稚園教育に関してイメージできる。 到達目標(学修成果)②:子どもの動きや遊びの様子など、観察を通じて学び、子どもの心情を考察することができる。 到達目標(学習成果)3:幼稚園教諭の役割等似ていて、観察を通じて理解し幼稚園教育実習Ⅱに向けて学びを構築することができる。										
授業概要	本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により指導する。大学での幼児教育に対する理論や技術を基盤として、Ⅰ年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの活動、遊びの姿、幼稚園教諭の役割を観察、あるいは保育活動に参加し記録を取りながら、「保育の展開と方法」、「保育の環境構成と整備」、「保育者の役割」について学修する。										
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。									
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、 他 ③ 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。									
	◎	④ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。									
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目										
	授業計画						時間外学習				
	以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。 Ⅰ年次 10 月下旬 1 週間 ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習（1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ） ・参加実習（幼児の理解、幼児の生活等、幼稚園教諭の補助的なかわりから学ぶ）						事前:幼稚園教育実習事前事後指導をとおして、教育実習に向けて自己課題を明確にする。 また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。 事後:実習期間中の事後学習は、日誌への記入をもって行う。 実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について今後の実習に向けて自己学習や受講することにより修得する。				
テキスト	大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018										
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018										
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】										
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()					
	到達目標①	○		○	○						
	到達目標②		○	○							
	到達目標③			○	○						
評価方法・基準	【評価方法・基準】										
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()				
	到達目標①			20%		20%					
	到達目標②			10%		10%					
	到達目標③			20%		20%					
	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <div>取り入っていない</div>										

学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談:実習期間の前後に別に日程を定める。</p> <p>学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。</p>		
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	<p>幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習</p> <p>保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目</p>		
授業評価アンケ ート結果を受け ての改善点	幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱは2年通しての授業となるため、アンケートはⅡが終わってからになる。		
受講生へのメッ セージ・その他	<p>学外実習の内規の事項に接触するものは実習への参加が認められない。</p> <p>実習生として謙虚に、保育者として子ども達の手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。</p>		
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅰ	担当者	徳増全矢・仲森みどり・ 中村真緒・平野晃子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 4単位
卒業要件		ナンバリング	CS60201	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：実習を通して、保育士として必要な知識・技術・マインドを学ぶ 到達目標（学修成果）①：講義、演習などを通して、基礎的な知識や技術について学んできたことを、保育所や児童福祉施設の実践に携わることによって、体験的に保育に必要な事項を考え、知識や技術の取得向上に結びつけることができる（保育所・施設） 到達目標（学修成果）②：乳幼児の心身の発達や発育を理解し、実習先の保育方針や1日の生活の流れを踏まえて、保育士としてかわることができる（保育所） 到達目標（学修成果）③：社会的養護の現状を理解し、施設を利用する子どもたちの特徴を踏まえて、施設保育士としてかわることができる（施設）								
授業概要	【保育実習Ⅰ（保育所）】 講義、演習などで学習した理論や技術をもとに、保育所において乳幼児や職員と直接触れ合う体験を通して、保育の基本的な有り様の理解を目標とする。保育実習Ⅰでは、主に「乳幼児の理解と関わり」「保育所の特性」「保育の計画と準備」について、観察実習、参加実習、部分実習において学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。 【保育実習Ⅰ（施設）】 保育所以外の児童福祉施設等における養護や、自立支援の実践について現場での実習を通して体験的に学ぶ。施設の目的・機能を理解し、適切な援助方法を学ぶ。様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。子どもの言葉や行動を観察し、観察内容を適切に考察し、実習記録の書き方を学ぶ。以上の事柄を通して、施設保育士の倫理・職務等についても理解を深め、それに関わる資質・能力・技術を習得し、必要とされる能力を養う。								
ディプロマポリシー （DP）と到達目標（学修成果） との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎＝DP 達成のために特に重要な項目 ○＝DP 達成のために重要な項目 △＝DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
	以下の点について実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。 〈保育所〉 1年次2月 保育所における実習 おおむね 10 日間 ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習（実習1日目～3日目） → 1日のクラスの流れ、乳幼児の活動や生活の流れ、保育士の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ ・参加実習（実習4日目～8日目） → 乳幼児の理解、乳幼児の生活等、保育士の補助的なかわりから学ぶ ・責任実習（実習9日目～10日目） → 観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する 〈施設〉 2年次8・9月 保育所以外の児童福祉施設等 おおむね 10 日間 ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 ・観察実習（実習1日目～3日目） → 1日の流れ、子どもの生活について観察を通して学ぶ ・参加実習（実習4日目～7日目） → 施設を利用する子どもたちの理解、施設保育士の補助的なかわりから学ぶ					〈保育所〉 事前：実習指導を通して、保育所実習に向けて自己課題を明確にする。また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備を行う。 事後：実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。 実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について保育実習Ⅱに向けて自己学習や受講することにより修得する。 〈施設〉 事前：実習指導を通して、施設実習に向けて実習目標および自己課題を明確にする。施設から事前に課題が明らかとなった場合、早急に準備を進める。 事後：実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。 実習終了後の事後学習は、実習を振り返り、明確となった課題について自己学習や講義を受講することによって修得する。			

	・指導実習（実習8日目～9日目） → 観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する																														
テキスト	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2020 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 2023 改訂版発行 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2018																														
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい 2020																														
到達目標（学修成果）及び観点	<table><tr><td>到達目標（学修成果）及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>			到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）																										
到達目標①	○	○	○	○																											
到達目標②	○	○	○	○																											
到達目標③	○	○	○	○																											
評価方法・基準	<table><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他（ ）</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>50%(保・施)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>25%(保育所)</td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>25%(施設)</td></tr></table> <p>課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするとともに、質、量の両面から判断する。</p> <p>また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。</p> <p>学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加が認められない。</p> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・取り入れていない</p>			評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）	到達目標①			50%(保・施)				到達目標②						25%(保育所)	到達目標③						25%(施設)
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（ ）																									
到達目標①			50%(保・施)																												
到達目標②						25%(保育所)																									
到達目標③						25%(施設)																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:実習期間の前後に別に日程を定める。 学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。																														
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習Ⅰ																														
授業評価アンケート結果を受けての改善点																															
受講生へのメッセージ・その他	実習生として謙虚に、保育者としてこどもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。 学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加を認めない。																														
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ なし																											

科目区分	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	担当者	田中裕子・渡辺ユリナ	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	実習3単位
卒業要件		ナンバリング	CS60202	資格等取得との関連	幼稚園：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ:幼稚園教諭として必要な資質・なる知識・技術の修得をめざす 到達目標(学修成果)①:子どもの姿や幼稚園教諭のあり方について理解を深め、実践することができる。 到達目標(学修成果)②:指導案の立案・実施について理解し実践することができる。 到達目標(学修成果)③:幼稚園教諭としての職業倫理について学び、自覚をもって行動することができる。								
授業概要	本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により指導する。 幼稚園教育実習Ⅰでの学習を基盤として、2年前期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの動きや遊びへの関わり、幼稚園教諭の役割をさらに理解するため、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他 ③ 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	④ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
	以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。 2年次 6月 3週間 第1週 ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習（1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等） 第2週 ・参加実習（遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解） 第3週 ・参加実習（遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解） ・責任実習（部分実習、半日実習、全日実習等、担当教諭に代わり、担当クラスにおける指導計画を立案、作成し、保育を実施する。）					事前:幼稚園教育実習Ⅰで明らかとなった自己課題について、準備または学習を深めておく。 また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。 事後:実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。 実習終了後の事後学習は、教育実習全体を振り返り総合的に省察する。			
テキスト	大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018								
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 内閣府保育福祉六法 編集委員会「保育福祉小六法」20								
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】								
評価方法・基準	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()			
	到達目標①	○		○	○				
	到達目標②		○	○					
	到達目標③			○	○				
ルーブリック評価									

	【評価方法・基準】					
	評価方法・到達 目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢 その他 ()
	到達目標①			10%	10%	10%
	到達目標②			10%	10%	20%
	到達目標③			10%	10%	10%
	<p>課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするとともに、質・量の両面から判断する。</p> <p>また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。</p> <p>ルーブリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>					
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談：実習期間の前後に別に日程を定める。</p> <p>学習成果のフィードバック：事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。</p>					
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	<p>幼稚園：教育実践に関する科目/教育実習</p> <p>保育士：保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目</p>					
授業評価アンケ ート結果を受け ての改善点	<p>3 週間の実習は大変だったが、自身を成長できる経験だったという感想が多かった。</p> <p>実習の教材等の準備はよくできていたが、体調管理についてもしっかり指導をしていきたい。</p>					
受講生へのメッ セージ・その他	<p>学外実習の内規の事項に接触するものは実習への参加が認められない。</p> <p>実習生として謙虚に、保育者としてこどもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。</p>					
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり ・ なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅱ	担当者	徳増全矢・中村真緒		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件		ナンバリング	CS60203	資格等取得との関連	保育士：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：保育について実践を中心に応用的・総合的に学ぶ。 到達目標(学修成果)①：保育の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育について総合的なイメージができる。 到達目標(学修成果)②：既習の教科や実習での経験を踏まえ、保育実践力を培い、実習に向けて活かすことができる。 到達目標(学修成果)③：実習の事後指導を通して、実習の統括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。									
授業概要	保育実習Ⅱに向け、新たな自己課題を立て、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。実習前には、保育実習Ⅰを振り返って、乳幼児の生活や遊びの姿、保育士の仕事や乳幼児に対する関わりなど保育実践の実践について整理する。記録や提出書類の書き方や教材研究の実践に加え、指導計画の立案準備をする。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習				
Ⅰ 回	オリエンテーション 実習時期及び実習先の確認					事前：実習を希望する園を確認する。(0.5h) 事後：学外実習に関する調査書を記入する。(1h)				
2 回	実践演習①(乳児を対象とした絵本の読み聞かせ) (プレゼンテーション演習)					事前：乳児を対象とした絵本を探しておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
3 回	実践演習②(幼児を対象とした絵本の読み聞かせ) (プレゼンテーション演習)					事前：幼児を対象とした絵本を探しておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
4 回	実践演習③(言葉がけの研究)(グループワーク)					事前：実習を振り返り、言葉がけの課題を明確にしておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
5 回	実習書類作成					事前：実習に必要な書類を確認しておく。(0.5h) 事後：実習に必要な書類を作成する。(1h)				
6 回	実習計画書の作成					事前：これまでの実習から、自身の課題を明確にしておく。 (0.5h) 事後：実習計画書を作成する。(1h)				
7 回	実習日誌の書き方 ― 保育実習Ⅰをふまえて―					事前：これまでの実習の課題を明確にしておく。(0.5h) 事後：授業内容を復習する。(1h)				
8 回	事例の検証① 0・1・2 歳児とのかかわり					事前：0・1・2 歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。 (0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
9 回	事例の検証② 3 歳児とのかかわり					事前：3歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。 (0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
10 回	事例の検証③ 4 歳児とのかかわり					事前：4歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。 (0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
11 回	事例の検証④ 5 歳児とのかかわり					事前：5歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。 (0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
12 回	課題の確認と指導計画案の作成					事前：指導計画案の参考となる文献を用意する。(1h) 事後：指導計画案を作成する。(1h)				

13 回	実習直前指導	事前:実習の日々の目標を明確にしておく。(0.5h) 事後:チェックリストを用いて実習の確認を行う。(1h)					
14 回	保育実習Ⅱ事後指導① 自己評価、抱負と課題から	事前:保育実習Ⅱでの学びを振り返る。(0.5h) 事後:保育実践における自身の課題を明確にする。(1h)					
15 回	保育実習Ⅱ事後指導② 全体のふり返り (ディスカッション)	事前:これまでの保育実習を振り返り、課題の設定と自己評価について検討しておく。(0.5h) 事後:今後の自身の目標を設定する。(1h)					
16 回							
テキスト	厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 必要に応じて授業内で資料を適宜配布する。						
到達目標(学修成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○	○	○		
	到達目標②		○	○	○		
	到達目標③		○	○	○		
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			30%		10%	
	到達目標②			30%		10%	
	到達目標③			10%		10%	
ノートや課題等の提出物は、期限内に提出することを前提とし、質・量の両面から判断する。 取り組み姿勢は、授業の参加度から評価する。 なお、学外実習の内規に定める事項に抵触する者には実習への参加を認めない。 ルーブリック評価: <div>取り入れている</div> ・ 取り入っていない							
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:担当教員のオフィスアワーを確認すること。 学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。また、必要な場合は個別面談を行う。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	保育実習は2回目となりますので、2回目ならではの視点を取り入れていきます。また、保育実習Ⅰでのそれぞれの課題を自覚できるようにし、更なる実践力を身に付けられるような授業内容とします。						
受講生へのメッセージ・その他	学外実習内規に抵触する者は実習への参加を認めない。履修する学生は保育者を目指す者として実習5か条を遵守し、謙虚にそして誠実に、「保育者」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。						
実務経験の有無		<div>あり</div> ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<div>あり</div> ・ なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅱ		担当者	徳増全矢・中村真緒		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	実習 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS60204		資格等取得との関連		保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	テーマ：保育士として必要な知識・技術・マインドについて実習を通して学ぶ。 到達目標（学修成果）①：保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践をとおして理解を深め、イメージできる。 到達目標（学修成果）②：保育及び保護者支援について既習の教科や実習をふまえ実践的に学ぶことで、子どもの観察やかかわりの視点を明確にできる。 到達目標（学修成果）③：保育士としての自己課題を明確化できる。										
授業概要	保育実習Ⅰをもとに、その内容を深めながら、「保育の展開と方法」「保育の環境構成と整備」「保育士の職務と役割」について、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。										
ディプロマポリシー （DP）と到達目標 （学修成果） との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。									
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。									
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。									
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目										
	授業計画							時間外学習			
	以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。 2 年次 10 月 2 週間 ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習(1 日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、保育士の活動の流れ、環境構成等、観察を通じて学ぶ) ・参加実習(乳幼児の理解、乳幼児の生活等、保育士の補助的なかわりから学ぶ) ・責任実習(可能であれば責任実習もしくは部分実習を行う)							事前：これまでの実習と保育実習指導Ⅱを通して、保育実習Ⅱに向けて自己課題を明確にしておく。実習に備え、保育教材の準備や練習を行う。 事後：実習期間中の事後学習は、日誌の記入をもって行う。実習終了後の事後学習については、これまでの課題や今回の実習をふまえ、自己学習をすることにより修得する。			
テキスト	厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年										
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】										
到達目標（学修 成果）及び観点	【到達目標（学修成果）及び観点】										
	到達目標（学修 成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）					
	到達目標①	○	○	○	○						
	到達目標②	○	○	○	○						
	到達目標③	○	○	○	○						
評価方法・基準	【評価方法・基準】										
ルーブリック評価	評価方法・到達 目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)		小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()			
	到達目標①				10%		10%	10%			
	到達目標②				10%			30%			
	到達目標③				10%		10%	10%			
	課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするとともに、質、量の両面から判断する。										

	<p>また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。</p> <p>学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加が認められない。</p> <p>ルーブリック評価：取り入れている ・ <input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談：実習期間の前後で別に日程を定める。</p> <p>学修成果のフィードバック：事後に希望者へは総合的評価を伝える。</p>		
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	保育士：保育実習/保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ		
授業評価アンケ ート結果を受け ての改善点	保育実習は 2 回目となりますので、2 回目ならではの視点を取り入れていきます。また、保育実習Ⅰでのそれぞれの課題を自覚できるようにし、更なる実践力を身に付けられるような授業内容とします。		
受講生へのメッ セージ・その他	保育現場から貴重な時間を提供していただいているという視点をもって、謙虚に取り組むこと。また、保育者として子どもたちの手本となるよう自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加を認めない。		
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅲ	担当者	仲森みどり・平野晃子	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ 単位
卒業要件		ナンバリング	CS60205	資格等取得との関連	保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：児童福祉施設（児童館、放課後児童館クラブ含）における保育について、総合的に学ぶ。 到達目標(学修成果)①：児童福祉施設（児童館、放課後児童館クラブ含）および児童厚生員の機能と役割を説明できるようになる。 到達目標(学修成果)②：乳幼児や児童、その保護者への関わり方を修得できるようになる。 到達目標(学修成果)③：対象者にあわせた指導案を立案することができるようになる。								
授業概要	保育実習Ⅲの新たな自己課題に向けて、援助計画を立てて養護の実践を実践する際に必要な児童厚生員としての資質・能力・技術が習得できるように、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。子どもの家族とのコミュニケーションや地域への理解・連携の方法を学ぶことを通して、子育て支援、保護者に対する支援への理解を基に保育実習Ⅰを通して学んだことをさらに理論化していく。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、児童厚生員の特性や業務についての理解を深める。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進捗を深める。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
Ⅰ 回	オリエンテーション					事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。 (0.5h)			
2 回	児童館・児童厚生員の役割					事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。 (0.5h)			
3 回	実習の心構えと目的					事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。 (0.5h)			
4 回	実習計画書および実習課題					事前：実習計画を考える(0.5h) 事後：実習計画書を読み返す(0.5h)			
5 回	学外活動 ※フィールドワーク型授業					事前：活動先の概要を調べる(0.5h) 事後：活動の振り返りをまとめる(0.5h)			
6 回	外部講師 大型児童館の機能と役割、実践活動					事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：講演の内容をノートにまとめる(0.5h)			
7 回	夏期における大型児童館実習直前指導 実習に向けての準備					事前：実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習において準備する(0.5h)			
8 回	夏期における大型児童館実習の振り返り ※プレゼンテーション、グループワーク授業					事前：大型児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後：振り返りをもとにノートにまとめる(0.5h)			
9 回	外部講師 地域児童館の機能と役割、実践活動					事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：講演の内容をノートにまとめる(0.5h)			
10 回	地域児童館実習の直前指導 実習計画および課題の確認					事前：実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習計画書を読み返す(0.5h)			
11 回	地域の児童館実習の振り返り ※プレゼンテーション、グループワーク授業					事前：児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後：振り返りをもとにノートにまとめる(0.5h)			

12回	外部講師 児童厚生員からみた地域子育て支援	事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：講演の内容をノートにまとめる(0.5h)																																			
13回	冬期における大型児童館直前指導 実習計画および課題の確認	事前：実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習において準備する(0.5h)																																			
14回	冬期における地域の児童館実習の直前指導 実習計画および課題の確認	事前：実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習計画書を読み返す(0.5h)																																			
15回	冬期における大型児童館および地域の児童館実習の振り返り ※プレゼンテーション、グループワーク授業	事前：大型児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後：振り返りをもとにノートにまとめる(0.5h)																																			
16回																																					
テキスト	・文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018 ・守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『改定版施設実習 パーフェクトガイド』(保育実習指導Ⅰ(施設実習で使用)にて購入の指示あり) ・大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2023 年初版第4刷発行(保育実習指導Ⅰにて購入の指示あり)																																				
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019 『児童館論』児童健全育成推進財団編集・発行、2015 『健全育成論』児童健全育成推進財団編集・発行、2014 『安全指導・安全管理』児童健全育成推進財団編集・発行、2017																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<table><tr><th colspan="6">【到達目標(学修成果)及び観点】</th></tr><tr><td>到達目標(学修成果)及び観点</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>技能・表現</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		【到達目標(学修成果)及び観点】						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②			○			到達目標③	○	○								
【到達目標(学修成果)及び観点】																																					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①	○																																				
到達目標②			○																																		
到達目標③	○	○																																			
評価方法・基準	<table><tr><th colspan="7">【評価方法・基準】</th></tr><tr><td>評価方法・到達目標(学修成果)</td><td>定期試験 (筆記試験・実技試験)</td><td>小テスト</td><td>課題・提出物・レポート</td><td>発表・実技</td><td>取り組み姿勢</td><td>その他()</td></tr><tr><td>到達目標①</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標②</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標③</td><td></td><td></td><td>10%</td><td></td><td>20%</td><td></td></tr></table> ループリック評価： 取り入れている ・ <div>取り入れていない</div>		【評価方法・基準】							評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			10%		20%	
【評価方法・基準】																																					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①			20%		10%																																
到達目標②			20%		20%																																
到達目標③			10%		20%																																
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック：授業の中で指示する。																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育実習/保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点																																					
受講生へのメッセージ・その他	実習 5 か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ児童厚生員を目指す者として子どもの手本となる自覚をもって受講することを期待します。																																				
実務経験の有無	あり ・ <div>なし</div>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり ・ <div>なし</div>																																		

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅲ	担当者	仲森みどり・平野晃子		開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	実習 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS60206	資格等取得との関連	保育士：選択必修・児童厚生員 2 級：必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：実習を通して、児童厚生員として必要な知識・技術・マインドを学ぶ。 到達目標(学修成果)①：児童福祉施設（児童館、放課後児童クラブ等）の役割や機能について実践を通して理解し説明できるようになる。 到達目標(学修成果)②：地域の子育て支援の役割等について理解し説明できるようになる。 到達目標(学修成果)③：児童厚生員の業務内容や、職業倫理について具体的な実践に結びつけることができるようになる。									
授業概要	児童福祉施設（児童館、放課後児童クラブ等）の養護全般に参加し、様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。また、施設保育士の倫理・職務等について理解する。さらに、子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得し、地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。以上の事柄をとおして、児童厚生員として必要な資質・能力・技術を習得させ、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズを理解させるとともに、地域の子育て支援に必要とされる能力を養うことを目的とする。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画						時間外学習			
	以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習先職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。また、実習前後にてグループワークやプレゼンテーションを用いて実習振り返り・まとめを行う。 〈大型児童館〉 7 月におおむね 2 日間、三重県立みえこどもの城にて実習を実施する。 ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 〈地域児童館〉 8 月・11 月～12 月におおむね 8 日間、三重県内における児童館等にて実習を実施する（児童館まつりを含む）。 ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 ・観察実習 （一日の流れ、利用児童の活動、児童厚生員の業務を学ぶ） ・参加実習 （児童厚生員の補助的なかわりから利用児童および保護者対応を学ぶ） ・責任実習 （観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する）						事前：実習指導を通して、児童館実習に向けての自己課題を明確にする。また、オリエンテーションにおいて課題が明らかになった場合には、早急に準備を進める。 事後：実習期間中の事後学習は、日誌に記入をもって行う。実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について、自己学習や関連講義を受講するなどによって修得する。 事前・事後学習はそれぞれ適宜 2 時間以上実施する。			
テキスト	・守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 改定版施設実習 パーフェクトガイド(保育実習指導Ⅰ「施設実習で使用」)にて購入の指示あり) ・大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著 『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』 中央法規 2023 年 初版第 4 刷発行(保育実習指導Ⅰにて購入の指示あり)									
参考書・参考資料・参考 URL・ 準備物など	【購入を必須としないもの】 花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018									

到達目標（学修成果）及び観点	【到達目標（学修成果）及び観点】						
	到達目標（学修成果）及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他（ ）	
	到達目標①	○					
	到達目標②	○					
	到達目標③			○	○		
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他（実習先からの評価）
	到達目標①			40%			20%
	到達目標②						20%
	到達目標③						20%
評価方法・基準	ループリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：実習期間の前後に別に日程を定める 学習成果のフィードバック：事後面談において行う						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育実習/保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ						
授業評価アンケート結果を受けての改善点							
受講生へのメッセージ・その他	実習生として謙虚に、児童厚生員として子どもたちの手本となり得るよう、自覚と責任をもって実習に臨むことを期待します。						
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<input type="checkbox"/> あり ・ なし	

科目区分	専門教育科目	科目名	子育て支援演習	担当者	田中裕子・中村真緒	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS60207	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	テーマ：子育て支援の必要性と役割について理解する 到達目標(学修成果)①：地域における子育ての実情を理解して、子育て支援の必要性や、その方法及び内容について説明ができる 到達目標(学修成果)②：通常の保育と子育て支援の違いについて理解し、子育て支援活動にふさわしい環境構成について理解し、具体的な指導計画を立案することができる。 到達目標(学修成果)③：子育て支援ルームでの実践を通して、地域の乳幼児と触れ合って遊ぶことができる。								
授業概要	子育て広場指導員、幼稚園園長の実務経験をもつ教員が、実際の保育現場で行われている子育て支援の実践事例を教材として使用し、子育て支援に求められている社会的役割やそこに従事している保育者の役割について理解する。この授業では、実際に本学子育て支援ルームの子どもたちや保護者と関わったり、指導計画立案、実践、振り返りをし、子育て支援員としての基本的技術のあり方や保育者が行う子育て支援について学んでいく。								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 子育てをめぐる現代的課題				事前：「子育て支援」について調べておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
2回	保育所における子育て支援の意義				事前：「保育所保育指針解説 第4章 子育て支援」を読んでもくる(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
3回	保育と一体になった子育て支援の独自性とその構造				事前：事例を読んでもくる(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
4回	子育て支援の基本① グループワークをする				事前：事例を読んでもくる(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
5回	子育て支援の基本② グループワークをする				事前：事例を読んでもくる(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
6回	子育て支援における環境構成①				事前：保育の場における環境の意味について調べておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
7回	子育て支援ルームにおける実習①11月19日				事前：実践の練習をグループでしておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
8回	学外施設訪問				事前：支援者の役割りとは何か、考えておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
9回	子育て支援委員(外部講師)の話を聴く				事前：子育て支援員に質問したいことをまとめておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
10回	子育て支援における環境構成②				事前：保育の場における環境の意味について調べておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
11回	子育て支援ルームにおける実習②12月17日				事前：実践の練習をグループでしておく(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				
12回	連絡帳を通した子育て支援①				事前：連絡帳を作成してくる(0.5h) 事後：振り返りシートを作成する(0.5h)				

13 回	子育て支援における環境構成③	事前:保育の場における環境の意味について調べておく (0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)					
14 回	子育て支援ルームにおける実習③1 月 14 日	事前:実践の練習をグループでしておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)					
15 回	まとめ 子育て支援における支援者の役割り 実践レポート作成:交流、まとめ	事前:15 回の授業を振り返り、保育者に求められる子育て支 援の在り方についてまとめておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)					
16 回	定期試験						
テキスト	未定						
参考書・参考資 料・参考 URL・ 準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省「保育所保育指針解説(2018)」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説(2018)」フレーベル館 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018)」フレーベル館						
到達目標(学修 成果)及び観点 評価方法・基準 ルーブリック評価	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修 成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○					
	到達目標②	○					
	到達目標③		○	○	○		
	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達 目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	25%		10%			
	到達目標②	25%					
	到達目標③			10%	20%	10%	
ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:「振り返りシート」またはオフィスアワーにて対応する 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する						
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/子育て支援						
授業評価アンケ ート結果を受け ての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッ セージ・その他	・本科目は卒業必修です。 ・身近な子育て支援について知る努力をすること。 ・子育て支援ルームでの実践が多いので、実習と同じ心構え、服装で臨むようにして下さい。						
実務経験の有無		<input type="checkbox"/> あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり ・ なし	